甲府市文化財調査報告 33

甲府城下町遺跡III

―甲府市丸の内２丁目ホテル建設に伴う発掘調査報告書―

2006

株式会社　ダ　イ　タ
甲府市教育委員会

序

16世紀前半甲斐国守護である、武田信虎が躑躅ヶ崎の地に館を構えたことにより甲府の発展ははじまります。武田氏滅亡後の16世紀末、豊臣秀吉により天下統一がなされたことを画期として、甲斐国においても豊臣政権と関東の徳川氏の二大勢力が拮抗する要所として、加藤光泰・浅野長政ら豊臣恩顧の大名により、一条小山を中心に高石垣の甲府城が築城されました。東国では数少ない高石垣の城郭であり、内堀・二の堀・三の堀に及ぶ、三重の堀に囲まれた近世城下町が誕生したのです。この400年前に整備された城下町の町割りと小路が、江戸時代から現代まで400年以上にわたり連綿と受け継がれております。

本書は、平成16年に行われた甲府駅南口におけるホテル建設に伴う発掘調査の報告書であります。現在は甲府のメインストリートである平和通りに面する甲府市街地中心部でありますが、古絵図によりますと甲府城柳御門の西側に位置し、「馬場」・「普請方定小屋」など甲府城の関連施設が置かれておりました。調査では中世から近代までの遺構・遺物が多数検出されました。特に、近世甲府城下町が建設される以前の中世の遺構が多数確認されたことと、都市機能として重要な上水施設が確認されたことは、都市甲府の発展の変遷過程を研究する上で極めて重要な意味を持つものと考えられます。本書が甲府城下町研究の一助となるとともに、21世紀のまちづくりに活用されることを期待いたします。

最後になりましたが、調査にあたり埋蔵文化財行政に御理解と多大なる御協力を賜りました、株式会社ダイタ及び関係者各位に衷心より御礼申し上げるとともに、今後とも御協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2006年３月

甲府市教育委員会
教育長　角　田　智　重

例　　言

1．本書は、山梨県甲府市丸の内２丁目21－２における、甲府城下町遺跡の発掘調査報告である。

2．本調査は、ホテル建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査である。甲府市教育委員会が、地権者である株式会社ダイタとの協議に基づき、契約を締結して実施した。

3．調査経費は、事前の試掘調査を甲府市教育委員会が、本調査については地権者である株式会社ダイタが負担した。

4．調査期間は、試掘調査を平成16年10月４日から11月18日まで実施し、本調査を同年11月22日から12月28日までの約１ヶ月間行った。

5．試掘調査及び本調査は、志村憲一（文化財主事）が担当した。

6．本書の執筆は志村が担当した。

7．本書の編集は、原　正邦（文化スポーツ課長）を責任者として、志村が行った。

8．発掘調査における基準点の測量及び基準杭の設定は、昭和測量株式会社が行った。

9．出土した木製品の保存処理は、財団法人山梨文化財研究所が行った。

10．本書の挿図・図版は、清水秀樹・中村里恵（以上２名嘱託職員）、大塚敦子・栗田かず子・鈴木由香・佐野香織・内藤真千子・中川美千子・西久保民子・平賀早苗・梶原　薫が作成した。

11．本書に係る出土遺物及び記録図面・計測データ・写真等は、甲府市教育委員会で保管している。

12．発掘調査・整理作業及び報告書作成に際して、次の関係機関及び諸氏から、ご教示・ご高配を賜った。ここに記して厚く感謝を申し上げたい。　（順不同・敬称略）

飯田文弥　出月洋文　植月　学　笹本正治　高橋　修　田代　孝
中山誠二　中山智恵　新津　健　西川広平　畑　大介　羽中田壯雄
森原明廣　吉岡弘樹　宮里　学　甲府刑務所　財団法人柳沢文庫

13．発掘調査参加者（敬称略）

大塚敦子　荒木昭彦　池谷富士子　上島光子　岡　悦子　金井いく代
岸本美苗　久保田明義　倉田勝子　小池孝男　小池幹子　佐田金子
坂本しのぶ　清水英二郎　菅沼芳治　武井美知子　長沢晴雄　中川美千子
中村孝一　波木井祥和　花曲敬子　平賀早苗　古屋袈裟男　渡辺　茂
渡邉百合子

14．職場体験参加者（敬称略）

藤嶺学園藤沢中学校　柿原　豪（教諭）　北村康悟　藤井春樹

凡　　例

1．本書中の遺構名・遺物番号は、現場において形状・検出状況に応じて付したものを、本書作成の際に通し番号に改めたものである。

2．本書中の方位は、磁北を示している。

3．本書中の地図は、甲府市発行 1/2,500、1/10,000、国土地理院発行 1/50,000「甲府」を使用した。

4．全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。

5．挿図中のＥ・Ｗ・Ｓ・Ｎは、東・西・南・北を表す。

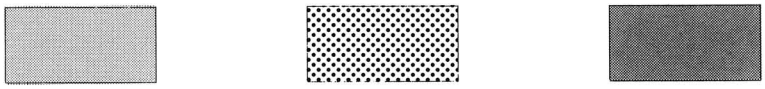
6．遺構図の縮尺及び方位は各図面上に表示している。

7．遺構断面図・土層図は各図に標高を表示した。

8．土層説明及び遺物の色調の土色表示は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』（1997後期版）を使用した。

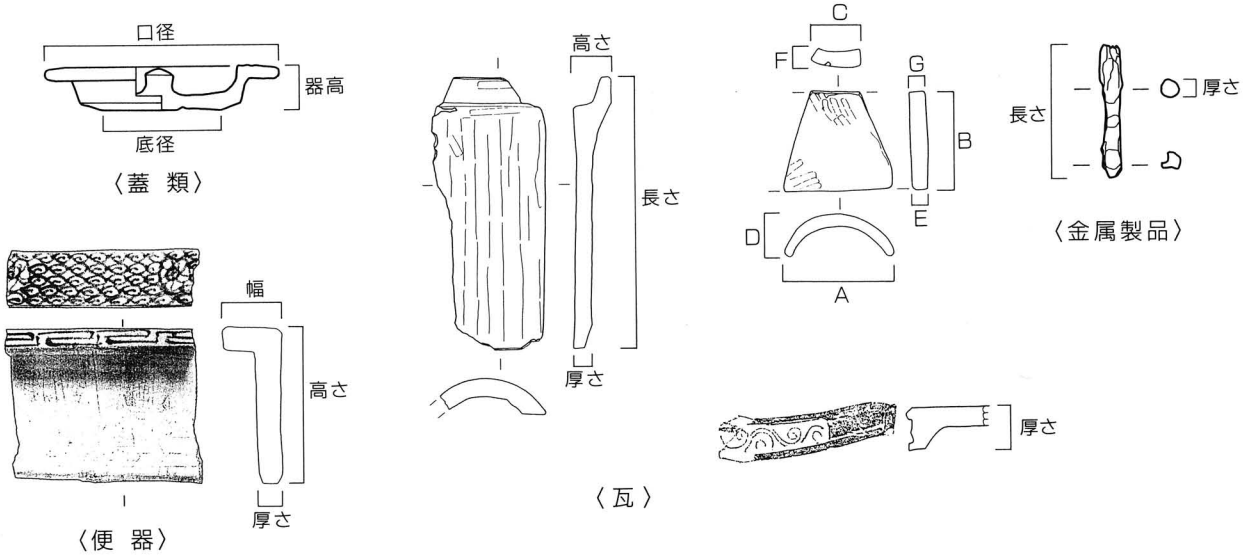
9．実測図内のスクリーントーン指示は以下のとおりであるが、部分的に指示を個々の図面に示したものもある。

10．遺物の計測部位については以下のとおりである。



木製品　　石　　炭化物

計　測　値



目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
挿図・挿表目次

第１章　遺跡の環境 …… 1

第２章　調査の概要
第１節　調査に至る経緯 …… 2
第２節　調査方法 …… 2
第３節　層序 …… 2
第４節　調査経過 …… 3

第３章　遺構と遺物
第１節　建物跡 …… 5
第２節　溝 …… 8
第３節　馬場跡（１・２号暗渠） …… 14
第４節　ピット列、柱穴列 …… 14
第５節　石列 …… 16
第６節　井戸 …… 18
第７節　土坑 …… 22
第８節　埋甕 …… 24
第９節　上水施設 …… 25
第10節　出土遺物 …… 26

第４章　ま　と　め …… 45～46

【挿図目次】
図１　甲府城下町遺跡周辺の遺跡分布
図２　調査区位置図 …… 4
図３　試掘トレンチ・本調査区位置及びグリッド配置図 …… 4
図４　基本土層図 …… 4
図５　１号建物 …… 6
図６　２号建物 …… 7
図７　１～３・12・13号溝 …… 9
図８　７号溝、３号石列 …… 11
図９　14号溝 …… 13
図10　16・17号溝、１・２号ピット列、１・２号暗渠 …… 15
図11　６号溝、２号井戸、柱穴列 …… 17
図12　１～５号井戸 …… 20

図13　6～8号井戸、3・8・10号土坑 …… 21
図14　2・6・7・9・11号土坑 …… 23
図15　溝・3号井戸平面図・セクション図(1)、1・4・5号木樋、3号井戸桶側板、
3号井戸桶底板(1)、3号井戸桶底板(2) …… 27～28
図16　1・2・13号溝出土遺物 …… 31
図17　3・4・12号溝、1号暗渠出土遺物 …… 32
図18　1号井戸(1)出土遺物 …… 33
図19　1号井戸(2)出土遺物 …… 34
図20　1号井戸(3)出土遺物 …… 35
図21　1号井戸(4)出土遺物 …… 36
図22　2・3号井戸、木樋出土遺物 …… 37
図23　4・5・6号井戸、2・7・8・11号土坑、
ピット（10・65・40・58・25・59・75・88）出土遺物 …… 38
図24　ピット（63・54・2）、3号石列、1～3号埋甕出土遺物 …… 39
図25　調査区一括出土遺物 …… 40
図26　中世期遺構図 …… 47～48
図27　近世期遺構図 …… 49～50
図28　近代（明治期）遺構図 …… 51～52
図29　近代（昭和期）遺構図 …… 53～54

【表目次】

表1　ピット観察表 …… 29～30
表2　遺物観察表 …… 41～44

【写真目次】

資　料　調査区古絵図、甲府監獄署写真 …… 56
写真1　調査区全景 …… 57
写真2　調査区、試掘調査区、1号・2号建物 …… 58
写真3　溝・暗渠・柱穴列・ピット列全景、溝（1～4号）、4号石列 …… 59
写真4　溝（1・6～9・12・13・16・17号）、1号暗渠 …… 60
写真5　井戸（1～8号） …… 61
写真6　土坑（2・3・6～11号） …… 62
写真7　石列（1～4号）、埋甕（1～4号） …… 63
写真8　上水路施設　4号溝、3号井戸、木樋接続部、
3号井戸（側板、底板(1)・(2)）、1号木樋 …… 64
写真9　上水路施設（4・5号木樋） …… 65
写真10　出土遺物　1号溝、13号溝、2～4号溝、12号溝、1号暗渠 …… 66
写真11　出土遺物　1号暗渠、1～3号井戸 …… 67
写真12　出土遺物　3～6号井戸、2号土坑、7号土坑、8号土坑、11号土坑、
ピット、2号石列 …… 68
写真13　出土遺物　1～3号埋甕、調査区一括、戦災遺物 …… 69
付図：全体図

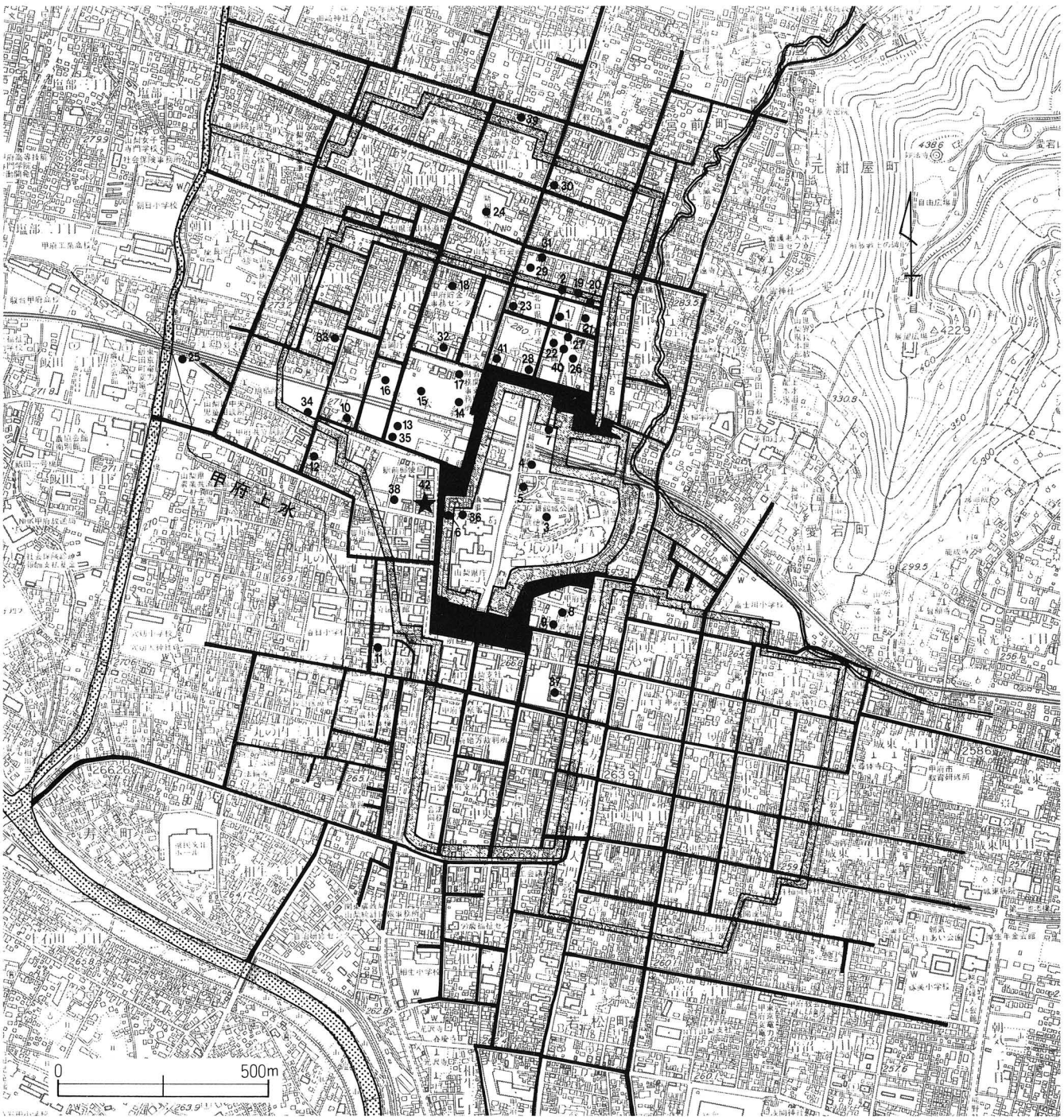


図１　甲府城下町遺跡主要調査地点

番号	遺跡名		検出遺構・遺物など
1	桜シルク跡Ａ区	武家屋敷	武家屋敷跡
2	桜シルク跡Ｂ区	二の堀	二の堀・土塁・井戸
3	県史跡甲府城跡	近世初頭の近世城郭	
4	屋形曲輪（駐輪場）	甲府城屋形曲輪堀	堀跡
5	屋形曲輪（駐車場）	甲府城屋形曲輪	庭園跡・瓦大量に出土
6	県庁前ローソン	甲府城内堀	石垣
7	甲府城下町遺跡30街区	山手御門土橋・清水曲輪	石垣・土橋跡
8	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	溝・ピット・土坑
9	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	溝・井戸
10	甲府城下町遺跡	裏先手小路	道路面
11	百石町武家屋敷跡	百石町武家屋敷跡	礎石
12	甲府城下町遺跡		井戸・検知石
13	甲府城下町遺跡42・43街区	柳沢権太夫屋敷跡	溝跡
14	甲府城関係遺跡Ａ区	柳沢権太夫屋敷及び山手御役宅跡	井戸・溝・土坑・暗渠
15	甲府城関係遺跡Ｂ区	武家屋敷及び御先手小路	溝跡・井戸等
16	甲府城関係遺跡Ｂ西区	武家屋敷跡	溝・井戸・穴蔵
17	甲府城下町遺跡	山手御役宅跡	土坑墓・集石
18	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	土坑２基
19	甲府城下町遺跡	甲府城二の堀	二の堀・井戸・ピット
20	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	土坑墓・溝３条
21	日向町遺跡第１地点	武家屋敷跡	溝・柵列・土坑
22	日向町遺跡第２地点	武家屋敷跡	井戸・溝・暗渠

番号	遺跡名		検出遺構・遺物など
23	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	井戸・溝
24	新紺屋小学校	堅町	溝跡
25	甲府上水跡		上水溝跡
26	甲府城下町遺跡	藪田氏屋敷跡・武家屋敷跡	屋敷境溝・井戸
27	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	井戸・溝・土坑２基
28	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	溝・土坑３基
29	甲府城下町遺跡	元連雀町	上水竹樋・溝・土坑
30	甲府城下町遺跡	大工町	溝
31	甲府城下町遺跡	新紺屋町	土坑
32	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	溝・井戸
33	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	溝
34	甲府城下町遺跡	二の堀	二の堀
35	甲府城下町遺跡（ＫＪ43地点）	武家屋敷跡	武家屋敷井戸・溝
36	甲府城跡	甲府城柳御門	石垣
37	甲府城下町遺跡	武家屋敷跡	溝・土坑・木樋
38	甲府城下町遺跡	作事小屋跡	溝・ピット
39	甲府城下町遺跡	三の堀跡	三の堀
40	甲府城下町遺跡	藪田氏屋敷跡・武家屋敷跡	溝1条・井戸1基・ピット
41	甲府城下町遺跡（武田通り沿い）	武家屋敷跡	溝・井戸・埋桶
42	甲府城下町遺跡（東横イン）	馬場跡・作事小屋跡	馬場面・井戸・溝・ピット列

第１章　遺跡の環境

発掘調査を行った甲府城下町遺跡は、甲府盆地北縁に形成された相川扇状地の扇端部、標高271ｍに位置する近世の甲府城下町の遺跡である。山梨県庁西門（議事堂前）の北西側50ｍ地点に位置し、甲府のメインストリートである南北方向の平和通りが調査区東側を通り、南側は県道中下条・甲府線（通称　飯田通り）が西へ向かう、甲府市街地の中心である。

11世紀、調査区東側の一条小山（現在の山梨県指定史跡甲府城跡）は、一条忠頼の館が位置していたとされる。忠頼亡き後尼寺となり、さらに正和元年（1213）年、時宗二他阿真教により、稲久山一蓮寺として一条小山の南西麓に設置されたと推定される。また甲府城下町遺跡（35）周辺には蛇伏山長延寺が位置していたと推測される。大永４年（1519）武田信虎が相川扇状地の扇央部に居館を築いたことにより「甲斐の府中」から「甲府」となる。甲府城下町（１、２、15、19）などの調査地点からは16世紀代の遺構・遺物が多数検出されており、現在の甲府駅周辺まで居住空間が存在していたことを裏付け、武田氏の時代に都市として発展したものと考えられる。

天正10年（1582）武田家滅亡後は、加藤光泰・浅野長政など豊臣系大名により一条小山の地に甲府城が築城された。それに伴い一蓮寺・長延寺などの寺院が城下南方に移動し、甲府城下町は、内堀・二の堀・三の堀の三重の堀に囲まれた城下町として整備される。

調査区は甲府城柳御門の西側の、内堀と二の堀の間に位置する郭内である。17世紀代後半の徳川綱豊時代の古絵図には、「馬場」・「御米蔵」の記載が見られる。宝永元年（1704）柳沢吉保が甲斐の国主として入部すると御城の改修と城下町が拡張された。この柳沢期の『甲斐国府中城修復願書絵図』（柳沢文庫蔵）には、調査区は「普請小屋」その南側は「御米蔵」と記載が見られる。また『楽只堂年録』第173巻の絵図（資料１）にはより具体的に建物などの寸法が記載されている。この絵図によると馬場は幅六間（10.8ｍ）、長さ百十四間が記載され、馬場の周囲は細く囲われ「ドテ」さらに東側には「コシカケ」の文字が見られる。馬場の西側には馬場と平行して普請方定小屋の施設である、南北六十五間（117ｍ）、梁間二間半（約4.5ｍ）さらに庇一間（1.8ｍ）がつく「供長屋」が位置する。供長屋の南側には南北長さ二十間五尺と二十間三尺の土蔵２棟が続き、柳沢期の詳細な建物配置が窺える。

甲府勤番支配時代の絵図は18世紀半ばの『元文三年甲府城下町絵図』、19世紀後半の『懐宝甲府絵図』等がある。これらの絵図によると「馬場」・「御米蔵」の配置は幕末まで変化は見られない。しかし柳沢期の「普請小屋」は、甲府勤番支配の時代には「作事小屋」さらに幕末の甲府城下町絵図では「大的場」・「調練場」（資料３）と変遷が見られる。しかし絵図の上からは調査区周辺においては、柳沢期から幕末まで大規模な地割の変化はなかったものと考えられる。

明治時代に入り武家地は耕地化し、明治８年（1875）には二の堀・三の堀が埋め立てられる。調査区一帯は明治９年（1876）に橘町となり、「甲府監獄署」が明治８年から同45年まで置かれた。明治27年発行の『山梨縣甲府市及び著名町村図』から、当時の建物の配置が窺え、さらに写真などからも高い白壁の塀と南北に細長い瓦葺建物の様子が見られる。しかし明治36に中央線が開通すると、県都の駅前に監獄署は不都合であると請願等が提出され、明治45年に現在の甲府市青沼の地に移転することとなる。

甲府監獄署移転後、県道中下条・甲府線（通称　飯田通り）が開通し、駅前繁華街として賑わいを見せる。『昭和16年市内地図』では、商店・倉庫・人家の建物が密集して描かれている。しかし昭和20年８月６日午後11時50分から翌日未明にかけての甲府空襲により、この橘町一帯は焼失した。戦後は駅前繁華街として復興し現在に至っている。

第２章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

甲府城下町遺跡は、ホテル建設工事に先立ち株式会社ダイタから依頼を受けて行われた埋蔵文化財の発掘調査である。平成16年９月16日付けで、文化財保護法第57条２第１項が提出されたことにより、平成16年10月４日から同年11月18日にかけて試掘調査を実施した。試掘対象面積は1142.28㎡である。

試掘調査の結果、対象地区一帯から中世・近世・近代にかけての遺物・遺構が良好な状態で存在していることが確認された。その報告を受け株式会社ダイタと協議を行い、建設工事によって遺構面が破壊される恐れがある、敷地東側の約400㎡を本調査対象地とし、平成16年11月22日から同年12月28日までの約１ヶ月間本調査を実施する運びとなった。

第２節　調査方法

調査区は東西約44.5ｍ、東側で南北約22.3ｍ、西側で南北約27ｍである。南東隅部は民間のビルが位置するため欠けてはいるが、東西方向の長方形の調査区であり、敷地面積は1142.28㎡である。

試掘調査は、Ａトレンチ（東西37×２ｍ）、Ｂトレンチ（南北21×２ｍ）、Ｃトレンチ（東西12.5×３ｍ）の３箇所のトレンチを設定し、合計約153.5㎡を掘削した。試掘調査の結果、Ａトレンチ東側からは２号暗渠、西側からは近代の３号建物跡と４号埋甕が検出された。南北方向のＢトレンチでは、中央部から１号井戸、南側から７号溝が確認された。さらにＣトレンチでは、２号埋甕と中世段階の１号溝が検出された。

本調査は試掘調査の結果をふまえ、建設工事により遺構が破壊される可能性がある敷地東側の約400㎡を本調査の対象地とした（図３）。

遺構確認面までは、調査区北西側で現地表から約50㎝、南側で約70㎝に位置する。そのため遺構面の上層10㎝の位置まで重機で表土及び攪乱層の除去を行った。その後現状の地割とほぼ平行に、東西方向は東から西へＡ～Ｌ、南北方向は北から南へ１～９に分割し、国家座標に合わせて４ｍ間隔でグリッド杭を設置した。また基準ポイントは２地点に設定した。

遺構の精査及び掘削作業は人力で行った。掘削した土砂の排出は、クローラーダンプを使用した。検出された遺構・遺物は平板を使用して作図を行い、写真で記録に収めた。

昭和時代の遺構面調査終了後、近世及び中世面まで約10～20㎝の間層については重機で掘削を行い、再度人力で精査を行った。調査終了後は調査区西側に仮置きした廃土を重機等利用して埋め戻し、調査を終了した。

第３節　層　　序（図４）

調査区は相川扇状地扇端部の標高272ｍ地点に位置する。調査区は南東隅が欠けているが東西44.5ｍ、南北27ｍの東西に長い土地である。北東側から南西側へ傾斜し、調査区北西側で現況の標高約271.6ｍ、遺構確認面の標高271.1ｍを測り、調査区南東側では約272.0ｍ、遺構確認面の標高270.9ｍあり、比高差は約0.2ｍ程度ある。

基本土層は調査区北側で２層に、南側で８層に分層される。第１層は厚さ10㎝ほどの近代の砕石層である。第２層は近代の攪乱層である。第３層は昭和20年７月６日の甲府空襲による厚さ25㎝ほどの焼土層である。第４層は灰白青黒色粘質土層である。第５層は暗褐色粘質土層である。第６層は江戸時代の馬場跡で、厚さ５～８㎝の明褐色礫質土層である。

径１～３cmの小礫が多数混入した水平堆積が確認される硬化面である。第７層は暗褐色粘質土層、第８層は暗黒茶褐色粘質土層である。この第７・８層は、江戸時代の馬場跡である６層の下層に位置することから中世段階の堆積層と考えられる。地山層は相川扇状地において一般的に確認される第９層の黄黒褐色土層である。

検出された遺構は、近代の開発により上面遺構は削平を受けたものが多く、調査区南側では、第６層から９層に掘り込まれた状態で確認されている。北側では地山層の直上まで攪乱を受けていたため、地山層に掘り込まれた遺構が確認されている。

第４節　調査経過

調査は、試掘調査を平成16年10月４日から11月18日まで実施し、本調査は同年11月22日から12月28日まで行われた。主な作業の進行状況は以下のとおりである。

10月４日　試掘調査開始。
11月18日　試掘調査終了。
11月22～
　25日　重機により表土除去。２号井戸及び溝確認。
　26日　プレハブハウス等機材納入。東・南壁際にトレンチを設定し遺構確認作業。
　27日　遺構掘削開始。
　30日　クローラーダンプ納入。
12月１日　３号井戸、上水遺構木樋検出。
　３日　春日小学校３．４年生24名現場見学及び体験発掘。
　７日　北壁セクション引き作業。
　８日　基準杭設定。
　９日　図面作業開始。
　11日　５・６号井戸掘削、東壁セクション図面作製。
　13日　昭和時代遺構面（１・２号石列、２・３号埋甕）除去。
　17日　馬場跡下層遺構確認。
　24日　全体写真撮影。
　25日　現場説明見学会開催。参加者約100名。
　27日　藤嶺学園藤沢中学校教師１名、生徒２名体験発掘調査参加。
　28日　発掘調査完了、機材等撤去。

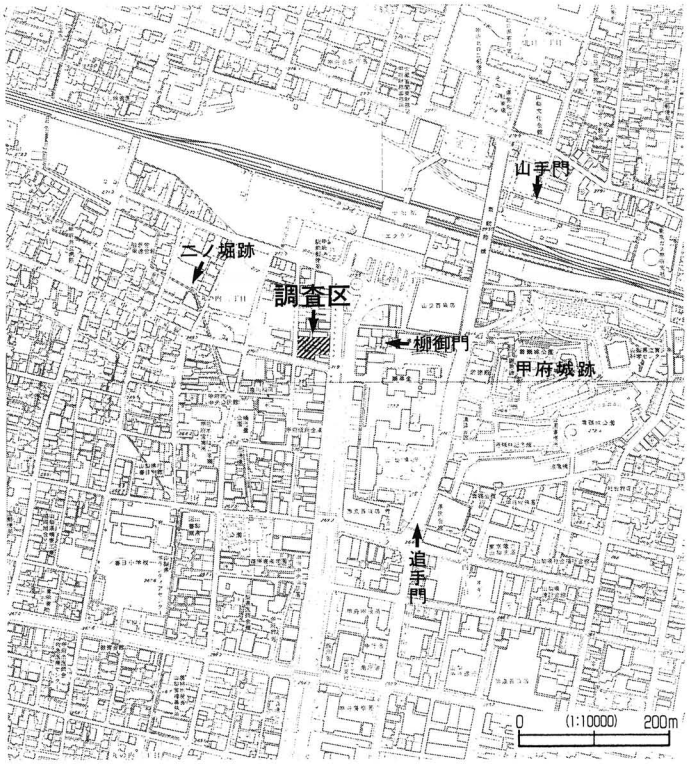


図2　調査区位置図

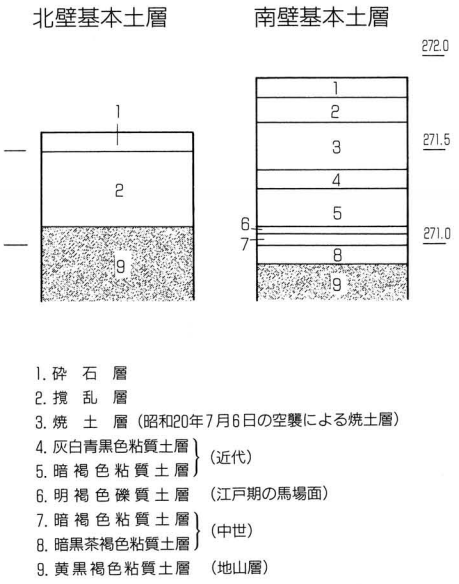


図4　基本土層図

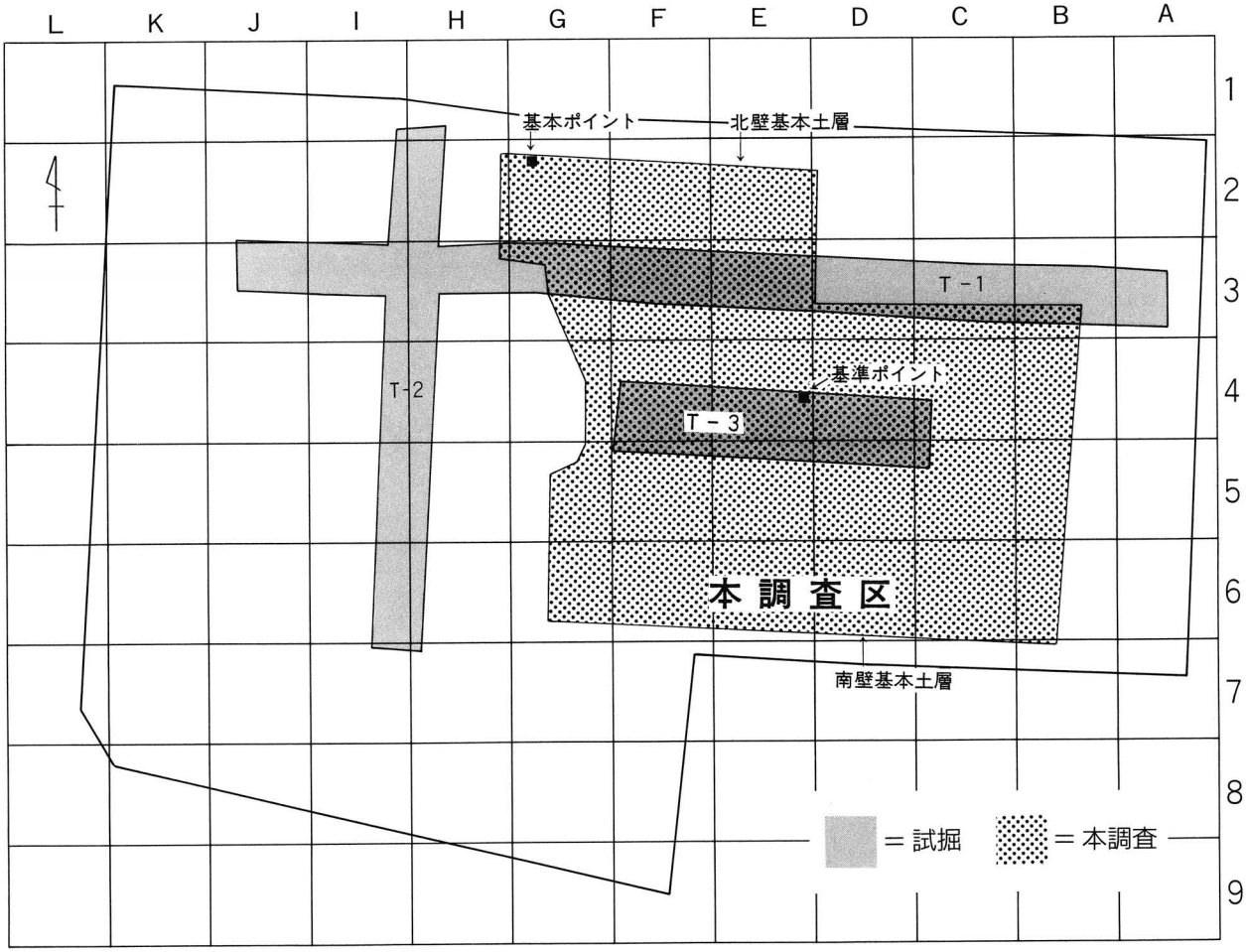


図3　試掘トレンチ・本調査区位置及びグリッド配置図

0 (1:300) 8m

第３章　遺構と遺物

検出された遺構は、中世・近世・近代の３時期である。建物跡３棟、溝14条、暗渠２条、井戸８基、馬場跡、ピット列２列、柱穴列１列、土坑８基、上水施設（３号井戸と４・５号溝)、ピット125基である。本文中における溝とピットの重複関係についての記載は省略した。また、遺構番号に欠番があるものに関しては、調査の結果を検討して、同一遺構又は遺構の性格が異なるなどから、遺構番号の変更を行ったためである。

第１節　建物跡

１号建物（遺構図５）

位　　置　Ｅ・Ｆ－２～４グリッド

検出状況　南北方向Ｎ－１°－Ｗに主軸をとる、南北５間（約９ｍ)、東西２間（約４ｍ）規模の建物である。礎石を支える集石の東側一部分は攪乱を受けているため確認できなかったが、13箇所の集石が確認されている。南北の集石の一間は1.8ｍ、東西間の一間は２ｍを単位として構成されている。各集石上部は同一レベル上にあり、60㎝四方、深さ30㎝の掘り方内に、径８～15㎝の自然石を２～３段に敷き詰め築かれている。

出土遺物　未掲載ではあるが、集石４・11から瓦が検出された。

切合関係　１号石列に切られる。

時　　期　近代

２号建物（遺構図６）

位　　置　Ｅ・Ｆ－４～６グリッド

検出状況　南北方向Ｎ－１°－Ｗに主軸をとる。建物規模については南壁のセクションの観察から、東西４間（約5.6ｍ)、南北方向は欠落した礎石が多いため規模は不明である。建物の東西間の両端は方形に加工された安山岩製の縁石がある。東側の縁石から1.8ｍ、1.4ｍ、1.4ｍ、1.0ｍ間隔で集石が並ぶ。礎石を支える集石は、径20～30㎝と不均一であり、残存する集石間は0.9ｍと1.8ｍの間隔が測られる。建物跡の北西隅からは３号埋甕が検出されている。

表土から10㎝と極めて浅い部分で検出されたこと、さらに昭和20年７月６日の甲府空襲による焼土層から検出されたことから、空襲により焼失した建物であると考えられる。

出土遺物　未掲載ではあるが、集石12から煉瓦・瓦が出土。

時　　期　近代（昭和期）

３号建物・４号埋甕（全体図）

位　　置　Ｈ・Ｉ－２～３グリッド

検出状況　南北方向Ｎ－１°－Ｗに主軸をとる建物である。攪乱を受けており建物規模については不明である。径約30㎝の上面が扁平な石が、0.9ｍ間隔で13個確認された。中央部からは上面が欠損した素焼きの４号埋甕が出土している。

表土から20㎝と極めて浅い部分で検出された、さらに昭和20年７月６日の甲府空襲による焼土層から検出されたことから、空襲により焼失した建物である

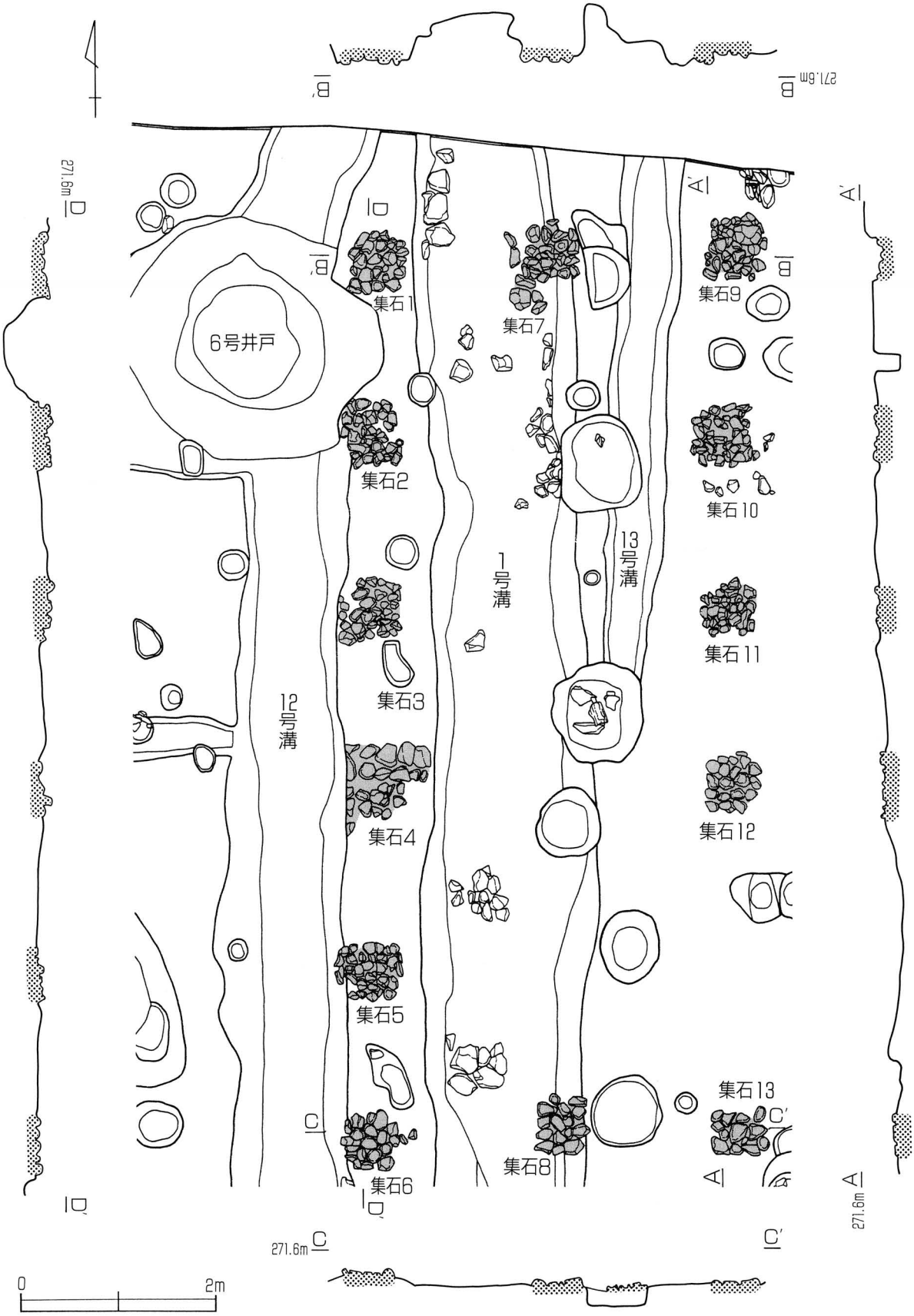
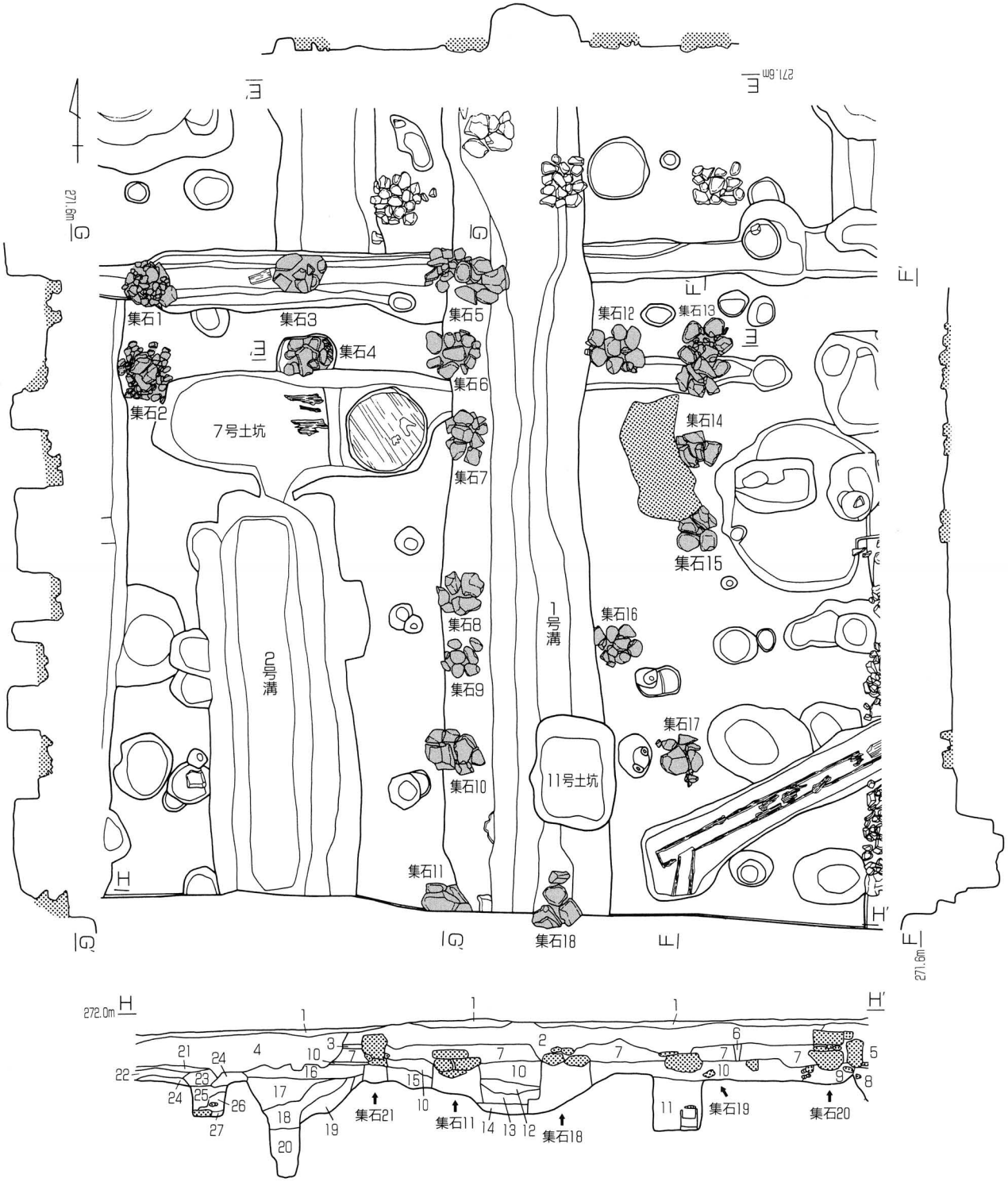

6号井戸
集石1
集石2
集石3
集石4
集石5
集石6
集石7
集石8
集石9
集石10
集石11
集石12
集石13
1号溝
12号溝
13号溝
271.6m
0
2m

図5　1号建物



1. 砕　石　層　ややゆるい。
2. 焼　土　層　ほぼ全面的に赤褐色を呈し、瓦・焼土塊を多量に含む。戦後（昭和20年7月6日以降）の層。
3. 炭　化　層
4. 炭 化 物 層　黒色の炭多量。粗くややゆるい。
5. 暗 褐 色 土　炭化物・焼土多量。瓦など多くみられる。粒子粗くゆるい。
6. 暗灰赤褐色粘質土　焼土多量。ゆるい。
7. 暗灰褐色粘質土　炭化物少量、粒子密、しまる。
8. 赤 褐 色 粘 質 土　黄色褐色粘土少量、砂分微量。ややゆるい。
9. 暗茶褐色粘質土　炭化物・焼土少量、砂礫微量。粒子密。しまる。
10. 暗灰茶褐色粘質土　炭化物・焼土少量、φ1～10cm礫やや多し。粒子やや粗く、部分的に炭多し。
11. 暗 褐 色 粘 質 土　炭化物・灰褐色粘土ブロック少量。ややしまる。下部に木桶。
12. 暗茶褐色粘質土　炭化物・焼土・焼土塊やや多し、φ5～10cm礫少量、砂微量。粒子やや密。ややしまる。
13. 茶 褐 色 粘 質 土　炭化物・焼土少量。礫微量、粒子細かく密、しまる。
14. 黒 褐 色 粘 土　炭化物少量、粘性強くゆるい。
15. 暗茶褐色粘質土　炭化物・焼土・砂微量。粒子密。ややゆるい。
16. 暗茶黄灰褐色粘質土　砂礫少量。粒子密。しまる。
17. 暗黄褐色粘質土　炭化物・焼土少量。瓦1点。黄灰褐色粘土ブロック少量。粒子密。ややしまる。
18. 暗黄褐色粘質土　17層より粒子粗く、ややゆるい。
19. 黒 黄 色 粘 質 土　粒子やや粗く、ややしまる。
20. 暗黄灰褐色粘質土　瓦1点。粘土ブロック状。ややゆるい。
21. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土・φ2～3cm礫少量、砂分微量。粒子密。しまる。
22. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土・φ2～3cm礫少量、砂分微量。粒子密。しまる。
23. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、φ7～8cm焼土塊多し。粒子密。しまる。
24. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土・砂分微量、粒子密、しまる。
25. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、φ1～2cm礫若干、砂微量。粒子密。しまる。
26. 暗褐色粘質土　25層より炭化物・焼土微量。粒子密。しまる。
27. 黒褐色粘質土　炭化物少量。ややゆるい。

0　2m

図6　2 号 建 物

と考えられる。
出土遺物　未掲載ではあるが、４号埋甕出土。
時　　期　近代（昭和期）

第２節　溝

１号溝（遺構図７／遺物図16）
位　　置　Ｅ・Ｆ－２～６グリッド
検出状況　主軸はほぼ真北方向であり、確認されている部分において南北18.7ｍ、幅1.5～1.9ｍ、深さ0.2～0.5ｍを計測する。溝北側から検出された４号石列は、長さ0.8ｍにわたり、径20～30㎝の安山岩が３個確認された。溝は南側へなだらかに傾斜する。覆土は暗褐色粘質土を基調とし、16世紀代の遺物が出土した。溝下層の堆積層内からは炭化物と焼土が少量確認された。
出土遺物　１～８かわらけ、９内耳鍋、10・13丸皿、11天目茶碗、14擂鉢、15・16中国製染付磁器、17・18金属製品出土。未掲載ではあるが焼土塊検出。
切合関係　柱穴列を切る。10・13・14号溝、11号土坑に切られる。
時　　期　中世（16世紀）

２号溝（遺構図７／遺物図16）
位　　置　Ｆ－５～６グリッド
検出状況　主軸は南北方向Ｎ－２°－Ｗである。長さ4.7ｍ、幅1.4～1.75ｍ、深さ約1.25ｍの長方形の箱堀状を呈する。覆土は若干緩い暗褐色土の覆土で、江戸時代の遺物も出土したが瓦、煉瓦等近代の遺物が検出された。
出土遺物　21染付碗、22白磁、23・24瓦出土。
切合関係　北側の７号土坑との切合い関係は不明。
時　　期　近代

３号溝（遺構図７／遺物図17）
位　　置　Ｂ－５、Ｃ・Ｄ－５・６、Ｅ－６グリッド
検出状況　主軸は南北方向Ｎ－３°－Ｅである。全長７ｍを計測する。北側2.6ｍ部分は幅0.5～0.9ｍ、深さ約0.5ｍである。南側3.4ｍ部分は箱堀状を呈し、上端１ｍ、下端0.7ｍ、深さ約1.2ｍを計測する。覆土は若干緩い暗褐色土である。
出土遺物　25志戸呂製皿、26刀子、27・28角釘、29石製品出土。未掲載ではあるが近代瓦、煉瓦検出。
切合関係　14号溝との切合い関係は不明。
時　　期　近代

６号溝（遺構図11）
位　　置　Ｂ・Ｄ－６グリッド
検出状況　主軸は東西方向Ｎ－84°－Ｗである。長さ6.3ｍ、幅0.18～0.9ｍ、深さ0.1～0.2ｍを計測する。西側の16号溝へ緩やかに傾斜し、ほぼ直交する。江戸期の馬場面の下層に位置し、覆土は炭化物と焼土を少量含む暗褐色及び黒褐色粘質土を基調とする。溝底部には砂粒子の堆積が確認された。
出土遺物　なし

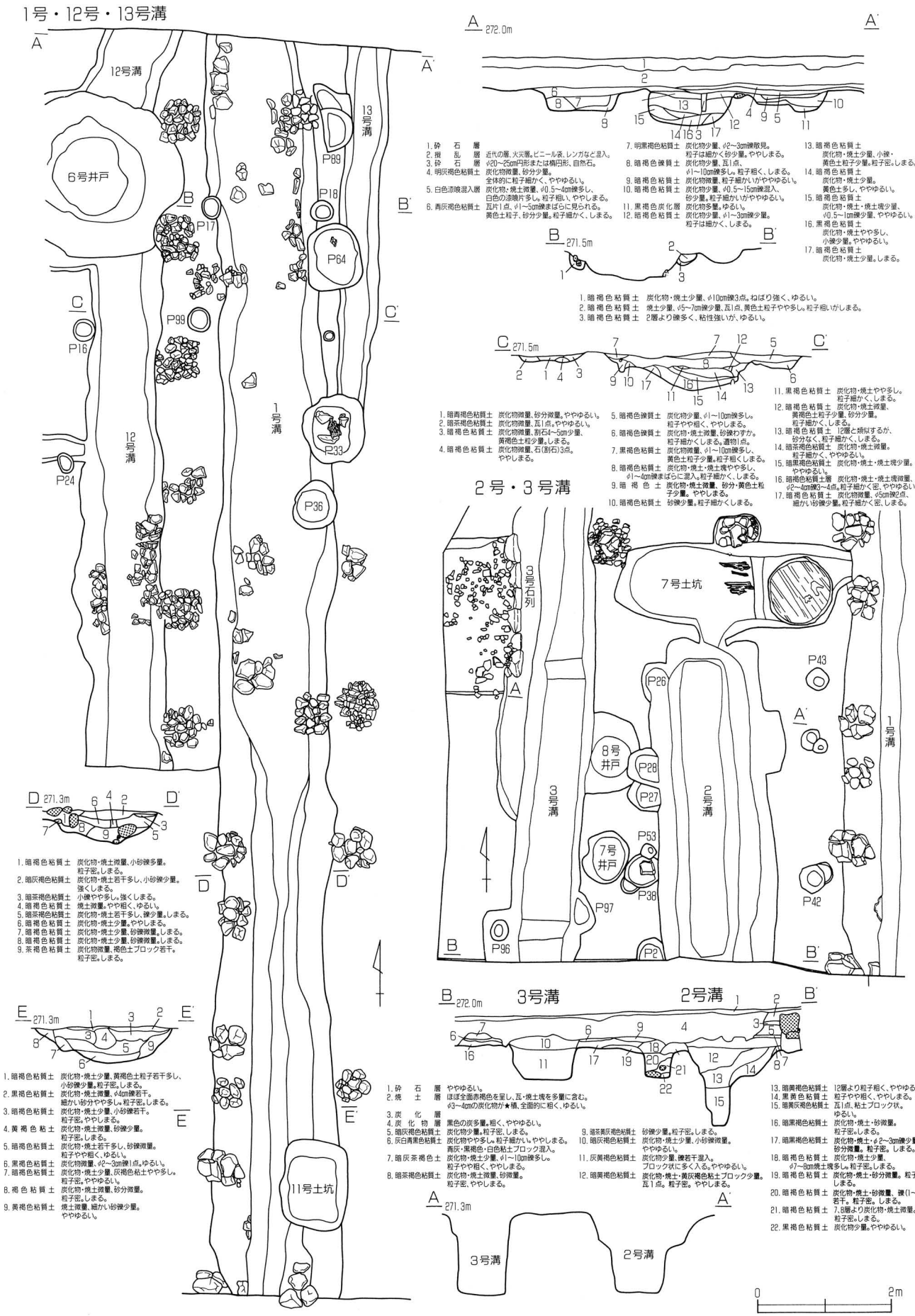

1号・12号・13号溝
12号溝
13号溝
1号溝
6号井戸
P89
P18
P17
P64
P99
P16
P24
P233
P36
A 272.0m
1. 砕石層
2. 撹乱層 近代の層、火災層。ビニール袋、レンガなど混入。
3. 砕石層 φ20～25cm円形または楕円形、自然石。
4. 明灰褐色粘質土 炭化物微量、砂分少量。全体的に粒子細かく、ややゆるい。
5. 白色漆喰混入層 炭化物・焼土微量、φ0.5～4cm礫多し、白色の漆喰片多し。粒子粗い、やわらかい。
6. 青灰褐色粘質土 瓦片1点、φ1～5cm礫まばらに見られる。黄色土粒子、砂分少量。粒子細かく、しまる。
7. 明黒褐色粘質土 炭化物少量、φ2～3cm礫散見。粒子は細かく砂少量。やわらかい。
8. 暗褐色礫質土 炭化物少量、瓦1点、φ1～10cm礫多し。粒子粗く、しまる。
9. 暗褐色粘質土 炭化物微量、粒子細かいがややゆるい。
10. 暗褐色粘質土 炭化物少量、φ0.5～15cm礫混入。砂少量。粒子細かいがややゆるい。
11. 黒褐色炭化層 炭化物多量。ゆるい。
12. 暗褐色粘質土 炭化物少量、φ1～3cm礫少量。粒子は細かく、しまる。
13. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、小礫・黄色土粒子少量。粒子密。しまる。
14. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量。黄色土多し、ややゆるい。
15. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土・焼土塊少量、φ0.5～1cm礫少量、ややゆるい。
16. 黒褐色粘質土 炭化物・焼土やや多し、小礫少量。ややゆるい。
17. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量。しまる。
B 271.5m
1. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、φ10cm礫3点。ねばり強く、ゆるい。
2. 暗褐色粘質土 焼土少量、φ5～7cm礫少量、瓦1点、黄色土粒子やや多し。粒子粗いがしまる。
3. 暗褐色粘質土 2層より礫多く、粘性強いが、ゆるい。
C 271.5m
1. 暗青褐色粘質土 炭化物微量、砂分微量。ややゆるい。
2. 暗茶褐色粘質土 炭化物微量、瓦1点。ややゆるい。
3. 暗褐色粘質土 炭化物微量、割石4～5cm少量、黄褐色土粒少量。しまる。
4. 暗褐色粘質土 炭化物微量、石(割石)3点。やわらかい。
5. 暗褐色礫質土 炭化物少量、φ1～10cm礫多し。粒子やや粗く、やわらかい。
6. 暗褐色礫質土 炭化物・焼土微量、砂礫わずか。粒子細かくしまる。遺物1点。
7. 黒褐色粘質土 炭化物微量、φ1～10cm礫多し、黄色土粒子少量。粒子粗くしまる。
8. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土・焼土塊やや多し、φ1～4cm礫まばらに混入。粒子細かく、しまる。
9. 暗褐色土 炭化物・焼土微量、砂分・黄色土粒子少量。やわらかい。
10. 暗褐色粘質土 砂礫少量。粒子細かくしまる。
11. 黒褐色粘質土 炭化物・焼土やや多し。粒子細かく、しまる。
12. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、黄褐色土粒子少量、砂分少量。粒子細かく、しまる。
13. 暗褐色粘質土 12層と類似するが、砂分なく、粒子細かく、しまる。
14. 暗茶褐色粘質土 炭化物・焼土微量。粒子細かく、ややゆるい。
15. 暗黒褐色粘質土 炭化物・焼土・焼土塊少量。ややゆるい。
16. 暗褐色粘質土層 炭化物・焼土・焼土塊微量、φ2～4cm礫3～4点。粒子細かく密、ややゆるい。
17. 暗褐色粘質土 炭化物微量、φ5cm礫2点、細かい砂礫少量。粒子細かく密、しまる。
2号・3号溝
3号石列
7号土坑
8号井戸
7号井戸
3号溝
2号溝
1号溝
P26
P28
P27
P53
P38
P97
P96
P2
P43
P42
D 271.3m
1. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土微量、小砂礫多量。粒子密。しまる。
2. 暗灰褐色粘質土 炭化物・焼土若干多し、小砂礫少量。強くしまる。
3. 暗茶褐色粘質土 小礫やや多し。強くしまる。
4. 暗褐色粘質土 焼土微量。やや粗く、ゆるい。
5. 暗茶褐色粘質土 炭化物・焼土若干多し、礫少量。しまる。
6. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量。やわらかい。
7. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、砂礫微量。しまる。
8. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、砂礫微量。しまる。
9. 茶褐色粘質土 炭化物微量、褐色土ブロック若干。粒子密。しまる。
E 271.3m
1. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、黄褐色土粒子若干多し、小砂礫少量。粒子密。しまる。
2. 黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量、φ4cm礫若干。細かい砂分やや多し。粒子密。しまる。
3. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、小砂礫若干。粒子密。やわらかい。
4. 黄褐色粘土 炭化物・焼土微量、砂礫少量。粒子密。しまる。
5. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土若干多し、砂礫微量。粒子やや粗く、ゆるい。
6. 黒褐色粘質土 炭化物微量。φ2～3cm礫1点。ゆるい。
7. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、炭褐色粘土やや多し。粒子密。ややゆるい。
8. 褐色粘質土 炭化物・焼土微量、砂分微量。粒子密。しまる。
9. 黄褐色粘質土 焼土微量、細かい砂礫少量。ややゆるい。
11号土坑
B 272.0m
3号溝
2号溝
1. 砕石層 ややゆるい。
2. 焼土層 ほぼ全面赤褐色を呈し、瓦・焼土塊を多量に含む。
3. 炭化層 φ3～4cmの炭化物が★積、全面的に粗く、ゆるい。
4. 炭化物層 黒色の炭多量。粗く、ややゆるい。
5. 暗灰褐色粘質土 炭化物少量。粒子密、しまる。
6. 灰白青黒色粘質土 炭化物やや多し。粒子細かい。ややしまる。青灰・黒褐色・白色粘土ブロック混入。
7. 暗灰茶褐色土 炭化物・焼土少量、φ1～10cm礫多し。粒子やや粗く、ややしまる。
8. 暗茶褐色粘質土 炭化物・焼土微量、砂微量。粒子密、ややしまる。
9. 暗茶黄灰褐色粘質土 砂礫少量。粒子密。しまる。
10. 暗灰褐色粘質土 炭化物・焼土少量、小砂礫微量。ややゆるい。
11. 灰黄褐色粘質土 炭化物少量、礫若干混入。ブロック状に多く入る。ややゆるい。
12. 暗黄褐色粘質土 炭化物・焼土・黄灰褐色粘土ブロック少量。瓦1点。粒子密。ややしまる。
13. 暗黄褐色粘質土 12層より粒子粗く、ややゆるい。
14. 黒黄色粘質土 粒子やや粗く、ややしまる。
15. 暗黄灰褐色粘質土 瓦1点、粘土ブロック状。ゆるい。
16. 暗黒褐色粘質土 炭化物・焼土・砂微量。粒子密。しまる。
17. 暗黒褐色粘質土 炭化物・焼土・φ2～3cm礫少量、砂分微量。粒子密。しまる。
18. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土少量、φ7～8cm焼土塊多し。粒子密。しまる。
19. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土・砂分微量。粒子密。しまる。
20. 暗褐色粘質土 炭化物・焼土・砂微量、礫(1～2cm)若干。粒子密。しまる。
21. 暗褐色粘質土 7,8層より炭化物・焼土微量。粒子密。しまる。
22. 黒褐色粘質土 炭化物少量。ややゆるい。
A 271.3m
3号溝
2号溝
0
2m

図7　1～3・12・13号溝

切合関係　馬場跡の下層に位置する。２号井戸を切る。16号溝との切合い関係は不明。
時　　期　中世

７号溝（遺構図８）
位　　置　Ｉ－５～６グリッド
検出状況　試掘トレンチ部分で検出された、南側へ傾斜する石積の溝である。現状確認された溝は南北方向Ｎ－１°－Ｅの軸線をとり、長さ5.4ｍを測る。北側で直角に西方向へ曲がる。溝の底幅は0.2～0.25ｍで、各面の石積は82度の勾配で据えられている。溝の上面は攪乱を受けているため現状高さ0.6ｍを計測する。石材は安山岩を主体とするが、部分的に花崗岩も見られる。石積の東側と西側の石材の規模は異なる。

東側の石積は、径50～80cmの石材が１段、部分的に２段目が見られ、高さは0.6ｍである。石材は安山岩の割り石も使用される。石積には拳大の裏込めが幅70cmにわたり確認されている。

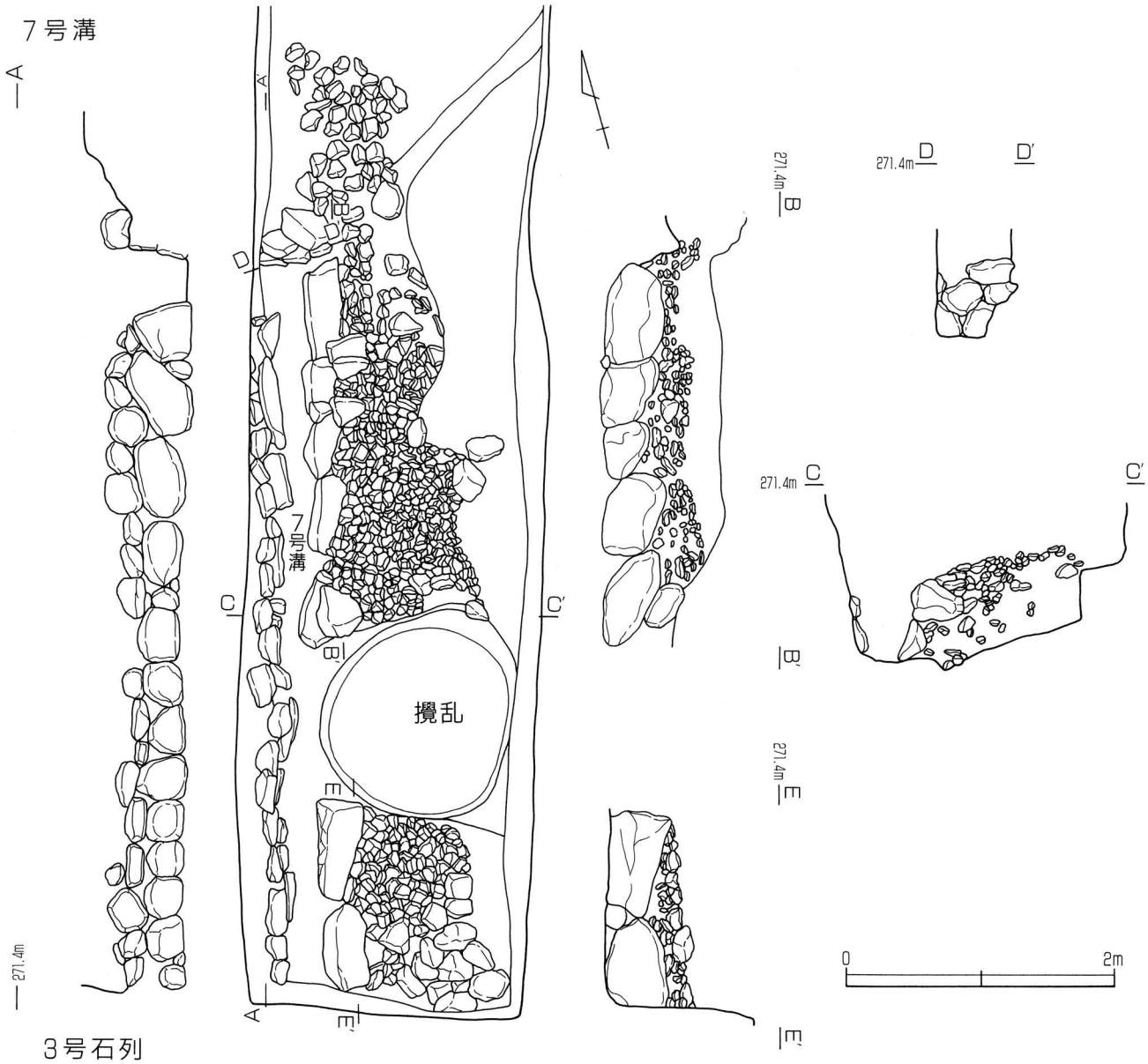
西側の石積は、径50～70cmの石材も見られるが、30cm前後の自然石が多く使用されている。現状二段積であり、高さ0.6ｍを測る。裏込めに関しては未確認である。

北側の石積は、径20～30cmの自然石が三段、高さ0.6ｍに積まれて検出された。裏込め石は未検出である。
出土遺物　なし
切合関係　なし
時　　期　近世～近代か

８号溝（全体図）
位　　置　Ｂ－３～４グリッド
検出状況　南北方向Ｎ－１°－Ｗである。長さ４ｍ、幅0.3～0.44ｍ、深さ0.15～0.3ｍのほぼ箱状に掘削された、南側へ緩やかに傾斜する溝である。覆土は褐色の粘質土である。９号溝・14号溝とはほぼ直交する。
出土遺物　未掲載ではあるが肥前系磁器皿、瀬戸系陶器が出土。
切合関係　９号溝、14号溝との切合い関係は不明。
時　　期　近代

９号溝（全体図）
位　　置　Ｂ－４グリッド
検出状況　検出部分は長さ0.25ｍの東西方向の溝である。幅0.5ｍ、深さ約0.1ｍを測る。覆土は灰褐色系の粘質土で、砂分が微量含まれる。８号溝とほぼ直交する。
出土遺物　なし
切合関係　８号溝との切合い関係は不明。
時　　期　近代

10号溝（全体図）
位　　置　Ｅ・Ｆ－５グリッド
検出状況　主軸は東西方向Ｎ－88°－Ｗで、西端は南側へ振れる。長さ４ｍ、幅0.25～0.45ｍ、深さ0.1～0.2ｍを測る。



3号石列

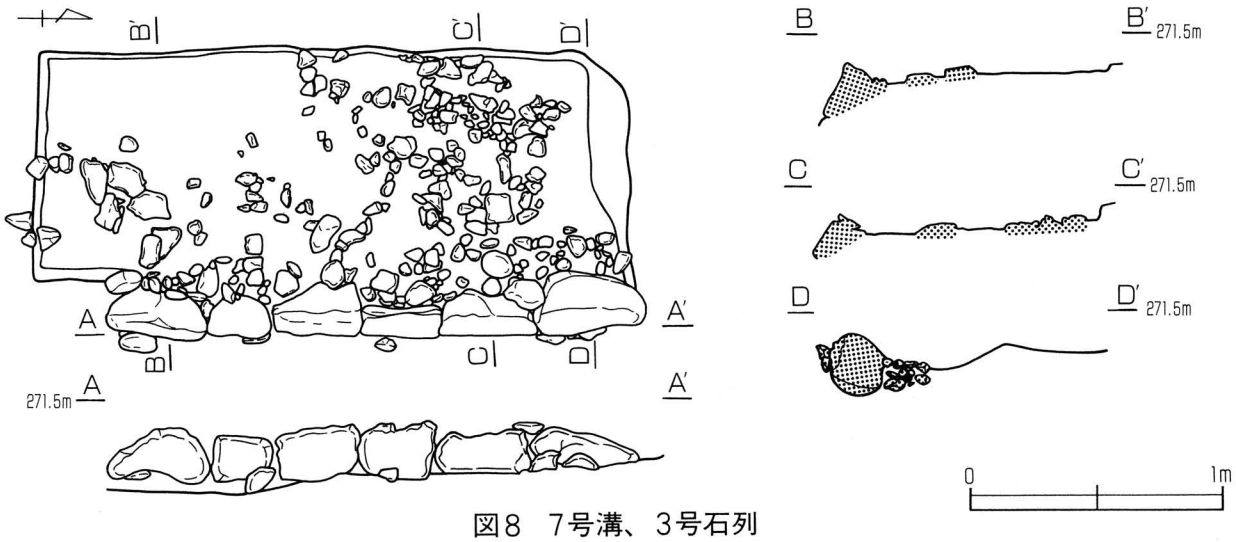


図8　7号溝、3号石列

出土遺物　なし
切合関係　１号を切る。ピット88、７号土坑との切合い関係は不明。
時　　期　近代か

12号溝（遺構図７／遺物図17）
位　　置　Ｆ・Ｅ－グリッド
検出状況　主軸は南北方向Ｎ－１°－Ｗであるが、溝北端は東側へ振れる。長さ11ｍ、幅１～1.3ｍ、深さ0.05～0.15ｍであり、南側へ緩やかに傾斜する溝である。覆土は礫を若干多く含む暗褐色粘質土を基調とし、近代の遺物が出土した。
出土遺物　31～33釘、未掲載ではあるが煉瓦、桟瓦が出土。
切合関係　６号井戸を切る。14号溝との切合い関係は不明。
時　　期　近代

13号溝（遺構図７／遺物図16）
位　　置　Ｅ－２～３グリッド
検出状況　主軸は南北方向Ｎ－３°－Ｗである。検出された部分的において長さ6.2ｍ、幅0.4～1.1ｍ、深さ0.07～0.3ｍである。覆土は小礫を多く含む暗褐色土である。
出土遺物　19肥前系染付碗、20寛永通寶出土。未掲載ではあるが、18～19世紀の陶器・瓦を検出。
切合関係　１号溝を切る。
時　　期　近世

14号溝（遺構図９）
位　　置　Ｂ～Ｇ－４・５グリッド
検出状況　江戸時代の馬場面を断ち切り確認された、東西方向Ｎ－89°－Ｅに延びる溝である。北側は８号溝と接続するが、西側について未確認である。現状長さ19.4ｍ、幅0.24～0.82ｍ、深さ0.12～0.6ｍであり、緩やかに西側へ傾斜する。覆土は灰白色または褐色の粘質土を基調としている。部分的に微量の炭化物と焼土粒子が確認されている。
出土遺物　未掲載ではあるが、主に19世紀代の瓦・肥前系磁器・灯明皿・土器が出土。
切合関係　馬場面、１号溝、16号溝、17号溝を切る。３号土坑、２号建物に切られる。12号溝、３号溝との切合い関係は不明。
時　　期　近代

16号溝（遺構図10）
位　　置　Ｄ－３～６グリッド
検出状況　馬場面の下層に位置する。主軸は南西方向Ｎ－１°－Ｅであり、長さ12.5ｍ、幅は北側で1.1ｍ、中央部で1.4ｍ、南壁では1.8ｍと南側にかけて溝幅は広がる。深さは20～25㎝である。覆土は暗褐色粘質土であり、炭化物・焼土粒子の混入が見られ、溝底部には少量の砂分が堆積していた。
出土遺物　未掲載ではあるが、かわらけ、内耳土器、土製擂鉢、陶器製擂鉢、天目茶碗、土鈴など中世の遺物が出土。
切合関係　４号溝・14号溝に切られる。
時　　期　中世

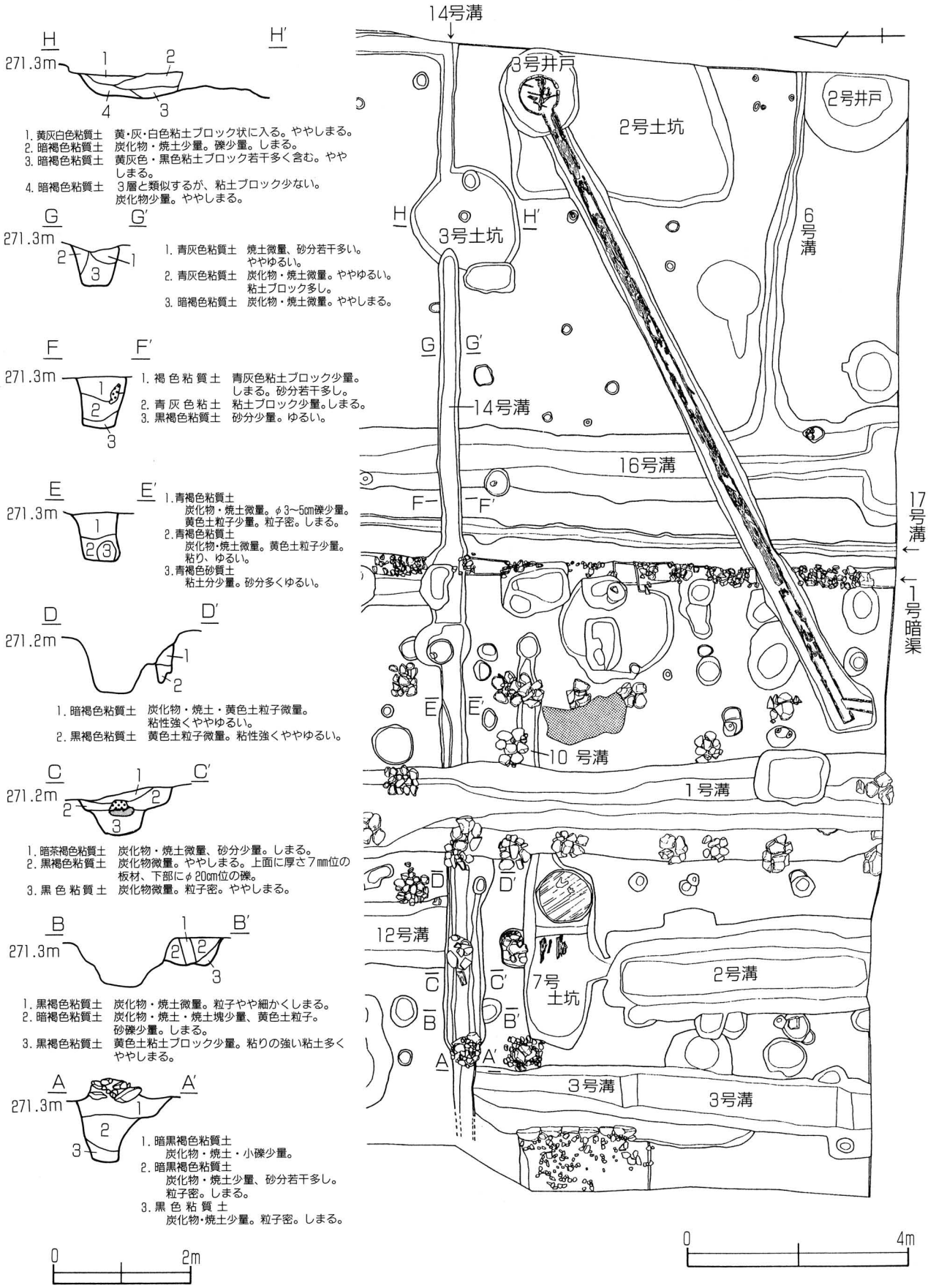

H
H′
271.3m
1. 黄灰白色粘質土　黄・灰・白色粘土ブロック状に入る。ややしまる。
2. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量。礫少量。しまる。
3. 暗褐色粘質土　黄灰色・黒色粘土ブロック若干多く含む。ややしまる。
4. 暗褐色粘質土　3層と類似するが、粘土ブロック少ない。炭化物少量。ややしまる。
G
G′
271.3m
1. 青灰色粘質土　焼土微量、砂分若干多い。ややゆるい。
2. 青灰色粘質土　炭化物・焼土微量。ややゆるい。粘土ブロック多し。
3. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量。ややしまる。
F
F′
271.3m
1. 褐色粘質土　青灰色粘土ブロック少量。しまる。砂分若干多し。
2. 青灰色粘土　粘土ブロック少量。しまる。
3. 黒褐色粘質土　砂分少量。ゆるい。
E
E′
271.3m
1. 青褐色粘質土　炭化物・焼土微量。φ3〜5cm礫少量。黄色土粒子少量。粒子密。しまる。
2. 青褐色粘質土　炭化物・焼土微量。黄色土粒子少量。粘り、ゆるい。
3. 青褐色砂質土　粘土分少量。砂分多くゆるい。
D
D′
271.2m
1. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土・黄色土粒子微量。粘性強くややゆるい。
2. 黒褐色粘質土　黄色土粒子微量。粘性強くややゆるい。
C
C′
271.2m
1. 暗茶褐色粘質土　炭化物・焼土微量、砂分少量。しまる。
2. 黒褐色粘質土　炭化物微量。ややしまる。上面に厚さ7mm位の板材、下部にφ20cm位の礫。
3. 黒色粘質土　炭化物微量。粒子密。ややしまる。
B
B′
271.3m
1. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量。粒子やや細かくしまる。
2. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土・焼土塊少量、黄色土粒子。砂礫少量。しまる。
3. 黒褐色粘質土　黄色土粒土ブロック少量。粘りの強い粘土多くややしまる。
A
A′
271.3m
1. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土・小礫少量。
2. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量、砂分若干多し。粒子密。しまる。
3. 黒色粘質土　炭化物・焼土少量。粒子密。しまる。
0
2m
14号溝
3号井戸
2号井戸
2号土坑
3号土坑
6号溝
14号溝
16号溝
17号溝
1号暗渠
10号溝
1号溝
12号溝
7号土坑
2号溝
3号溝
3号溝
0
4m

図9　14号溝

17号溝（遺構図10）

位　　置　D－3～6グリッド

検出状況　馬場面の下層に位置する。南北方向N－3°－E、16号溝とほぼ平行する。長さ12.5m、幅0.2～0.3m、深さ3～5cmと浅い。覆土は砂分を多く含む褐色土である。

出土遺物　なし

切合関係　14号溝に切られる。

時　　期　中世～近世

第3節　馬場跡（1・2号暗渠）（遺構図10／遺物図17）

位　　置　B～D－4～6グリッド

検出状況　南北方向N－3°－Eに主軸をとり1号暗渠と2号暗渠の間の東西幅は10.2m、南北長さは約12mの範囲で検出された。南壁のセクションから、標高約271.1mに位置する第38層の明褐色土層が馬場面と考えられ、上層は近代の堆積層である。また下層は地山層または6号・16号溝など中世の遺物が検出された遺構面である。馬場面は厚さ5～8cmあり径1cm位いの砂礫を多量に含む非常に硬化した面である。馬場面西側の1号暗渠は南北12.2m、幅40cm、深さ20～25cm、東側の2号暗渠は南北2m、幅40cm、深さ20cmを測る。両暗渠の断面は箱状を呈し、5～20cmの砕石が多量に充塡されている。1号暗渠内からは18～19世紀の遺物が検出された。

出土遺物　1号暗渠から、34鉢、35火鉢、36・37擂鉢、38土瓶蓋、39・40碗、41・42丸瓦出土。馬場跡上面から18～19世紀の陶磁器出土。

切合関係　ピット74・59・80・63・85・68・65・83、14号溝・4号溝に切られる。

時　　期　近世

第4節　ピット列・柱穴列

調査区全体では125基のピットが検出された。Eグリッドから西側にかけて比較的集中して確認された。基本的にピットの覆土は黒褐色及び暗褐色粘質土である。また、1号・2号ピット列、柱穴列以外のピットについては一覧表にまとめここに報告する。

1号ピット列（遺構図10／遺物図23）

位　　置　E・D－2～6グリッド

検出状況　南北方向N－4°－Eに主軸をもち、北側からピット79・60・61・72・78・86・56・88・57・47・82、9号土坑がほぼ一直線上に並ぶ。各ピットの間隔は3m、1.5m、0.7～0.8mである。ピットのプランは円形または楕円形であり、径0.3～1.2mを測るが、径0.3～0.4mの規模のものが多い。ピット78・56・47の深さは、15～40cmと浅いが、他のピットに関しては60～90cmと深い。各ピットの覆土は暗褐色粘土を基調とし、少量の炭化物と焼土粒子が確認されている。柱等の木片は確認されてはいない。

出土遺物　ピット88から、126擂鉢出土。

切合関係　ピット57は8号土坑に切られる。

時　　期　近世

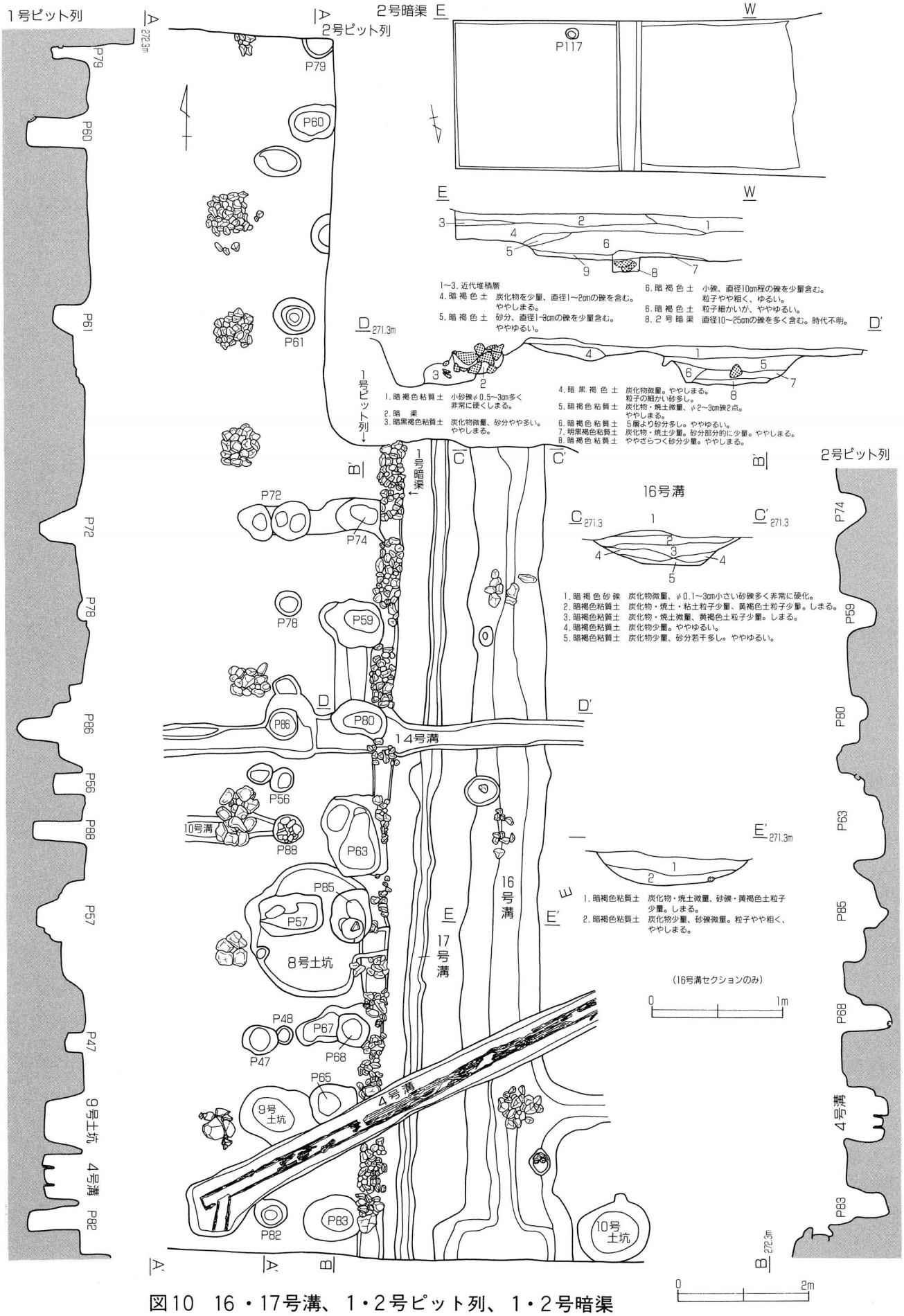


図10　16・17号溝、1・2号ピット列、1・2号暗渠

2号ピット列（遺構図10／遺物図24）

位　　置　D－4～6グリッド

検出状況　南北方向N－3°－Eに主軸をとり、1号暗渠とほぼ平行する。北側からピット94・59・80・63・85・68・83がほぼ一直線上に並ぶ。各ピットはほぼ1.5m間隔で並ぶ。ピットは、長軸0.7～1.2m、短軸0.6～0.8mの楕円形のものが多い。深さは0.5～0.7mと深い。各ピットの覆土は黒褐色及び暗褐色粘質土を基調とし、少量の炭化物と焼土粒子が確認されている。柱等の木片は確認されてはいない。

出土遺物　ピット63から、127角釘出土。

切合関係　1号暗渠を切る。

時　　期　近世

柱穴列（遺構図10）

位　　置　D－4グリッド

検出状況　ピット33と64の2基により構成され南北方向N－1°－Eに主軸をとる。ピット33は、長軸1m、短軸0.9mの楕円形のプランであり、深さは0.9mある。ピット64は、長軸0.95m、短軸0.8mの楕円形のプランであり、深さは0.9mである。両ピットには柱と考えられる木片が残存し、柱間はほぼ2.8mである。また、ピット33の木片の基底部には径20～30cmの自然石が3石据えられていた。

出土遺物　ピット33から、かわらけ・土器小片出土。ピット64から、土器小片出土。

切合関係　1号溝に切られる。

時　　期　中世

第5節　石列

1号石列（遺構図29）

位　　置　E－2～3グリッド

検出状況　南北方向N－4°－Eに軸線をとる。長さ約4.2m、幅30～40cmの石列である。径約20cm、厚さ約10cmの自然石を2列にほぼ水平に設置されている。

出土遺物　未掲載ではあるが、桟瓦・丸釘などが検出された。

切合関係　1号建物を切る。

時　　期　近代

2号石列（遺構図29）

位　　置　E～G－3、H～I－3グリッド

検出状況　東西方向N－86°－Wに軸線をとる。E～G－3部分では長さ7.4m、H～I－3部分では長さ2m確認されている。石列の幅は30～40cmあり、径約20cm、厚さ約10cmの自然石が2列にほぼ水平に設置されている。

出土遺物　図化していないが、桟瓦・丸釘などが検出された。

切合関係　1号溝・12号溝を切る。

時　　期　近代

3号石列（遺構図8／遺物図24）

位　　置　G－5グリッド

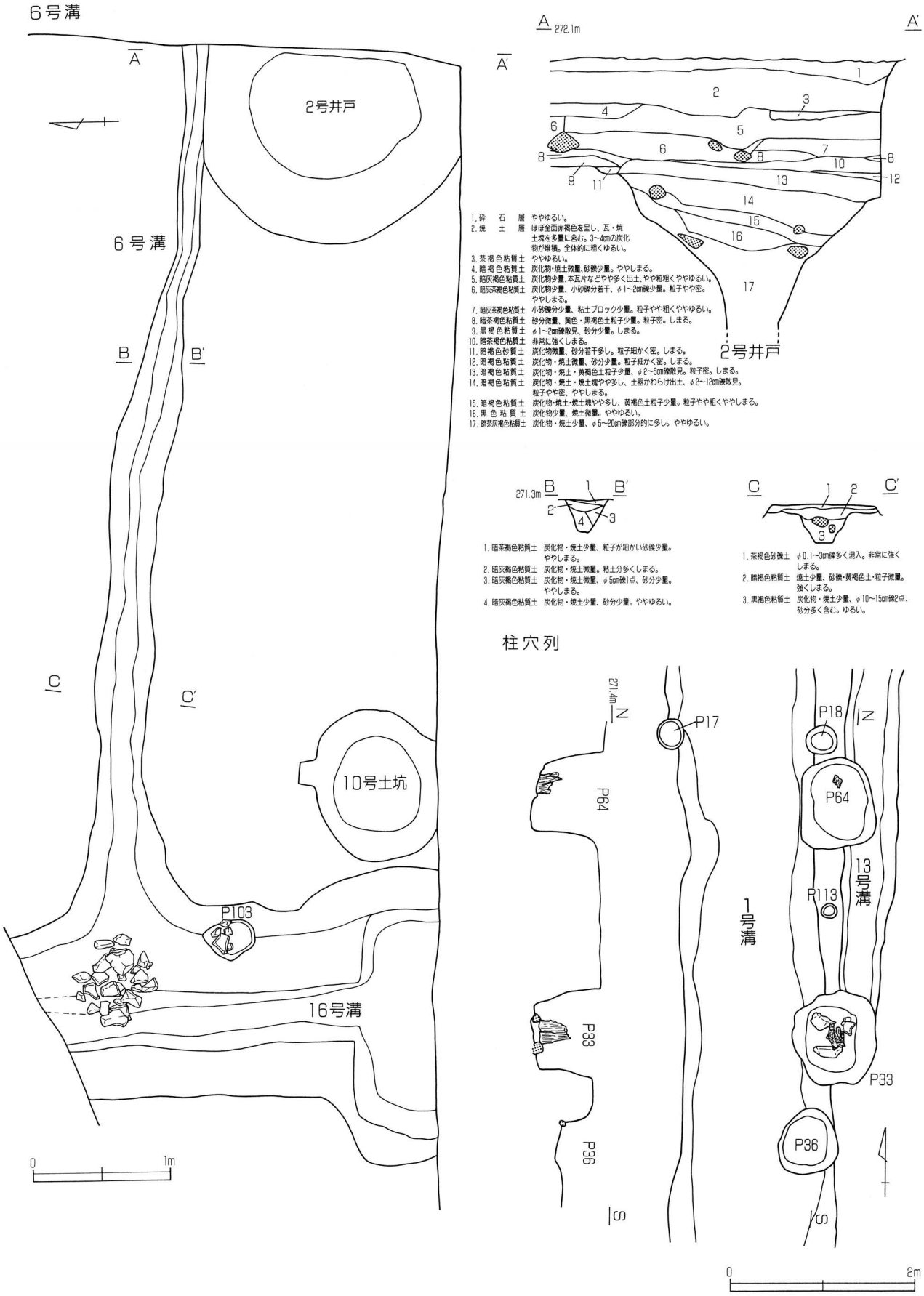


図11　6号溝、2号井戸、柱穴列

検出状況　東西方向N－1°－Eに軸線をとる。検出部分は、長さ2.1m、高さ0.2mの石列である。径25～40cmの石材は横長に設置され、65度の勾配がとられている。石列の裏込には径5～10cmの礫が充塡されている。また裏込内からは角釘・銭貨など近世の遺物が多数出土した。
出土遺物　角釘130～135角釘、136楔、137銭貨は北宋銭である。また未掲載ではあるが、瓦が出土した。
切合関係　なし
時　　期　近世

4号石列（遺構図7）
位　　置　F－2グリッド
検出状況　1号溝内北辺西側で確認された、1号溝と平行する長さ0.8mの石列である。径30～40cmの自然石が4個並び、高さは0.3mである。
出土遺物　なし
切合関係　1号溝内に位置する。
時　　期　中世

第6節　井戸

1号井戸（遺構図12／遺物図18～21）
位　　置　H・I－4・5グリッド
検出状況　試掘調査トレンチ（T－1）の中央部で検出されたが、西側は未確認である。円形プランであり漏斗状の形態である。上端径約3.0m、中段は径0.9mを測る。未完掘のため、深さは不明である。遺構上面は拳大の礫が厚さ0.5m以上にわたり堆積し、その下層からは平瓦・丸瓦・輪違い瓦が1㎥ほど検出された。
出土遺物　43～47・54・55陶器、48～51擂鉢、52・53肥前系磁器、56釘、57鉛製鉄砲玉、58～60丸瓦、61～62平瓦、63～78輪違い瓦出土。
切合関係　ピット120～125の切合い関係は不明。
時　　期　近世（18～19世紀）

2号井戸（遺構図12／遺物図22）
位　　置　B－6・7グリッド
検出状況　東・南側は調査対象外であり未掘削である。円形プランであり、上端径推定約2.0m、確認面から0.5m下がった位置で径1.0mとなり、この位置からほぼ垂直に落ち込むが、深さについては不明である。遺構上部南斜面には径約10～20cmの礫が多数検出された。覆土は暗褐色土及び黒褐色土を基調とし、炭化物と焼土及び小礫の混入が少量確認された。
出土遺物　79・80かわらけ、81片口土器、焼土塊出土。
切合関係　6号溝に切られる。
時　　期　中世

4号井戸（遺構図12／遺物図23）
位　　置　G－2・3グリッド
検出状況　南側は攪乱を受けているが、ほぼ円形プランであり漏斗状の形態を有する。径

1.65m、遺構確認面より１m下がった位置で径0.65～0.7mを測り、この地点からほぼ垂直に落ち込むが、深さは不明である。覆土は黒褐色土を基調とし、炭化物と焼土の混入が微量確認される。

出土遺物　96・97かわらけ出土。

切合関係　南側は近代の攪乱を受ける。

時　　期　中世

5号井戸（遺構図12／遺物図23）

位　　置　F・G－4グリッド

検出状況　円形プランで漏斗状の形態を有する。長軸2.3m、短軸2.0mを測り、遺構確認面より１m下がった位置で径0.8mを測り、この地点からほぼ垂直に落ち込むが、深さについては不明である。覆土は小礫を含む暗褐色の粘質土である。

出土遺物　98須恵器、99釜、100かわらけ、焼土塊出土。

切合関係　ピット105・106の切り合い関係は不明。

時　　期　中世

6号井戸（遺構図13／遺物図23）

位　　置　F－2・3グリッド

検出状況　円形プランで擂鉢状の形態を有する。長軸3.25m、短軸2.55mを測る。深さについては不明である。覆土は暗褐色土を基調とする。上層の覆土には炭化物と焼土及び中世の遺物が多く混入する。

出土遺物　101・102かわらけ、103土製擂鉢、104内耳土器、105・106丸皿、107志戸呂製丸皿、108瀬戸美濃系擂鉢、焼土塊出土。

切合関係　12号溝・１号建物に切られる。ピット92との切合い関係は不明。

時　　期　17世紀前後

7号井戸（遺構図13）

位　　置　F・G－6グリッド

検出状況　楕円形プランであり、ほぼ垂直に掘り込まれている。長軸0.8m、短軸0.6mを測り、遺構確認面より0.5m下がった地点からほぼ垂直に落ち込み、直径0.45mとなる。深さに関しては不明である。上層の覆土は炭化物と焼土を含む暗褐色土である。

出土遺物　なし

切合関係　ピット28を切る。

時　　期　中世～近世

8号井戸（遺構図13）

位　　置　F・G－5・6グリッド

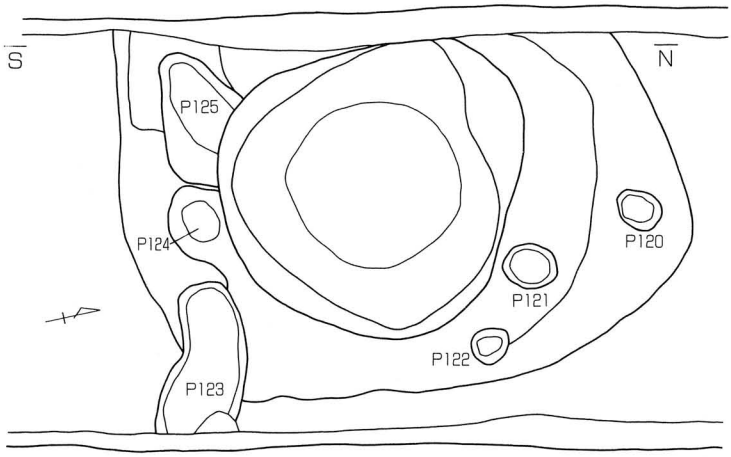
検出状況　円形プランであり漏斗状の形態を有する。径1.2m、遺構確認面より0.5m下がった位置で径0.6mと狭くなり、ほぼ垂直に落ち込む。深さは不明である。第４層の暗灰褐色粘質土からは炭化物と焼土が少量確認された。

出土遺物　なし

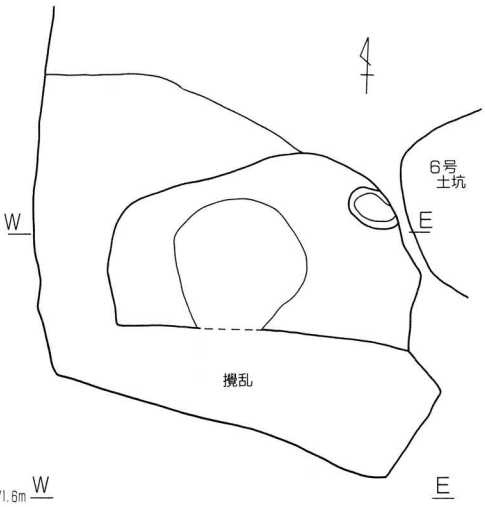
切合関係　上面は３号溝に切られる。

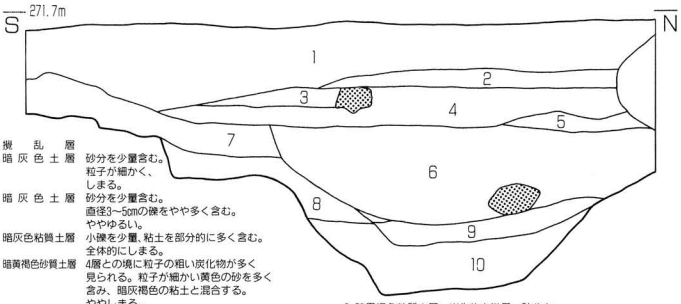
時　　期　中世～近世

1号井戸

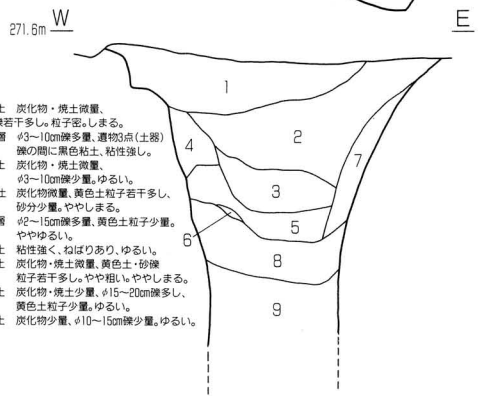


4号井戸



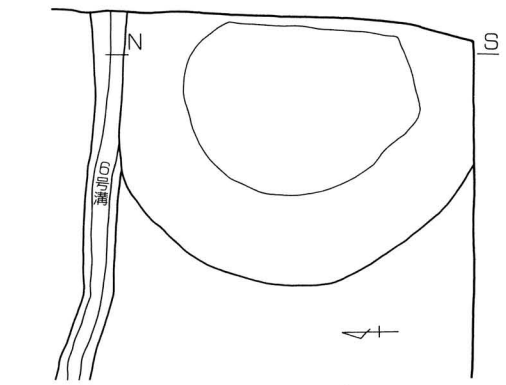


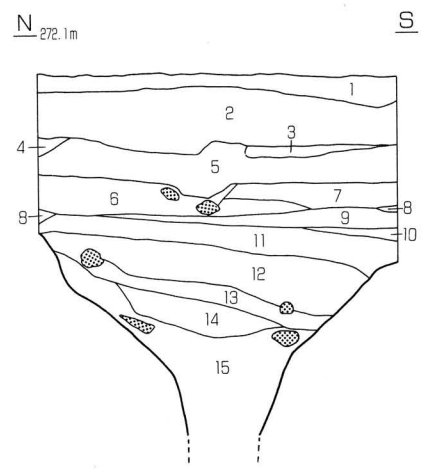
1. 撹　乱　層
2. 暗 灰 色 土 層　砂分を少量含む。粒子が細かく、しまる。
3. 暗 灰 色 土 層　砂分を少量含む。直径3～5cmの礫をやや多く含む。ややゆるい。
4. 暗灰色粘質土層　小礫を少量、粘土を部分的に多く含む。全体的にしまる。
5. 暗黄褐色砂質土層　4層との境に粒子の粗い炭化物が多く見られる。粒子が細かい黄色の砂を多く含み、暗灰褐色の粘土と混合する。ややしまる。
6. 礫　　層　直径10～15cmの礫を多量含み、礫内に粘土が入る。
7. 暗褐色粘質土層　炭化物、直径1～5cmの小礫を少量含む。粘土が多く、しまる。
8. 暗灰青褐色粘質土層　粘土分を多く含み、しまる。
9. 暗黒褐色粘質土層　炭化物を微量、砂分を少量含む。粘性強く、ややしまる。
10. 暗黒褐色粘質土層　砂分を微量含む。粘性強く、ややしまる。



1. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、φ0.5～4cm礫若干多しゅ粒子密。しまる。
2. 黒色粘土礫層　φ3～10cm礫多量、遺物3点(土器)礫の間に黒色粘土、粘性強し。
3. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、φ3～10cm礫少量。ゆるい。
4. 暗黄茶褐色粘質土　炭化物微量、黄色土粒子若干多し、砂分少量。ややしまる。
5. 黒褐色土層　φ2～15cm礫多量、黄色土粒子少量。ややゆるい。
6. 暗褐色粘土　粘性強く、ねばりあり、ゆるい。
7. 暗黄褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黄色土・砂礫粒子若干多しゅ。やや粗しゅややしまる。
8. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量、φ15～20cm礫多し、黄色土粒子少量。ゆるい。
9. 暗茶褐色粘質土　炭化物少量、φ10～15cm礫少量。ゆるい。

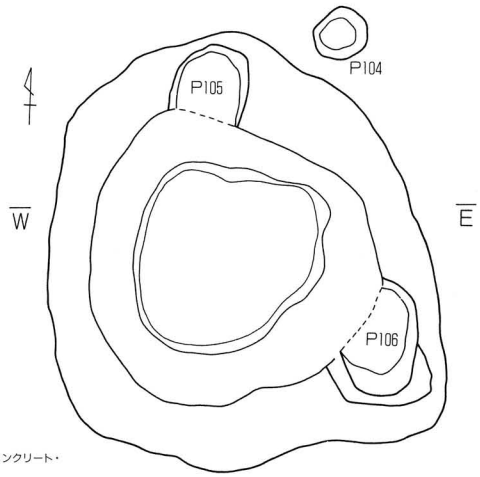
2号井戸

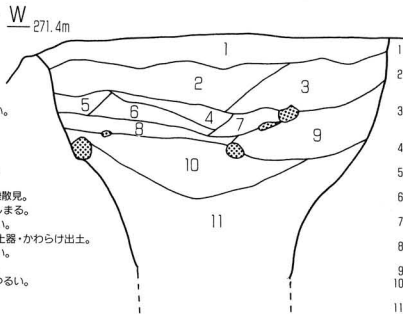




1. 砕　石　層　ややゆるい。
2. 撹　乱　層　木片・ビニール・焼土・コンクリート・ガラスなど多く含む。戦後(昭和20年7月6日以降)の層
3. 茶褐色粘質土　ややゆるい。
4. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、砂礫少量。粒子密、ややしまる。
5. 暗灰褐色粘質土　炭化物少量。やや粒子粗く、ややゆるい。本瓦多く出土。
6. 暗灰茶褐色粘質土　炭化物少量、小砂礫分若干、φ1～2cm礫少量。粒子やや密、ややしまる。
7. 暗灰茶褐色粘質土　小砂礫分少量、粘土ブロック少量。粒子やや粗く、ややゆるい。
8. 暗茶褐色粘質土　砂分微量。粒子密、しまる。黄色・黒褐色土粒子少量。
9. 暗茶褐色粘質土　非常に強くしまる。
10. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、砂分少量。粒子細かく密、しまる。
11. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、φ2～5cm礫散見。黄褐色土粒子少量。粒子密、しまる。
12. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土・焼土塊やや多しゅ。φ2～12cm礫散見。粒子ややや密、ややしまる。土器・かわらけ出土。
13. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土・焼土塊やや多しゅ。黄褐色粒子少量。粒子やや粗く、ややしまる。
14. 黒色粘質土　炭化物少量、焼土微量。ややゆるい。
15. 暗茶灰褐色粘質土　炭化物・焼土少量、φ5～20cm礫部分的に多しゅ。ややゆるい。

5号井戸



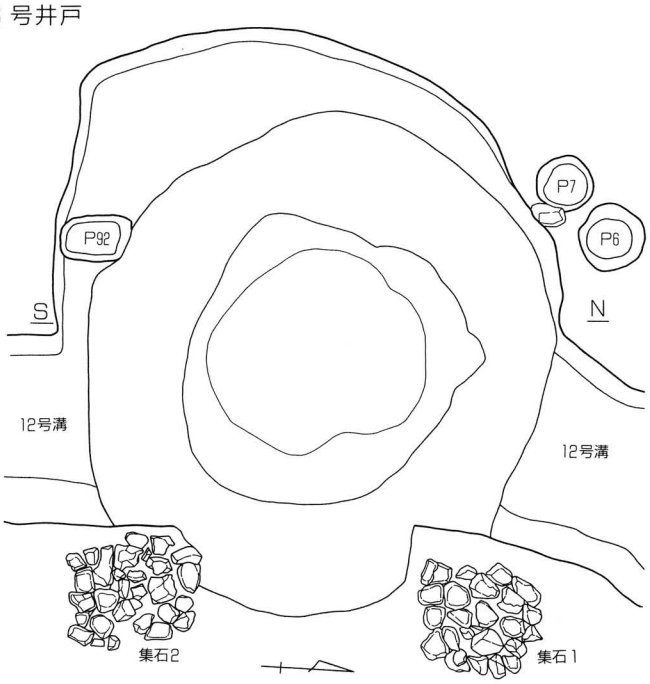


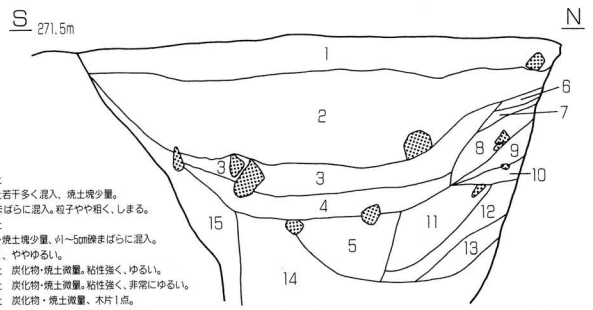
1. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土やや多し、φ3～5cm礫少量、砂分微量。粒子密、しまる。
2. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土やや多しゅ。1層より黒色土少なく、黄色土粒子・砂分少量。粒子密、しまる。
3. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土・焼土塊少量。φ2～4cm礫2～3点、黄色土粒子微量。粒子密、しまる。
4. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土・焼土塊。黄色土粒子・砂分少量。しまる。
5. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黄色土粒子、砂分少量。しまる。
6. 暗黄褐色粘質土　炭化物・焼土微量。φ1～3cm礫、黄色土、黒色土ブロック多く、しまる。
7. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土・焼土塊少量、砂分微量、φ4～15cm礫少量。しまる。
8. 暗黄褐色粘質土　φ2～4cm礫少量。砂分やや多く、ややしまる。
9. 黒褐色粘質土　φ2～15cm礫少量。
10. 暗褐色礫層　φ5～15cm礫多しゅ。粘性強く、ゆるい。
11. 黒褐色粘質土　しま状土、黄色土・黒色土入る。ゆるい。

図12　1～5号井戸

0　1m

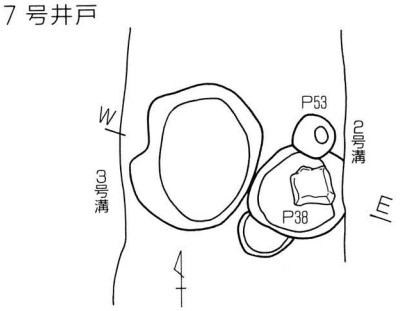
6 号井戸

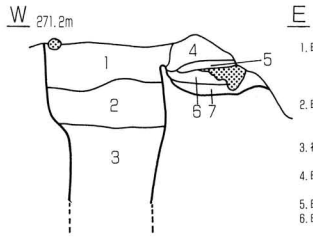




1. 暗茶褐色粘質土
炭化物・焼土若干多く混入、焼土塊少量。
φ1～10cm礫まばらに混入。粒子やや粗く、しまる。
2. 暗褐色粘質土
炭化物・焼土・焼土塊少量、φ1～5cm礫まばらに混入。
粘性やや強く、ややゆるい。
3. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量。粘性強く、ゆるい。
4. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量。粘性強く、非常にゆるい。
5. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、木片1点。
砂分若干含む。粘質強く。ゆるい。
6. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量。黄褐色土粒子少量。
粘性やや強く、ややゆるい。
7. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量。粘性やや粗く、ややゆるい。
8. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、φ3～14cm礫4点、砂分少量。
粒子やや粗く、ややゆるい。
9. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量、
黄褐色土粒子少量。粒子密。ややしまる。
10. 黒黄褐色粘質土　黄褐色土粒子やや多く、粗い。
11. 黒黄褐色粘質土　黄褐色土粒子やや多く、やや粗い。
φ1～10cm礫多量。
12. 暗黄褐色粘質土　炭化物・焼土少量。粘性ややあり、ゆるい。
13. 黒褐色粘質土　黄褐色土粒子若干含む。
粒子粗く、ゆるい。
14. 暗黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量、
φ10～20cm礫多量。粘性強く、ゆるい粘土含む。
15. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、
黄褐色土粒子少量、φ5～10cm礫少量。ややゆるい。

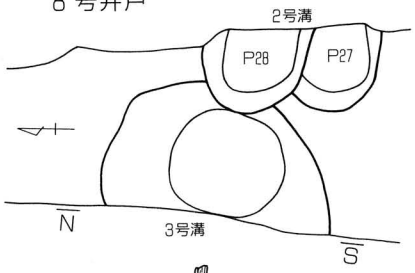
7 号井戸

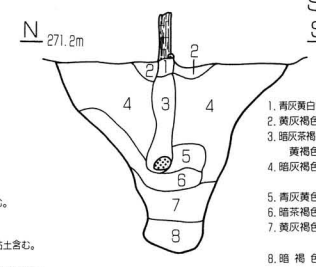




1. 暗褐色粘質土
炭化物・焼土若干多し、焼土塊少量、
小礫若干、黄褐色土粒子少量。
粒子密、しまる。
2. 暗黄白褐色粘質土
炭化物・焼土微量。粒子粗く、ややゆるい。
白色ブロックやや多く混入。
3. 褐色粘質土　φ10cmほどの礫混入。
黄赤褐色土少量。ゆるい。
4. 暗赤褐色焼土　炭火物・焼土、焼土塊多量、
φ5～10cm礫少量。しまる。
5. 暗黄褐色粘質土　炭化物・焼土微量、しまる。
6. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、
黄褐色土粒子少量。粒子やや粗く、ややゆるい。
7. 暗黄褐色粘質土　焼土塊少量。
黄色土粒子多く、ややしまる。

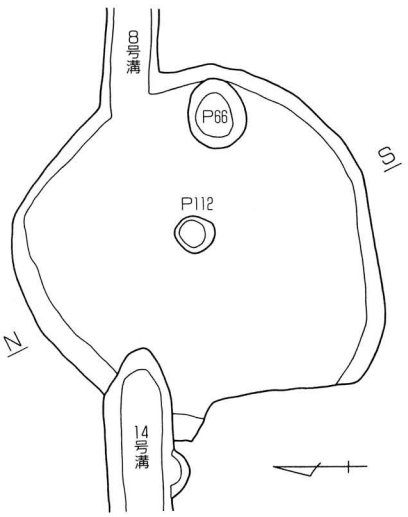
8 号井戸



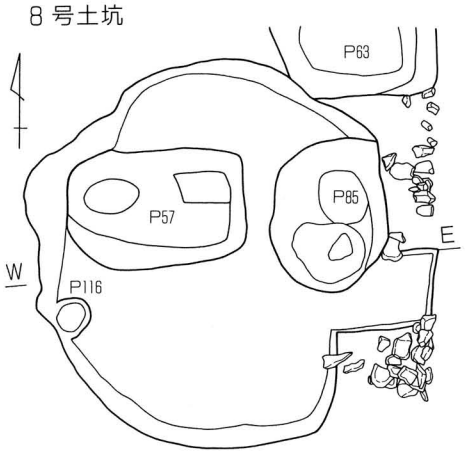


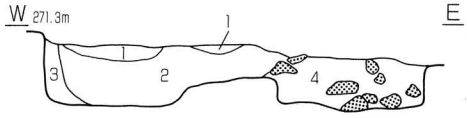
1. 青灰黄白色粘質土　ややゆるい。
2. 黄灰褐色粘質土　φ0.5～4cmブロック上の粒子。しまる。
3. 暗灰茶褐色粘質土　炭化物少量。
黄褐色土粒子少量、φ5～15cm礫少量。ややゆるい。
4. 暗灰褐色粘質土　炭化物・焼土少量、
小礫少量。ややしまる。
5. 青灰黄色粘質土　不均一で、非常にゆるい所あり。
6. 暗茶褐色粘質土　炭化物微量、黄褐色土多く、ややゆるい。
7. 黄灰褐色粘質土　炭化物少量、φ8cm礫1点、
細かい砂少量。ゆるい。
8. 暗褐色粘土　黄褐色土粒子少量。
粒子は粗く、非常にゆるい。

3 号土坑



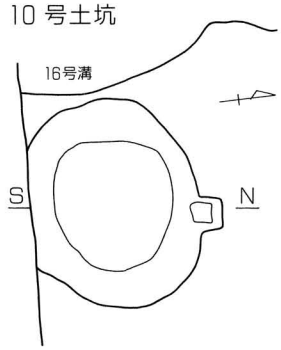
8 号土坑

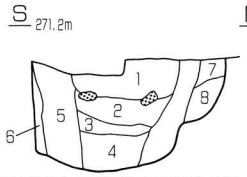




1. 褐色粘質土　炭化物微量、小礫多く、非常にしまる。
2. 黄灰褐色粘質土　φ2～13cm礫多し、瓦少量、砂分微量。ややしまる。
3. 黄褐色粘質土　砂微量。しまる。
4. 黄灰褐色粘質土　炭化物微量、φ3～15cm礫少量、砂少量。ややしまる。(1号暗渠)

10 号土坑





1. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土少量、砂分微量。粒子密。しまる。
2. 暗褐色砂粘土層　砂分多く、全体的にゆるい。
3. 暗茶褐色砂　やや粗い砂多く、粘土分も多い、しまる。
4. 暗褐色粘質土　ゆるい。
5. 暗灰茶褐色粘質土　白・黄・灰色の粘土がブロック状に入る。ややしまる。
6. 茶褐色粘質土　炭化物・焼土微量、黄褐色土少量。しまる。
7. 白灰色粘土　しまる。
8. 黒色粘土　ややしまる。

0　1m

図13　6～8号井戸、3・8・10号土坑

第７節　土　坑

２号土坑（遺構図14／遺物図23）

位　　置　Ｂ・Ｃ－５・６グリッド

検出状況　東壁に遮られているため全容は不明であるが、現状不整方形を呈し南北４ｍ、東西２ｍ、深さ0.2ｍを測る。覆土は褐色粘質土を基調とし、近代の遺物が多数検出された。

出土遺物　109釘。未掲載ではあるが近代陶磁器出土。

切合関係　３号井戸・４号溝を切る。

時　　期　近代

３号土坑（遺構図13）

位　　置　Ｃ－３・４グリッド

検出状況　円形プランを呈し、径1.9ｍ、深さ0.15ｍを測る。黒褐色粘質土の覆土内からは、径30cmの平坦な自然石が検出された。

出土遺物　なし

切合関係　馬場跡を切る。ピット１に切られる。ピット66・102、14号溝との切合い関係は不明。

時　　期　近代

６号土坑（遺構図14）

位　　置　Ｇ－２グリッド

検出状況　４号井戸に近接して検出された。長軸1.6ｍ、短軸1.3ｍの楕円形である。深さは0.8ｍを測る。暗褐色及び黒褐色粘質土を基調とする。

出土遺物　未掲載ではあるがススが付着した内耳土器検出。

切合関係　なし

時　　期　中世

７号土坑（遺構図14／遺物図23）

位　　置　Ｆ・Ｇ－５グリッド

検出状況　東西方向に長い隅丸方形プランを呈し、東西3.3ｍ、南北1.3ｍ、遺構西側では深さ0.45ｍを計測する。遺構東側は深さが0.7ｍと一段落ち込み、径約0.9ｍの桶が設置されている。桶側板は腐食が著しいため、残存高さ約15cmが確認されたのみである。桶内からは近代の遺物が検出された。

出土遺物　110・111釘、112ガラス瓶、113明治16年の半銭銅貨、114桶底板出土。

切合関係　２号建物の下層に位置する。２号溝との切合い関係は不明である。

時　　期　近代

８号土坑（遺構図13／遺物図23）

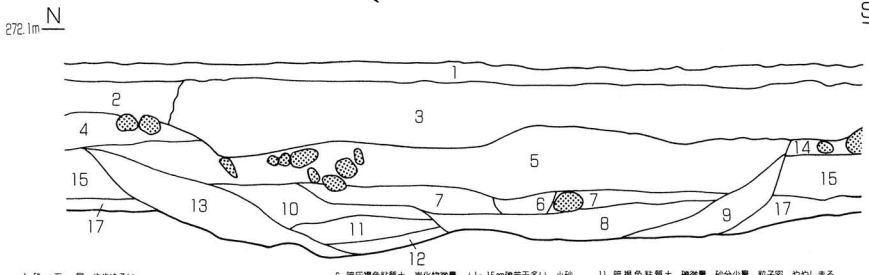
位　　置　Ｄ・Ｅ－５グリッド

検出状況　円形プランを呈し、直径2.1ｍ、深さ0.35ｍ測る。砂が微量混入した褐色及び黄褐色粘質土を基調とする。

出土遺物　115鉛製の鉄砲玉、瓦出土。

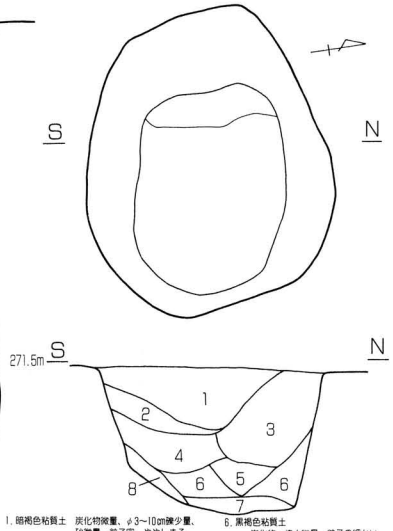
切合関係　１号暗渠、ピット57・85・116を切る。

2号土坑



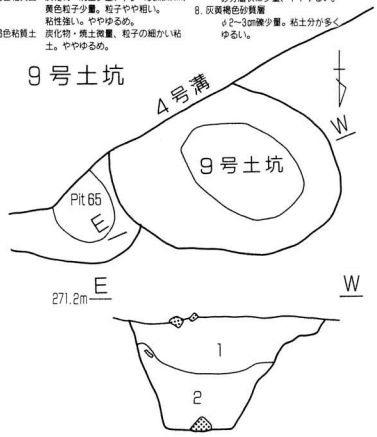
1. 砕石層　ややゆるい。
2. 攪乱層　木片・焼土・ビニール・コンクリート・ガラスなど多く含む。戦後（昭和20年7月6日以降）の層
3. 焼土層　ほぼ全面赤褐色を呈し、瓦・焼土塊を多量に含む。φ3～4cmの炭化物堆積。全体的に粗くゆるい。
4. 明褐色粘質土　φ3～15cm礫若干、小砂礫・黄褐色土粒子少量。粒子密。しまる。
5. 暗灰褐色粘質土　炭化物微量、φ1～15cm礫若干多し。小砂礫少量。粒子密。しまる。
6. 暗灰褐色粘質土　炭化物微量、φ1～15cm礫若干多い。小砂礫少量。粒子密、しまる。
7. 褐色粘質土　砂礫分微量。粒子密。ややしまる。
8. 暗青灰褐色粘質土　炭化物少量、φ1～4cm礫少量。粒子密。ややしまる。
9. 黒褐色粘質土　炭化物多量、φ1～3cm礫少量、赤褐色分少量。粒子やや粗く、ややゆるい。
10. 暗灰褐色粘質土　φ1～4cm礫若干、砂分少量。粒子密。ややしまる。
11. 暗褐色粘質土　礫微量、砂分少量。粒子密、ややしまる。
12. 暗褐色粘質土　砂礫微量、砂分少量。粒子密。ややしまる。
13. 暗青灰褐色粘質土　炭化物少量、砂礫若干多し。粒子密。ややしまる。
14. 暗褐色粘質土　炭化物・焼土微量、砂礫少量。粒子密。ややしまる。
15. 暗灰茶褐色粘質土　炭化物少量、小砂礫分若干、φ1～2cm礫少量。粒子やや密、ややしまる。
16. 暗茶褐色粘質土　砂分微量、黄色・黒褐色土粒子少量。粒子密。しまる。
17. 黒褐色粘質土　φ1～2cm礫散見、砂分少量。しまる。

6号土坑



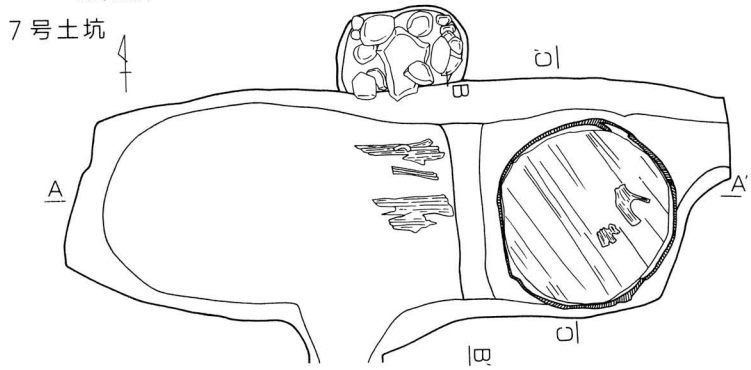
1. 暗褐色粘質土　炭化物微量、φ3～10cm礫少量、砂微量。粒子密。ややしまる。
2. 暗褐色粘質土　φ2～10cm礫多い。砂分若干、黄色土粒子少量。しまる。
3. 暗褐色礫層　φ5～15cm礫多量、粘土混入。
4. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土少量、φ5～10cm礫7点、黄色粒子少量。粒子やや粗い。粘性強い。ややゆるめ。
5. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、粒子の細かい粘土。ややゆるめ。
6. 黒褐色粘質土　炭化物・焼土微量、粒子の細かい粘土。ややゆるい。φ5-10cm礫少量。
7. 暗褐色粘質土　砂分層状に少量、ややゆるい。
8. 灰黄褐色砂質層　φ2～3cm礫少量。粘土分が多く、ゆるい。

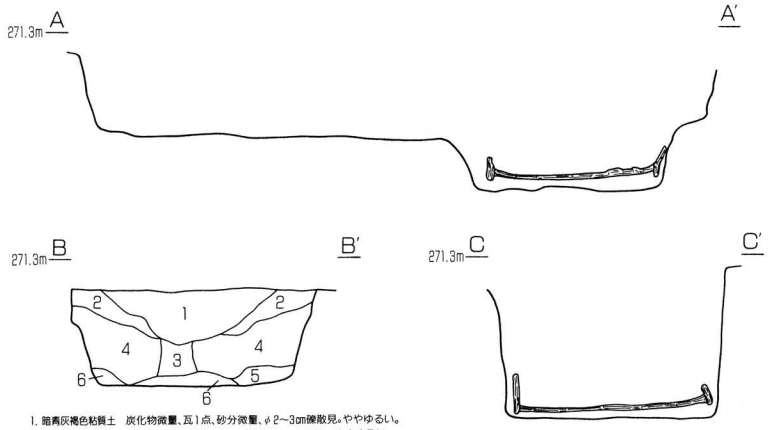
9号土坑



1. 褐色粘質土　炭化物・焼土・φ4～10cm礫・黄褐色土粒子少量。しまる。
2. 暗褐色粘質土　炭化物微量、φ5～10cm礫まばらに少量混る。ややしまる。

7号土坑





1. 暗青灰褐色粘質土　炭化物微量、瓦1点、砂分微量、φ2～3cm礫散見。ややゆるい。
2. 青灰褐色粘質土　炭化物・砂分微量。黄・白色ブロック少量。ややゆるい。
3. 暗灰褐色粘質土　砂礫微量。ややゆるい。
4. 黄灰白色粘質土　粘土ブロックの土層、割石1点。ややゆるい。
5. 暗褐色粘質土　炭化物少量。砂分多く、非常にゆるい。
6. 暗白褐色粘質土　しまる。

11号土坑

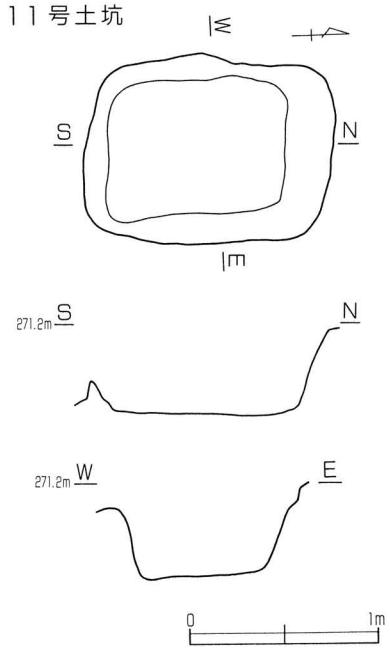


図14　2・6・7・9・11号土坑

時　　期　近世

9号土坑（遺構図14）
位　　置　E－6グリッド
検出状況　南側は4号溝に切られているため全容は不明であるが、ほぼ楕円形を呈し、長軸1.25m、短軸0.85m、深さ0.6mである。
出土遺物　なし
切合関係　4号溝に切られる。ピット65との切合い関係は不明。
時　　期　近世

10号土坑（遺構図13）
位　　置　B・C－6グリッド
検出状況　南側は検出不能であるが、楕円形プランを呈する。直軸1.1m、短軸0.95m、深さ0.6mを測る。
出土遺物　なし
切合関係　なし
時　　期　不明

11号土坑（遺構図14／遺物図23）
位　　置　E－6グリッド
検出状況　隅丸方形プランを呈し、南北1.3m、東西1.1m、深さ0.5mを測る。油脂分を多く含む黒褐色土を基調とする。
出土遺物　116煉瓦出土。
切合関係　1号溝を切る。
時　　期　近代

第8節　埋甕

1号埋甕（遺構図29／遺物図24）
位　　置　D－6～7グリッド（南壁セクション内）
検出状況　表土から10cmと極めて浅い、昭和20年7月6日の甲府空襲による焼土層から検出された。口径59cm、高さ36.2cmの素焼きの甕である。甕内部は焼土と炭が大量に堆積し、染付の便器縁部が出土した。
出土遺物　138埋甕、139便器出土。
切合関係　なし
時　　期　近代（昭和期）

2号埋甕（遺構図29／遺物図24）
位　　置　D－5グリッド
検出状況　埋甕上部は攪乱を受け欠損しているが、推定復元体部直径50cm以上の大型の素焼きの甕である。甕内部からは焼土と炭化物に混入し融解したガラス瓶が検出された。昭和20年7月6日の甲府空襲により焼失した建物に伴う遺構と考えられる。
出土遺物　140埋甕、図化されてはいないが融解したガラス瓶・瓦を検出。

切合関係　16号溝及び馬場跡上部に位置する。
時　　期　近代（昭和期）

3号埋甕（遺構図29／遺物図24）
位　　置　F－5グリッド
検出状況　2号建物北西側から検出された。埋甕上部は攪乱を受け欠損しているが、推定復元体部直径50cm以上の大型の素焼きの甕である。甕内部からは焼土と炭化物と伴に融解したガラス片が検出された。埋甕周辺には2号建物に付属すると考えられる、基礎根石の集石が点在することから、昭和20年7月6日の甲府空襲により焼失した2号建物に伴う遺構と考えられる。
出土遺物　141埋甕、未掲載ではあるが融解したガラス片・瓦を検出。
切合関係　7号土坑を切る。
時　　期　近代（昭和期）

第9節　上水施設（4号溝・5号溝・3号井戸）（遺構図15／遺物図22）

位　　置　B～E－5～6グリッド
検出状況　上水施設は4号溝・5号溝と3号井戸により構成されている。水の流路として調査区南側で現状確認された5号溝の6号木樋から4号溝の5号木樋に2.5cmの落差で水が落ち、5本の木樋を通って北東方向の1号木樋まで30cmの高低差（25／1000）で、3号井戸に水が流れる。

4号溝は南西から北東方向のN－63°－Eに主軸をもつ、長さ12m、幅50～60cm、深さ55～65cm、垂直に掘り込まれた溝である。溝底部には、5本の木樋が連結して設置され全長12.26mを測る、腐食が著しいものもあり、明確な測定値が提示できる1号、4号、5号木樋の3点の図化を行った。3号井戸側の1号木樋は長さ121.7cm、高さ18.2cm、外幅21.5cm、内幅14.5cmを測り、板材の厚さは3.3～3.5cmである。角釘を15～21cmの間隔で打ち付け、底板と側板を箱状に組み立てられている。2～5号木樋は、長さ2.7～2.8mで、高さ17.5～19cm、外幅21.5cm、内幅12.5～14cm、板材の厚さ3.3～4.5cmを計測する。5号木樋と5号溝内の6号木樋の接続部は斜めに接続され、6号木樋との間に2.5cmの落差が設けられている。5号木樋と4号木樋の接続部に関しては、5号木樋側が雄型であり、4号木樋が雌型の構造である（挿図1）。また各木樋の天板は腐食が著しく明確な測定値を示せないが、側板とほぼ同寸の厚さであり、側板と天板の接続部に釘の痕跡が見当たらないことから、置いただけてあると考えられる。

5号溝は南壁際で検出されたため、現状長さ0.5mで、幅56cm、深さ55cm、N－5°－Eに主軸をもつ4号溝と同規模の溝である。6号木樋は検出された部分で長さ0.5mであり、外寸、内寸等は他の木樋と同規模である。

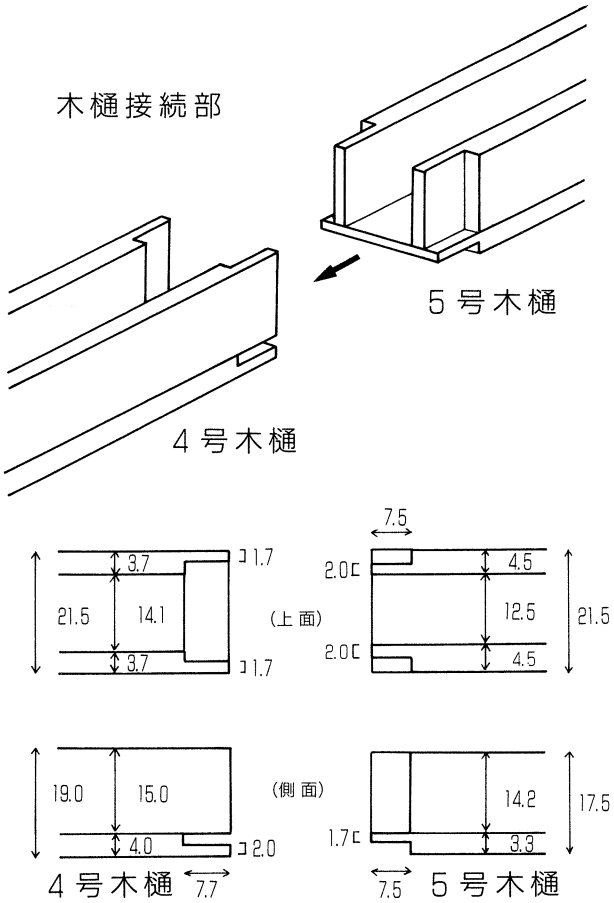
3号井戸は、1号木樋に接続する溜井戸である。掘り方はほぼ円形プランを呈し、径1.4～1.5m、深さ1.5mである。桶はほぼ中央部に径75cm、上面は腐食しているが、直径75cm高さ70～80cm、2箇所を箍で締められ設置されている。桶の1号底板は径70cm、厚さ2cmあり、4枚の板が方形の木釘で接続されている。

桶側板は、幅5～7cm、厚さ2.5cmの23枚の板により構成され、底板と接続部には切り込みが見られる。2号底板は、径67.4cm、厚さ3.2cmを測り、1号底板の20cm下方にほぼ水平に存在した。

出土遺物　82～86磁器碗は、見込み部に「監」、高台内に「会津垂之」と書かれている。87は白磁碗である。88磁器皿は4号溝1号木樋内から出土した。89は銅版転写の染付徳利、90水滴、91・92ガラス瓶、93丸釘、94・95角釘である。未掲載ではあるが節が抜かれた竹、板ガラス片が3号井戸桶内から出土した。また4号溝及び3号井戸の掘り方内からは瓦片が検出されている。

切合関係　3号井戸は、2号土坑に切られる。4号溝は、1号暗渠・16号溝・17号溝・9号土坑・馬場面を切る。2号建物に切られる。

時　　期　近代（明治期）甲府監獄署において使用された遺構と考えられる。



第10節　出土遺物（遺物図25）

遺構に伴う遺物は、各遺構部分において記述した。ここでは、遺構外から検出された遺物について記載する。142志戸呂窯の皿は中世末から近世初頭の遺物である。143・144京焼風陶器である。145～148は18世紀後半から19世紀代の磁器である。150・151磁器碗であり近代の遺物である。152土鈴は、同様の遺物が16号溝内から出土している。153軒平桟瓦、154軒瓦である。155角釘、156は器種不明の金属製品である。157・158は銅製の煙管吸口である。159・160はいずれも加工された石材であるが、用途等については不明である。

上水路状況（4号溝・3号井戸）

6号木樋
5号木樋
4号木樋
3号木樋
2号木樋
1号木樋
3号井戸

A　A′ 271.2m
1. 暗黄灰褐色粘質土層　粘土ブロック多量。ややしまる。
2. 暗褐色粘質土層　鉄、直径3～10cm少量、砂分やや多し、黄色粒子少量。ややしまる。
3. 黒褐色土層

B　B′ 271.2m
1. 明茶褐色粘質土層　白色・黄色粘土ブロック少量。粘性強く、ややゆるい。
2. 白色粘土層　黒色粘土少量。ややゆるい。
3. 黄白色粘土層　粘土ブロック、粒子粗くゆるい。
4. 黒褐色土層

C　C′ 271.2m
1. 暗黄白褐色粘土層　砂分少量ややしまる。
2. 明褐色粘質土層　炭化物少量、黄・白色粘土ブロック少量。しまる。
3. 暗褐色粘質土層　砂分多く含む。ゆるい。
4. 暗褐色粘質土層　粒子密。しまる。
5. 黒褐色土層

D　D′ 271.2m

5号木樋

6号木樋接続部

4号木樋

1号木樋

1号木樋
箍
底板①
箍
底板②

0　（遺物図）　1m

3号井戸桶側板（1号木樋接続部）
箍痕跡
（外面）
（内面）

3号井戸桶底板①

3号井戸桶底板②

0　（遺物図）　50cm

図15　上水路施設（4号溝、3号井戸、1・4・5号木樋、井戸桶）

ピット観察表

単位：cm

番号	平面形態	位置	長径	短径	深度	備　　考	番号	平面形態	位置	長径	短径	深度	備　　考
1	楕円形	C－5	93	52	25.0	青磁・丸瓦	35	円形	E－2	36	34	31.0	
2	半円形	F－6	35	33	－	焼土塊・129砥石 調査区南壁に切られる	36	楕円形	E－3 E－4	78	64	34.0	1・13号溝を切る
3	円形	G－3	33	32	16.9		37	7号井戸に変更					
4	円形	F－3 G－3	32	29	24.3	焼土塊	38-1	半円形	F－6	50	46	30.5	焼土塊・石 ピット53に切られる
5	円形	G－3	28	26	25.4	瓦・焼土塊	38-2	半円形	F－6	29	19	15.0	土器・石
6	円形	F－2	36	34	33.1	瓦・土器 6号井戸の中	39	8号井戸に変更					
7	円形	F－2	31	30	19.1	陶器 6号井戸の中	40	楕円形	E－6	52	39	35.0	120折縁皿
8	楕円形	G－2	87	70	9.8	陶器碗（近世）	41-1	円形	E－6	27	23	12.1	
9	楕円形	F－3	43	24	12.6	染付・土器	41-2	不定形	E－6	30	14	15.2	
10	円形	F－3	35	31	26.0	土器・117鉢	41-3	半円形	E－6	34	23	9.8	
11	円形	G－3	25	23	17.8		42-1	円形	F－6	41	38	33.2	
12	円形	G－3	33	32	29.0	石	42-2	半円形	F－6	32	14	3.2	
13	円形	F－3	25	23	13.2		43	円形	F－5	36	34	66.3	
14	楕円形	F－4	58	47	38.3		44	半楕円形	F－3	43	18	32.7	
15	半楕円形	F－5	34	31	23.7	14号溝に切られる	45	円形	E－5	34	29	49.0	
16	円形	F－3	34	33	20.1		46	円形	C－5	18	17	5.4	
17	円形	F－2	35	29	27.0	1号溝を切る	47	楕円形	E－6	54	44	41.3	土器
18	円形	E－2	35	30	20.6	1号溝を切る	48	円形	E－6	27	23	8.2	
19	楕円形	F－5	29	20	22.9	14号溝を切る	49	円形	B－4	20	18	11.2	
20	不定形	F－4	78	26	48.8	焼土塊	50	円形	C－5	22	19	17.5	石
21	円形	G－3	24	22	18.0	焼土塊 ピット34を切る	51	円形	C－5	19	17	4.4	
22	円形	G－3	19	18	18.9	焼土塊	52	半円形	C－4 C－5	25	13	20.2	14号溝に切られる
23	円形	F－3	28	26	9.3	石	53	円形	F－6	23	22	33.6	焼土塊・ピット38を切る
24	円形	F－3	29	24	14.3	土器	54	円形	D－5	50	46	29.3	瓦・128釘 16号溝を切る
25	半円形	D－3 E－3	45	28	50.6	123かわらけ	55	円形	C－5	24	23	10.4	
26	半円形	F－5	64	40	35.3	2号溝に切られる	56	楕円形	E－5	38	30	48.6	
27	半円形	F－6	46	42	16.0	かわらけ・焼土塊・2号溝を切る ピット28に切られる	57	楕円形	E－5	95	63	42.9	8号土坑の中
28	半円形	F－6	59	44	21.8	土器2号溝・8号井戸・ ピット27を切る	58	楕円形	E－4	78	58	－	121土製擂鉢・ 122須恵器
29	楕円形	G－3 G－4	46	35	14.0	陶器碗（近世）	59-1	半円形	D－4 E－4	46	17	29.3	124須恵器 1号暗渠を切る
30	円形	F－4 G－4	28	27	34.1		59-2	楕円形	D－4	79	69	68.6	
31	不定形	F－6	32	21	18.3	かわらけ ピット32に切られる	60-1	半円形	D－2	53	19	61.2	瓦
32	円形	F－6	22	18	23.7	ピット31を切る	60-2	円形	D－2 E－2	52	46	92.4	
33	円形	E－3	104	94	76.5	土器・かわらけ・木片	61-1	円形	E－3	28	26	13.4	
34	楕円形	G－3	34	26	22.0	ピット12に切られる	61-2	楕円形	E－3	64	54	52.2	石

ピット観察表

単位：cm

番号	平面形態	位置	長径	短径	深度	備　　考	番号	平面形態	位置	長径	短径	深度	備　　考
62	円形	C－5	40	35	20.1		93	楕円形	G－2	28	16	23.1	4号井戸の中
63-1	半円形	D－5	75	37	61.1	瓦・陶器皿 1号暗渠を切る	94	円形	G－3	32	26	11.8	
63-2	楕円形	D－5	107	76	68.9	127釘	95	円形	G－3	35	28	16.0	
64	楕円形	E－2 E－3	105	80	79.2	土器・焼土塊	96	円形	G－6	32	27	65.2	
65	半円形	D－6 E－6	65	46	51.4	土器 4号溝・9号土坑に切られる	97	半円形	G－6	62	33	36.6	3号溝に切られる
66	楕円形	B－5 C－5	37	30	21.6	3号土坑の中	98	楕円形	E－5	40	27	－	
67	不定形	D－6 E－6	69	39	57.1	陶器（近世） ピット68に切られる	99	円形	F－3	37	34	30.6	
68	円形	D－6	50	48	69.2	ピット67を切る 1号暗渠に切られる	100	円形	D－5	16	12	4.6	丸瓦・平瓦
69	円形	B－4	27	23	29.2	木片	101	円形	D－5	18	17	7.4	
70	楕円形	B－4	32	26	43.3	木片	102	円形	C－5	19	18	5.4	
71	楕円形	E－4	26	20	36.8		103	円形	D－6	38	30	9.7	16号溝を切る
72	円形	E－4	22	19	66.1	瓦・陶器	104	円形	F－4	29	27	15.8	
73	円形	E－4	27	24	55.5		105	半円形	G－4	41	38	41.5	5号井戸の中
74	半楕円形	D－4	68	47	45.2	1号暗渠との切合関係不明	106	半円形	F－4	64	48	38.1	5号井戸の中
75	円形	E－4	78	73	20.3	瓦・かわらけ	107	円形	E－2	40	37	19.3	
76	円形	E－4	24	22	13.8		108	円形	B－6	8	8	15.5	
77	半円形	E－4	42	27	23.1	ピット86に切られる	109	円形	B－6	12	11	12.7	
78	円形	E－4	35	33	14.6		110	楕円形	B－6	16	9	15.0	
79	半円形	D－2 E－2	44	29	60.3	瀬戸美濃系天目茶碗、 調査区北壁に切られる	111	円形	B－6	8	7	8.7	
80	楕円形	D－4	83	47	46.8	14号溝を切る	112	円形	C－5	23	21	7.7	3号土坑の中
81	円形	D－4	26	22	30.9		113	円形	E－3	18	16	12.3	
82	円形	E－6	50	47	84.6	丸瓦	114	半円形	C－4	19	18	－	14号溝に切られる
83	楕円形	D－6 E－6	88	54	65.8	平瓦 1号暗渠に切られる	115	円形	E－5	17	15	16.4	
84	楕円形	F－4	22	17	26.0	平瓦・軒平瓦 12号溝を切る	116	円形	E－5	22	19	16.1	8号土坑を切る
85-1	楕円形	D－5	80	65	17.2	土器 8号土坑の中	117	円形	A－3	22	19	25.4	
85-2	円形	D－5	35	35	25.5	土器・平瓦 8号土坑・暗渠を切る	118	円形	H－3 I－3	38	34	－	杭
86	円形	E－4	47	45	64.8	石 14号溝を切る	119	半円形	H－3	25	34	13.7	
87	楕円形	E－2	69	46	50.3		120	楕円形	I－4	28	20	12.4	1号井戸の中
88	円形	E－5	46	45	－	平瓦・126擂鉢	121	円形	H－4	29	24	38.4	1号井戸の中
89-1	半円形	E－2	64	46	47.1		122	円形	H－4	19	18	25.3	1号井戸の中
89-2	不定形	E－2	70	33	15.9		123	楕円形	H－4 H－5	80	43	50.2	1号井戸の中
90	半円形	F－2 G－2	52	25	31.3	調査区北壁に切られる	124	円形	H－5 I－5	37	31	22.9	1号井戸の中
91	円形	G－2	72	63	34.3		125	半円形	I－5	55	50	25.4	1号井戸の中
92	楕円形	F－3	37	24	15.4	6号井戸の中							

図16　1・13・2号溝出土遺物

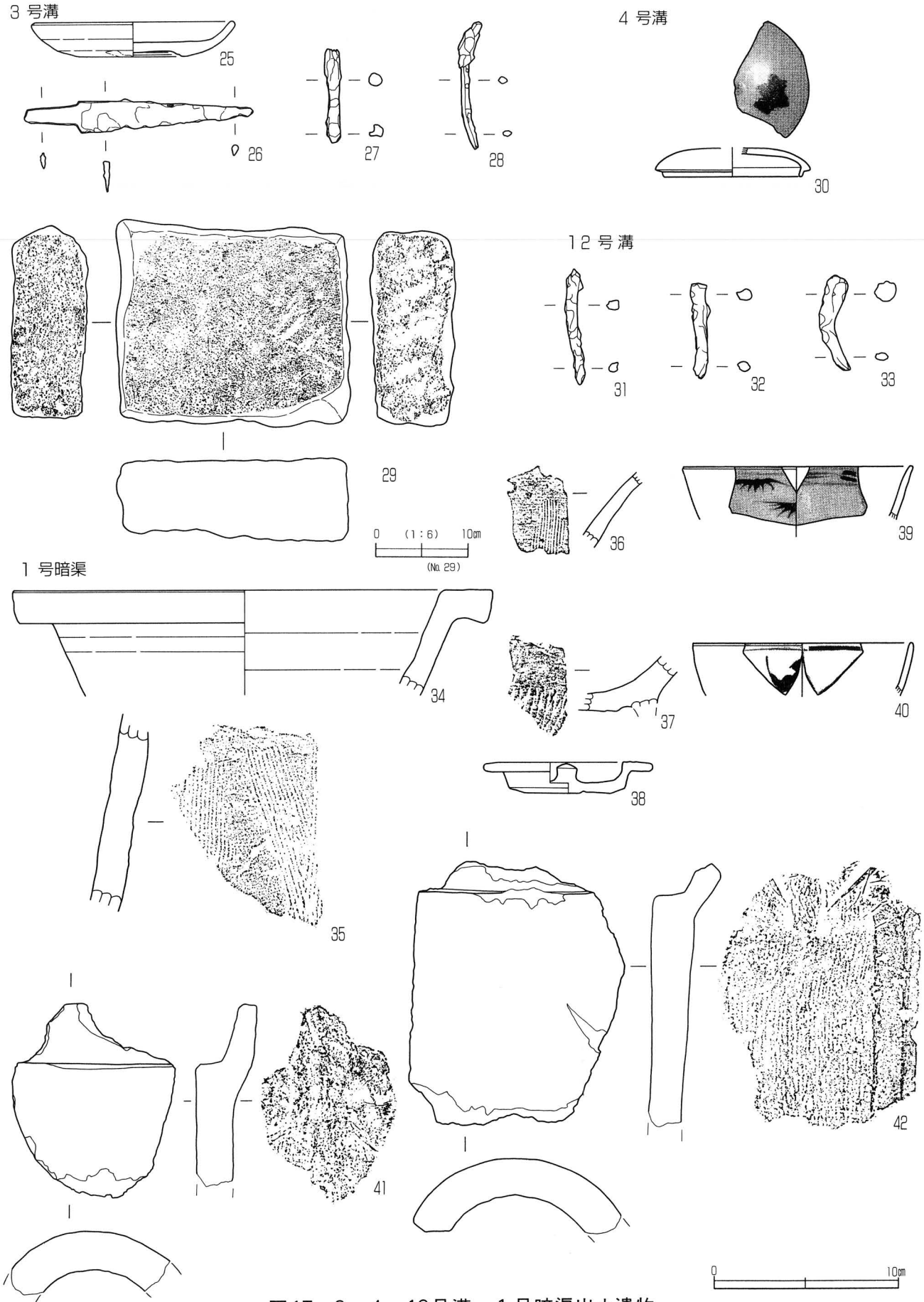


図17　3・4・12号溝、1号暗渠出土遺物

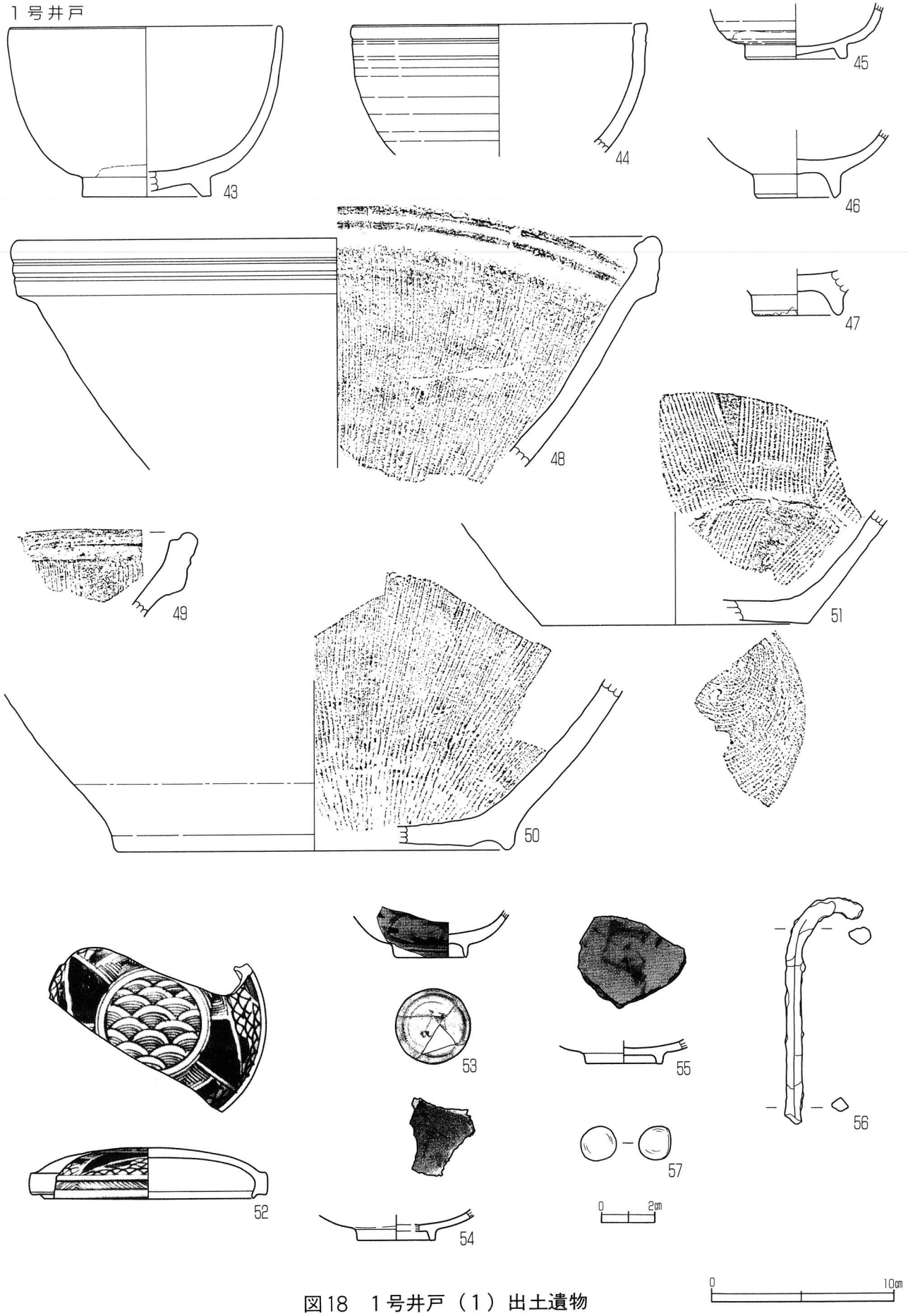


図18　1号井戸（1）出土遺物

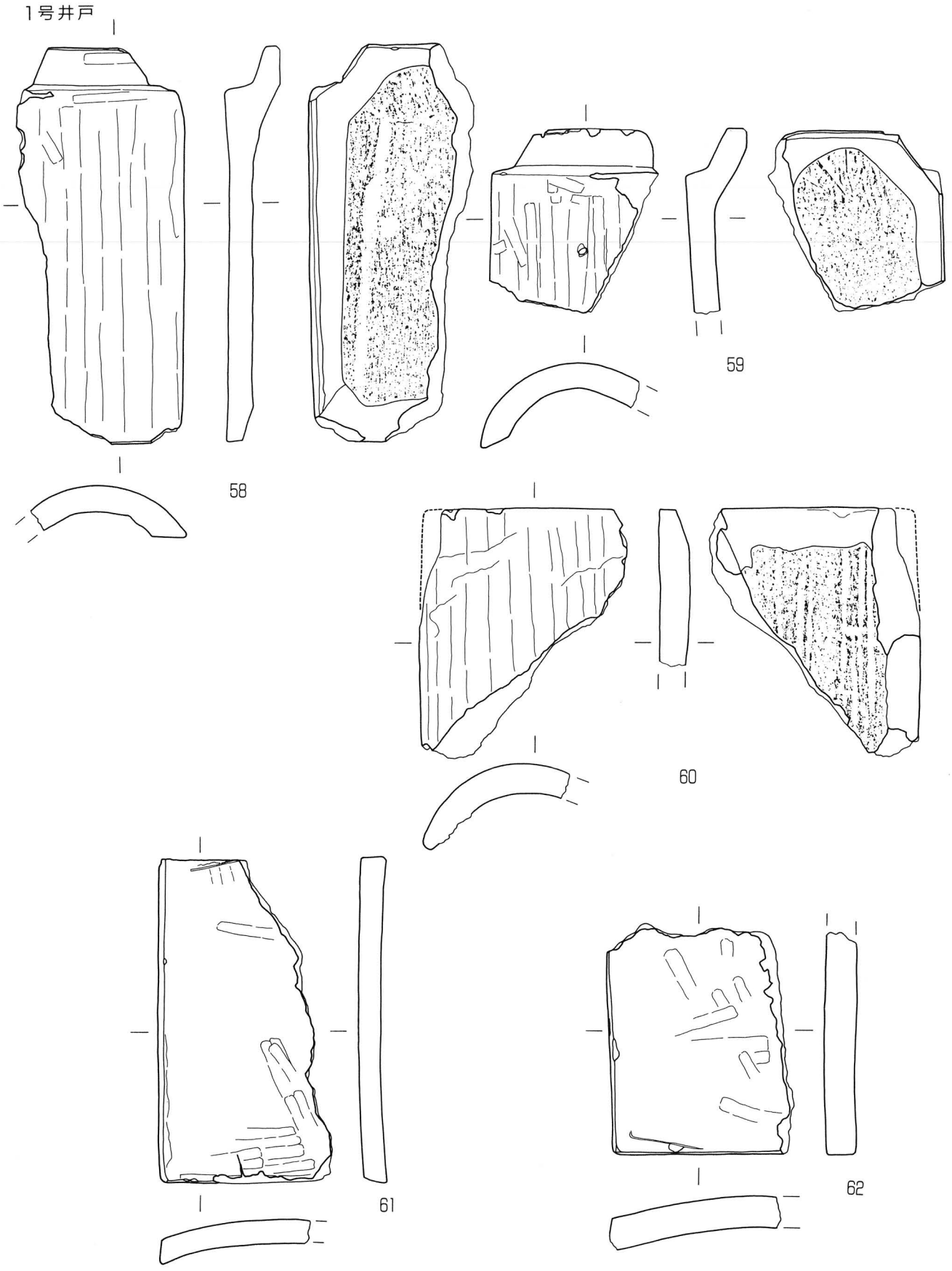


図19　1号井戸（2）出土遺物

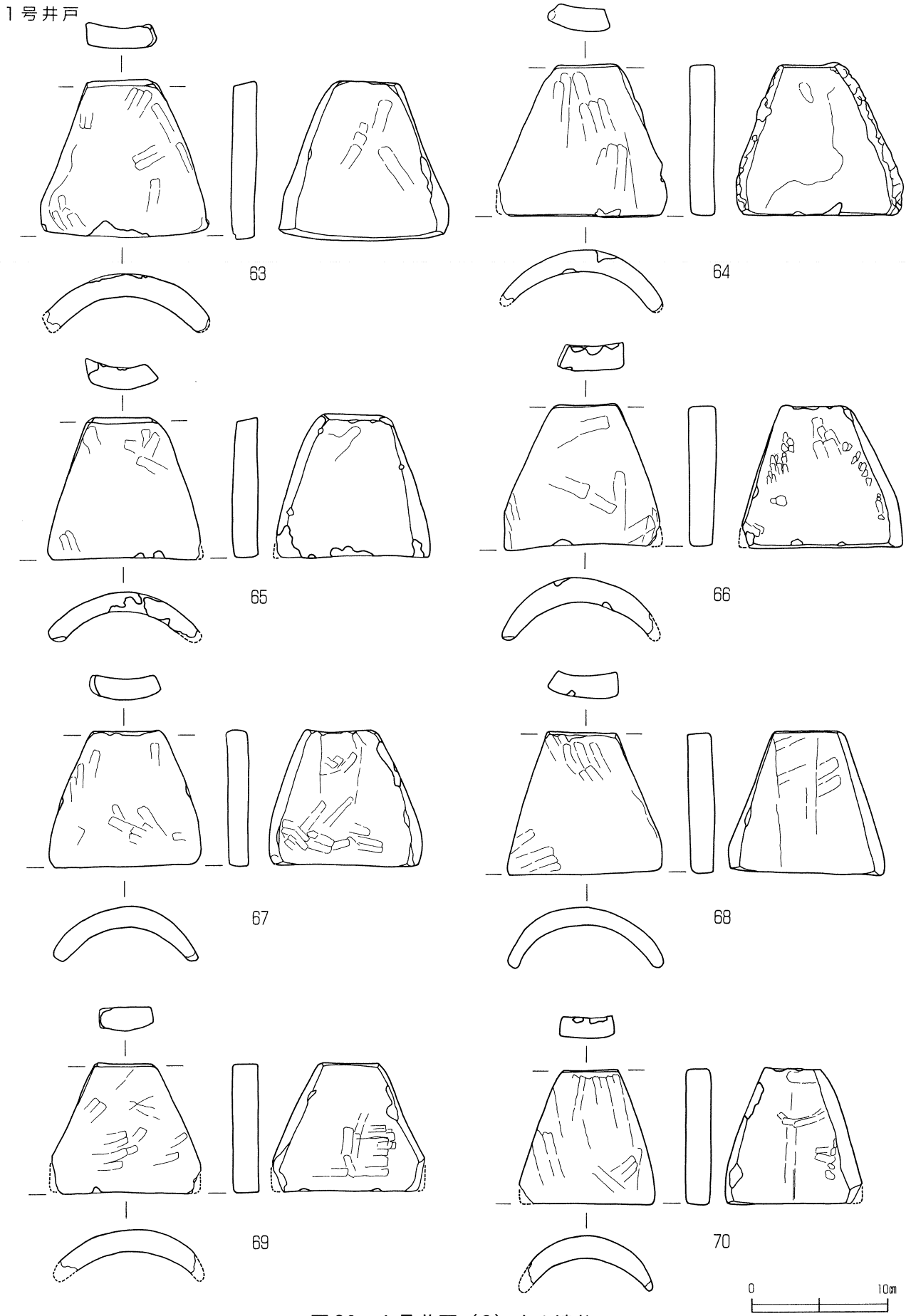


図20　1号井戸（3）出土遺物

1号井戸

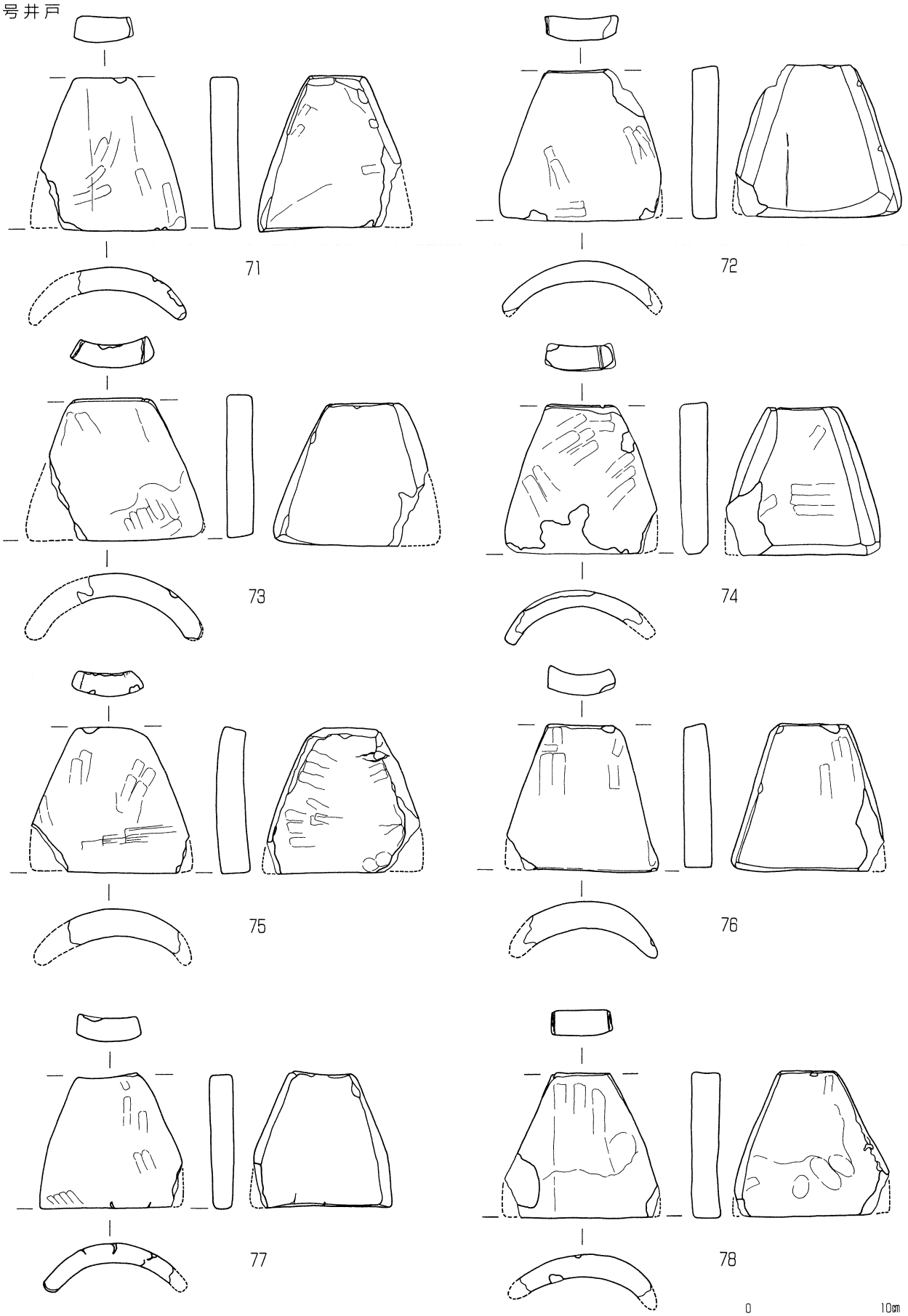


図21　1号井戸（4）出土遺物

2号井戸

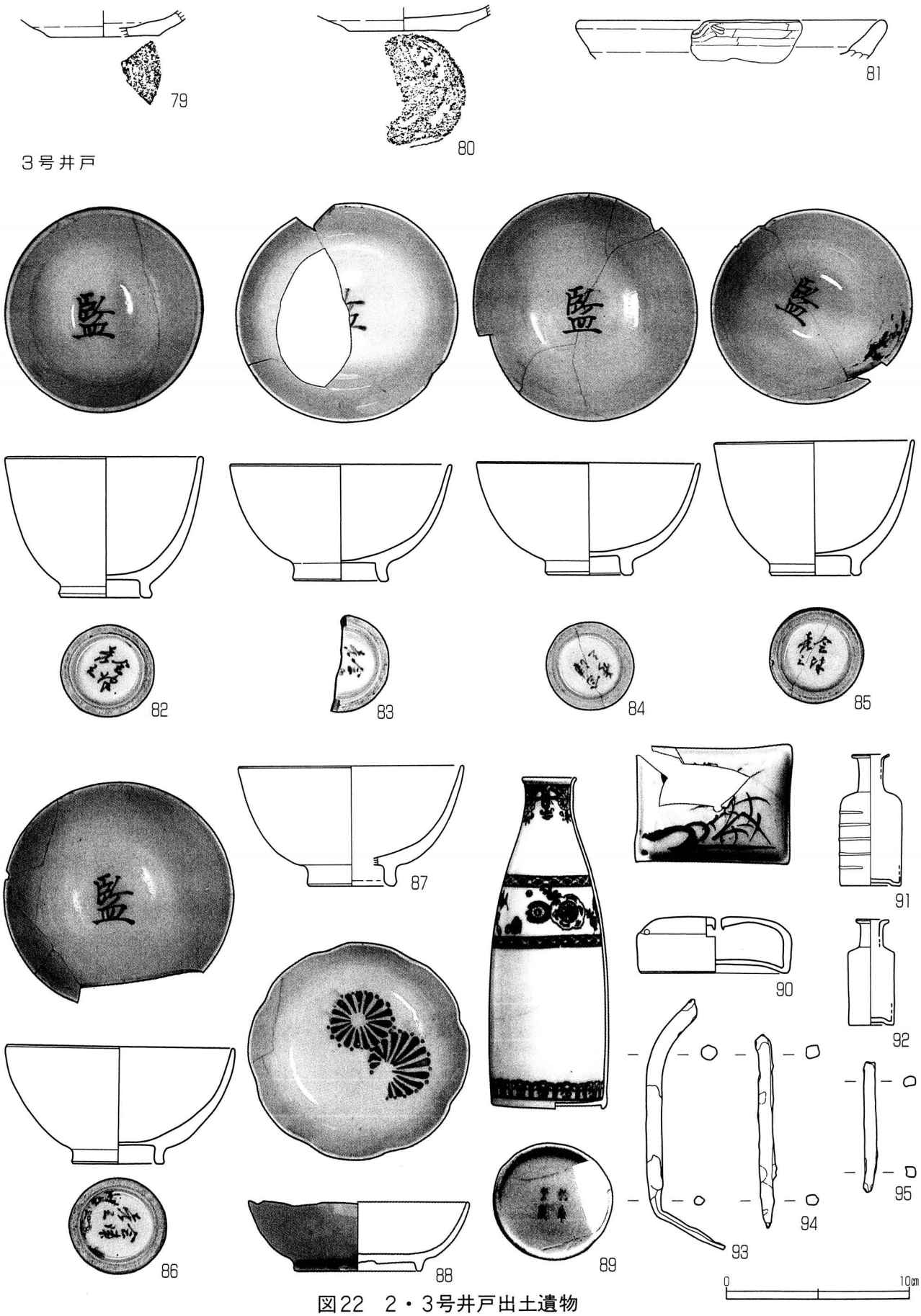


図22　2・3号井戸出土遺物

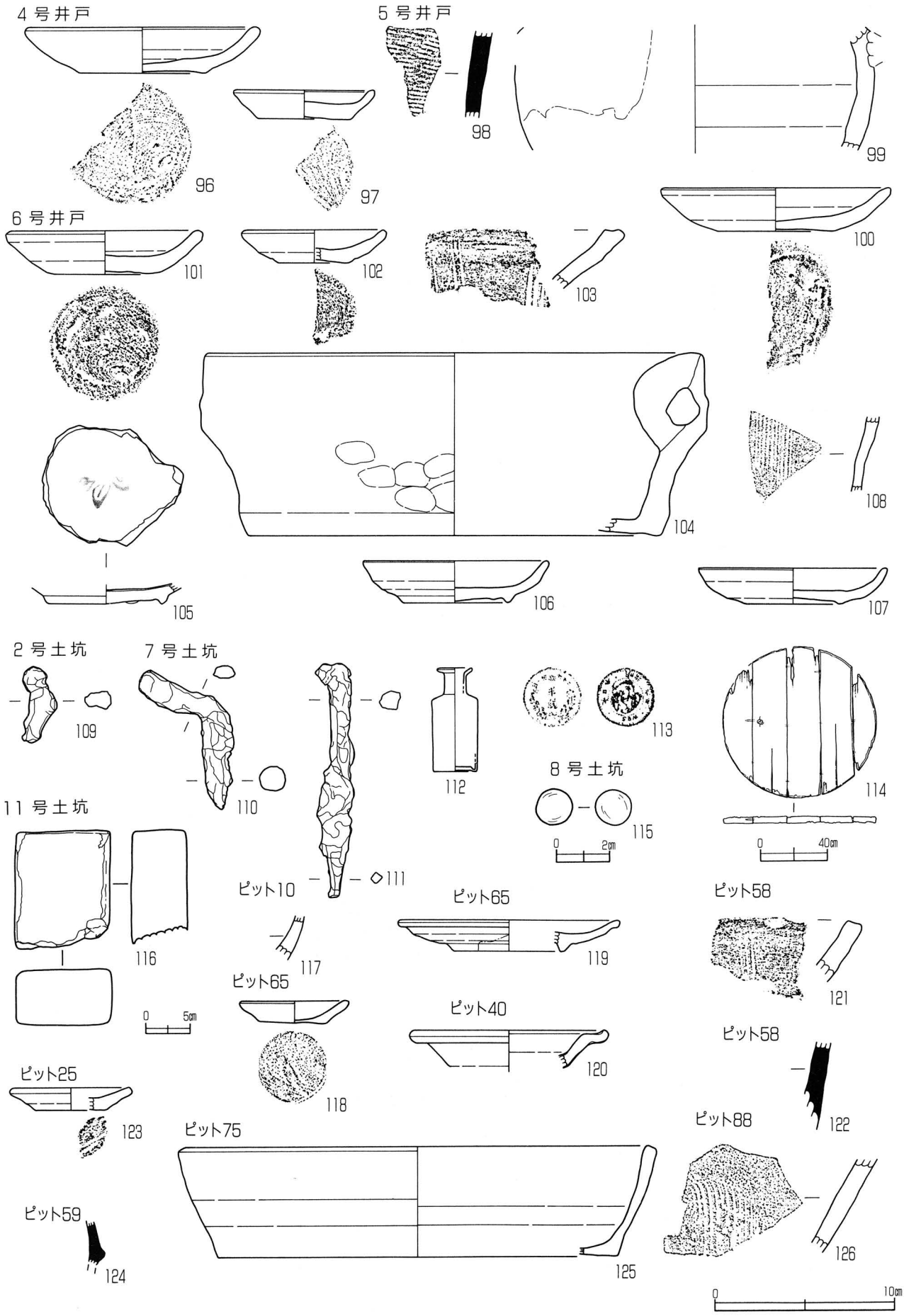


図23　4～6号井戸、2・7・8・11号土坑、ピット(10・25・40・58・59・65・75・88)出土遺物

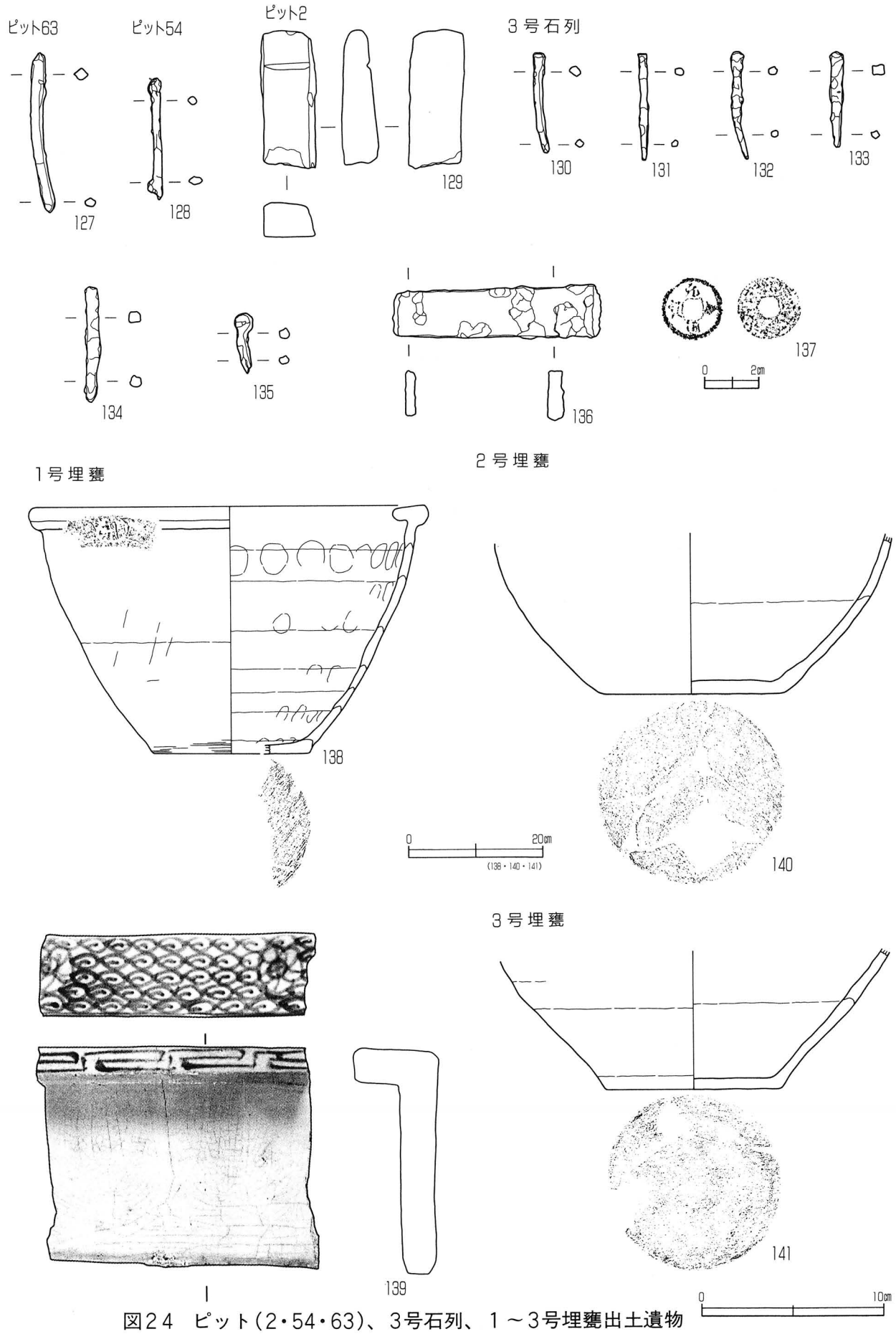


図24　ピット(2・54・63)、3号石列、1～3号埋甕出土遺物

調査区一括

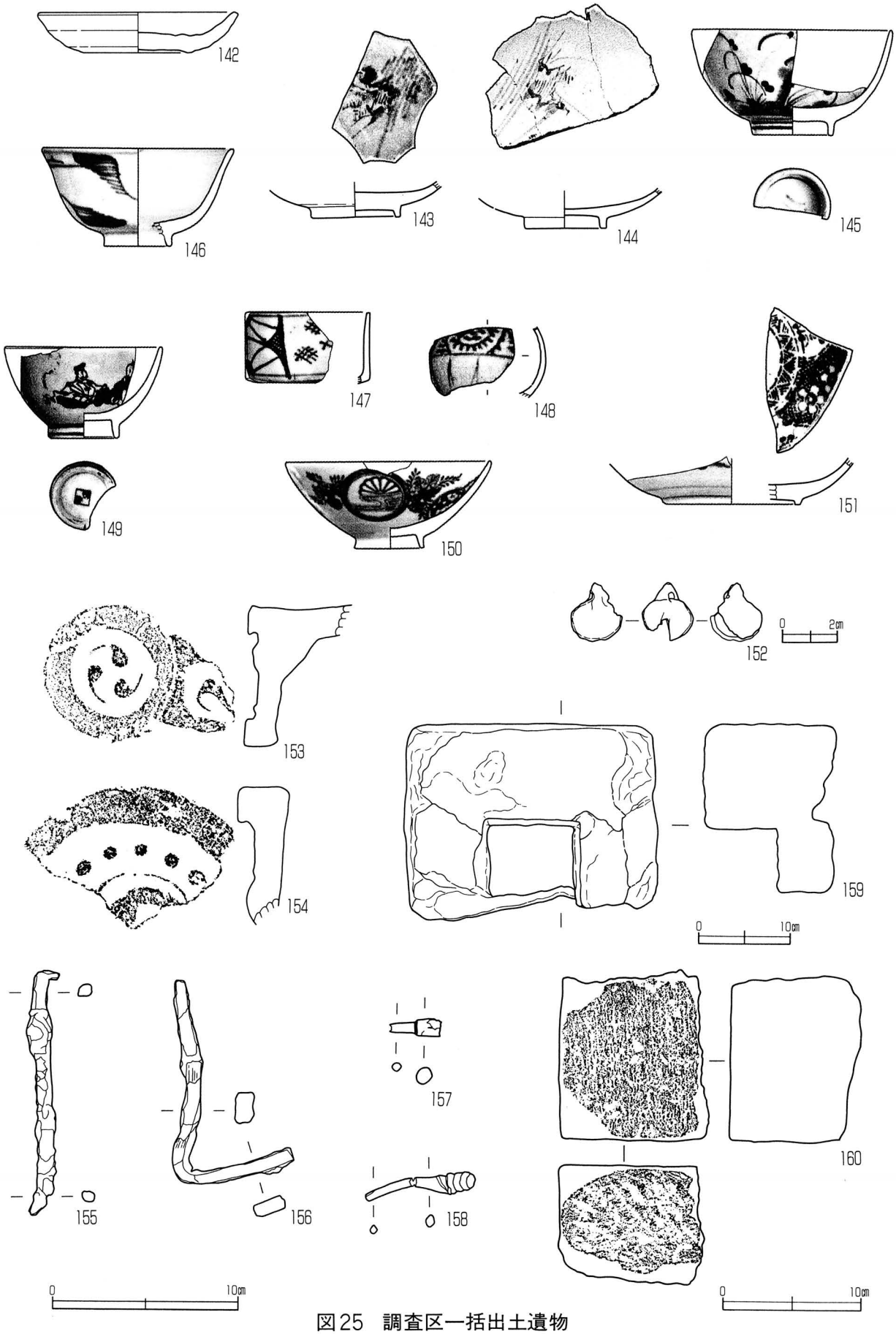


図25　調査区一括出土遺物

出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

図版番号	番号	出土位置	種別・器種		法量			部位	観察所見（技法・文様・その他）	備考
					口径	器高	底径			
20	1	1号溝跡	土器	かわらけ	(10.4)	2.3	(5.3)	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	口縁部スス付着
20	2	1号溝跡	土器	かわらけ	7.8	2.0	4.1	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	
20	3	1号溝跡	土器	かわらけ	(10.9)	2.0	(7.2)	口縁～底部	ロクロ成形、内外面スス付着	内外面スス付着
20	4	1号溝跡	土器	かわらけ	(10.3)	1.8	(5.9)	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	口縁部炭化物付着
20	5	1号溝跡	土器	かわらけ	(6.0)	1.8	(4.2)	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	
20	6	1号溝跡	土器	かわらけ	(8.5)	1.9	(6.1)	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	
20	7	1号溝跡	土器	かわらけ	(7.6)	－	－	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	
20	8	1号溝跡	土器	かわらけ	(6.0)	－	－	口縁～体部	ロクロ成形	
20	9	1号溝跡	土器	内耳鍋	(26.0)	－	－	口縁～体部	ロクロ成形	外面スス付着
20	10	1号溝跡	陶器	皿	(9.4)	－	－	口縁～体部	ロクロ成形	瀬戸・美濃系
20	11	1号溝跡	陶器	天目茶碗	(12.4)	－	－	口縁部	ロクロ成形	瀬戸・美濃系大窯２期
20	12	1号溝跡	陶器	甕か	－	－	－	体部	ロクロ成形、叩目	
20	13	1号溝跡	陶器	丸皿	(10.6)	2.6	(6.2)	口縁～底部	内面擦り傷あり	瀬戸・美濃系大窯２期
20	14	1号溝跡	陶器	擂鉢	(30.0)	－	－	口縁部		瀬戸・美濃系大窯２期
20	15	1号溝跡	磁器	碗	－	－	－	体部	染付	中国製
20	16	1号溝跡	磁器	碗	－	－	－	口縁部	染付	中国製
20	17	1号溝跡	金属製品	釘？	長さ 8.5	幅 －	厚さ 1.1			
20	18	1号溝跡	金属製品	釘	長さ 10.0	幅 －	厚さ 1.3			
20	19	13号溝跡	磁器	碗	(10.0)	－	－	口縁～体部	染付	肥前系
20	20	13号溝跡	銭貨	寛永通寶	直径 2.42	穿孔 0.61	厚さ 0.09		重さ2.4ｇ	
20	21	2号溝跡	磁器	碗	8.7	5.1	4.0	口縁～底部	染付	近代
20	22	2号溝跡	白磁	たん壺	(7.8)	(3.5)	－	口縁～底部		
20	23	2号溝跡	瓦	軒平瓦	直径 －	－	厚さ 1.6		唐草文	
20	24	2号溝跡	瓦	軒丸瓦	直径 (17.7)	－	厚さ 3.0			
21	25	3号溝跡	陶器	皿	(10.7)	2.0	(5.6)	口縁～底部	ロクロ成形	志戸呂16後～17前世紀
21	26	3号溝跡	金属製品	刀子	長さ 12.4	幅 －	厚さ 0.4			
21	27	3号溝跡	金属製品	角釘	長さ 5.2	幅 －	厚さ 0.7			
21	28	3号溝跡	金属製品	角釘	長さ 7.0	幅 －	厚さ 0.4			
21	29	3号溝跡	石製品		縦 22.0	横 25.0	厚さ 8.6			
21	30	4号溝跡	磁器	蓋	(8.4)	(1.6)	－		染付（こんにゃく版）	肥前系
21	31	12号溝跡	金属製品	角釘	長さ 6.4	幅 －	厚さ 0.5			
21	32	12号溝跡	金属製品	角釘	長さ 5.2	幅 －	厚さ 0.6			
21	33	12号溝跡	金属製品	角釘？	長さ 5.3	幅 －	厚さ 1.1		ロクロ成形	口縁部スス付着
21	34	1号暗渠	土器	鉢	(27.2)	－	－	口縁部	ロクロ成形	内面スス付着
21	35	1号暗渠	土器	火鉢	－	－	－	胴部	ロクロ成形、櫛目	スス付着
21	36	1号暗渠	陶器	擂鉢	－	－	－	体部	ロクロ成形、櫛目10条、鉄釉	
21	37	1号暗渠	陶器	擂鉢	－	－	－	底部	ロクロ成形	堺製、近世
21	38	1号暗渠	陶器	土瓶蓋	9.3	1.7	4.7	蓋	ロクロ成形、外面鉄釉	19世紀
21	39	1号暗渠	磁器	碗	(12.8)	－	－	口縁部	染付	肥前系
21	40	1号暗渠	磁器	碗	(12.0)	－	－	口縁部	染付、蝙蝠模様	瀬戸系
21	41	1号暗渠	瓦	丸瓦	長さ －	幅 －	厚さ 2.2			
21	42	1号暗渠	瓦	丸瓦	長さ －	幅 11.4	厚さ 2.4		布目、㊀の刻印あり	
22	43	1号井戸	陶器	碗	(14.8)	9.6	(7.1)	口縁～底部	ロクロ成形、施釉	

出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

図版番号	番号	出土位置	種別・器種		法量			部位	観察所見（技法・文様・その他）	備考
					口径	器高	底径			
22	44	1号井戸	陶器	鉢	(16.0)	—	—	口縁～体部	ロクロ成形	瀬戸・美濃系
22	45	1号井戸	陶器	碗	—	—	5.4	体部～底部	内外面施釉、底部無釉	瀬戸・美濃系
22	46	1号井戸	陶器	呉器手碗	—	—	4.4	体部～底部	内外面施釉	
22	47	1号井戸	陶器	呉器手碗	—	—	4.7	底部	砂敷焼成、施釉	
22	48	1号井戸	陶器	擂鉢	(35.2)	—	—	口縁～体部		堺製18～19世紀
22	49	1号井戸	陶器	擂鉢	—	—	—	口縁部		
22	50	1号井戸	陶器	擂鉢	—	—	(21.6)	体部～底部	ロクロ成形、底部ヘラ調整	
22	51	1号井戸	陶器	擂鉢	—	—	(15.0)	底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	瀬戸・美濃系
22	52	1号井戸	磁器	段皿蓋	13.2	2.9	(11.6)		染付	肥前系
22	53	1号井戸	磁器	碗	—	—	4.0	体部～底部	染付	肥前系
22	54	1号井戸	陶器	皿	—	—	(4.4)	底部	染付、高台無釉	
22	55	1号井戸	陶器	皿	—	—	4.2	底部	染付、畳付無釉	
22	56	1号井戸	金属製品	釘？	長さ 15.7	—	厚さ 0.8			
22	57	1号井戸	金属製品	鉄砲玉	直径 1.3	—	—		重さ10.1g、鉛製	
23	58	1号井戸	瓦	丸瓦	長さ 29.0	幅 —	厚さ 3.8		布目痕、ヘラナデ、キラ粉付着	
23	59	1号井戸	瓦	丸瓦	長さ (13.4)	幅 —	厚さ 3.3		布目痕、ヘラナデ、キラ粉付着	
23	60	1号井戸	瓦	丸瓦	長さ (18.0)	幅 —	厚さ 2.2		布目痕、ヘラナデ、キラ粉付着	
23	61	1号井戸	瓦	平瓦	長さ 23.8	幅 —	厚さ 1.8		ヘラナデ、ナデ、キラ粉付着	
23	62	1号井戸	瓦	平瓦	長さ (16.7)	幅 —	厚さ 2.8		ヘラナデ、ナデ、キラ粉付着	

図版番号	番号	出土位置	種別・器種		A	B	C	D	E	F	G	観察所見（技法・文様・その他）
24	63	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(12.2)	(11.7)	5.2	(4.3)	(1.7)	1.9	1.5	内外面ヘラナデ、ナデ
24	64	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(12.0)	11.2	4.5	(4.7)	1.6	2.1	1.6	内外面ヘラナデ、ナデ、ケズリ、カス付着
24	65	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(11.3)	10.6	(5.4)	(3.8)	1.4	(2.3)	(1.6)	内外面ヘラナデ、ナデ、キラ粉付着
24	66	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(11.7)	10.7	4.9	(4.5)	1.8	2.1	(1.8)	内外面ヘラナデ、ナデ、内面布目痕
24	67	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(10.7)	(10.1)	(5.3)	(4.0)	1.5	1.8	1.5	内外面ヘラナデ、ナデ、内面板状痕
24	68	1号井戸	瓦	輪違い瓦	11.5	10.5	5.3	4.4	1.3	2.0	1.6	内外面ヘラナデ、ナデ、内面板状痕
24	69	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(11.1)	9.7	(4.1)	(3.8)	1.7	1.8	1.8	内外面ヘラナデ、ナデ、キラ粉付着
24	70	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(10.0)	10.0	4.2	(4.2)	1.6	1.8	1.6	内外面ヘラナデ、ナデ、板状痕、指頭痕
25	71	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(11.2)	11.3	(4.2)	(4.1)	1.6	1.9	1.7	内外面ヘラナデ、ナデ、キラ粉、指頭痕
25	72	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(11.5)	11.0	(5.3)	(4.0)	1.5	(1.8)	1.6	内外面ヘラナデ、ナデ、ケズリ
25	73	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(12.6)	10.3	5.9	(4.7)	1.6	2.2	1.7	内外面ヘラナデ、ナデ
25	74	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(10.9)	(10.8)	(5.1)	(4.0)	(1.0)	2.1	(1.8)	内外面ヘラナデ、ナデ、ケズリ
25	75	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(11.4)	10.6	5.1	(4.0)	2.0	1.9	(1.6)	内外面ヘラナデ、ナデ、変形している
25	76	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(10.7)	(10.7)	(4.9)	(4.0)	2.0	2.1	1.4	内外面ヘラナデ、ナデ、キラ粉付着
25	77	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(10.3)	10.0	4.6	(3.5)	1.4	2.0	1.6	内外面ヘラナデ、ナデ、内面布目痕
25	78	1号井戸	瓦	輪違い瓦	(10.7)	10.0	4.5	4.0	1.6	1.9	1.9	内外面ヘラナデ、ナデ、キラ粉、指頭痕

図版番号	番号	出土位置	種別・器種		法量			部位	観察所見（技法・文様・その他）	備考
					口径	器高	底径			
26	79	2号井戸	土器	かわらけ	—	—	(6.0)	体部～底部	ロクロナデ、底部に回転糸切り	
26	80	2号井戸	土器	かわらけ	—	—	6.0	体部～底部	ロクロナデ、底部に回転糸切り	内面スス付着
26	81	2号井戸	土器	片口	—	—	16.6	口縁～体部	ロクロナデ	内外面スス付着
26	82	3号井戸	磁器	碗	10.7	7.8	4.9	口縁～体部	内面「監」・高台内「会津老主」	文字あり

出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

図版番号	番号	出土位置	種別・器種		法量			部位	観察所見（技法・文様・その他）	備考
					口径	器高	底径			
26	83	3号井戸	磁器	碗	12.2	6.5	5.2	口縁～底部	内面「監」・高台内「会津𡈼之」	文字あり
26	84	3号井戸	磁器	碗	12.2	6.3	4.6	口縁～底部	内面「監」・高台内「会津𡈼之」	文字あり
26	85	3号井戸	磁器	碗	10.9	7.5	4.9	口縁～底部	内面「監」・高台内「会津𡈼之」	文字あり
26	86	3号井戸	磁器	碗	12.6	6.5	5.1	口縁～底部	内面「監」・高台内「会津𡈼之」	文字あり
26	87	3号井戸	磁器	碗	(12.3)	6.6	(4.6)	口縁～底部		
26	88	3号井戸	磁器	皿	12.0	3.9	6.9	口縁～底部	内面絵模様の痕跡	
26	89	3号井戸	磁器	徳利	2.9	18.1	6.3	口縁～底部	銅版転写	
26	90	3号井戸	磁器	水滴	縦 6.4	3.1	横 8.1	－	内面底に布目、穿孔2箇所、青磁	
26	91	3号井戸	ガラス	瓶	(2.0)	7.2	3.4	口縁～底部	メモリ付き	
26	92	3号井戸	ガラス	瓶	1.8	5.8	2.4	口縁～底部		
26	93	3号井戸	金属製品	丸釘	長さ －	幅 －	厚さ 0.8			
26	94	3号井戸	金属製品	角釘	長さ 10.6	幅 －	厚さ 0.7			
26	95	3号井戸	金属製品	角釘	長さ 7.2	幅 －	厚さ 0.5			
27	96	4号井戸	土器	かわらけ	(12.6)	2.6	7.2	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	
27	97	4号井戸	土器	かわらけ	(7.7)	1.6	(5.2)	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	
27	98	5号井戸	須恵器	－	－	－	－	体部	タタキ目	
27	99	5号井戸	土器	釜？	－	－	－	胴部	ロクロ成形、外面スス付着	
27	100	5号井戸	土器	かわらけ	12.8	2.4	(6.4)	口縁～底部	底部回転糸切り、口縁スス付着	
27	101	6号井戸	土器	かわらけ	(10.5)	2.5	6.2	口縁～底部	底部回転糸切り	内面黒色の付着物
27	102	6号井戸	土器	かわらけ	(7.7)	1.9	3.8	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	
27	103	6号井戸	土器	擂鉢	－	－	－	口縁部	櫛目6条以上	内外面スス付着
27	104	6号井戸	土器	内耳鍋	27.6	10.2	23.0	口縁～底部	外面スス付着	
27	105	6号井戸	陶器	丸皿	－	－	6.1	底部	ロクロ成形、輪ドチ痕	瀬戸・美濃系大窯1期
27	106	6号井戸	陶器	丸皿	10.2	2.4	5.9	口縁～底部	二次被熱	瀬戸・美濃系大窯2期
27	107	6号井戸	陶器	皿	10.2	2.1	5.3	口縁～底部	ロクロ成形、内外面鉄釉	志戸呂16末～17初世紀
27	108	6号井戸	陶器	擂鉢	－	－	－	体部	櫛目12条	瀬戸・美濃系陶器
27	109	2号土坑	金属製品	釘	長さ 4.1	幅 －	厚さ 0.9			
27	110	7号土坑	金属製品	釘	長さ －	幅 －	厚さ 1.4			
27	111	7号土坑	金属製品	釘	長さ 13.0	幅 －	厚さ 1.0			
27	112	7号土坑	ガラス	瓶	1.9	5.8	2.4	口縁～底部		
27	113	7号土坑	銭貨	半銭	直径 2.22	穿孔 －	厚さ 0.11		重さ3.4g、明治十六年	
27	114	7号土坑	木製品	桶	縦 91.1	横 93.3	厚さ 4.2			
27	115	8号土坑	金属製品	鉄砲玉	直径 1.3	－	－		重さ12.4g	
27	116	11号土坑	土製品	煉瓦	長さ －	幅 10.6	厚さ 6.2			
27	117	ピット10	陶器	鉢	－	－	－	体部	刷毛目鉢	肥前系
27	118	ピット65	土器	かわらけ	5.9	1.2	3.9	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	
27	119	ピット65	陶器	皿	(12.2)	1.7	(6.2)	口縁～底部	ロクロ成形	瀬戸・美濃系
27	120	ピット40	陶器	折縁皿	(10.7)	－	－	口縁～体部	内外面緑釉	瀬戸・美濃系
27	121	ピット58	土器	擂鉢	－	－	－	口縁部	ロクロ成形	
27	122	ピット58	須恵器	壺？	－	－	－		ロクロ成形	
27	123	ピット25	土器	かわらけ	(6.6)	1.3	(4.0)	口縁～底部	ロクロ成形、底部に回転糸切り	
27	124	ピット59	須恵器	壺？	－	－	－	体部		
27	125	ピット126	土器	内耳鍋	(25.8)	6.1	(22.4)	口縁～底部	ロクロ成形、内外面スス付着	

出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

図版番号	番号	出土位置	種別・器種		法量			部位	観察所見（技法・文様・その他）	備考
					口径	器高	底径			
27	126	ピット88	陶器	擂鉢	—	—	—	体部	ロクロ成形、内外面鉄釉	瀬戸・美濃系
28	127	ピット63	金属製品	釘	長さ 8.8	幅 —	厚さ 0.6			
28	128	ピット54	金属製品	釘	長さ 6.7	幅 —	厚さ 0.4			
28	129	ピット2	石製品	砥石	長さ (7.4)	幅 (2.9)	厚さ 2.0			
28	130	3号石列	金属製品	角釘	長さ 5.5	幅 —	厚さ 0.5			
28	131	3号石列	金属製品	角釘	長さ 5.8	幅 —	厚さ 0.4			
28	132	3号石列	金属製品	角釘	長さ 5.9	幅 —	厚さ 0.5			
28	133	3号石列	金属製品	角釘	長さ 5.2	幅 —	厚さ 0.6			
28	134	3号石列	金属製品	角釘	長さ 6.4	幅 —	厚さ 0.6			
28	135	3号石列	金属製品	釘か	長さ 3.4	幅 —	厚さ 0.5			
28	136	3号石列	金属製品	楔	長さ 11.4	幅 —	厚さ 0.5			
28	137	3号石列	銭貨	元□通寶	直径 2.36	穿孔 0.70	厚さ 0.11		重さ2.8g	
28	138	1号甕	土器	甕	(59.0)	36.5	(23.0)	口縁～底部	ヘラ、指頭痕、内面に付着物	
28	139	1号甕	陶器	便器	長さ —	幅 —	厚さ 2.0		染付	
28	140	2号甕	土器	甕	—	—	28.0	底部～胴部	輪積み成形のちナデ	内面に付着物
28	141	3号甕	土器	甕	—	—	26.0	底部～胴部	輪積み成形のちナデ	内面に付着物
29	142	一括	陶器	皿	(10.4)	2.2	5.8	口縁～底部	輪ドチ痕、内外面施釉	志戸呂窯
29	143	一括	陶器	皿	—	—	4.8	体部～底部	京焼風陶器、高台内に刻印	
29	144	一括	陶器	皿	—	—	4.4	体部～底部	京焼風陶器	
29	145	一括	磁器	碗	(10.6)	5.8	4.2	口縁～底部	くらわんか茶碗？、染付	肥前系
29	146	一括	磁器	碗	(10.0)	5.3	(3.5)	口縁～底部	染付、五弁花か？	瀬戸系
29	147	一括	磁器	筒形碗	(6.8)	—	—	口縁～底部		肥前系
29	148	一括	磁器	御酒徳利	—	—	—	体部	たこ唐草、染付	肥前系
29	149	一括	磁器	碗	(8.4)	5.1	3.6	口縁～底部	高台内「若松」、銅版転写	近代
29	150	一括	磁器	碗	11.0	4.2	3.7	口縁～底部	銅版転写	近代
29	151	一括	磁器	皿	—	—	(7.4)	体部～底部	型紙摺絵	近代
29	152	一括	土製品	土鈴	長さ 3.2	幅 2.7	厚さ —			
29	153	一括	瓦	軒平瓦	直径 7.6	—	厚さ 1.9		三ッ巴紋	
29	154	一括	瓦	軒丸瓦	直径 (14.8)	—	厚さ 2.6			
29	155	一括	金属製品	釘	長さ 13.2	幅 —	厚さ 0.6			
29	156	一括	金属製品	釘か	長さ —	幅 —	厚さ 1.6			
29	157	一括	金属製品	煙管	長さ 2.6	幅 —	厚さ 0.8		銅製	
29	158	一括	金属製品	煙管	長さ 5.9	幅 —	厚さ 0.5		銅製	
29	159	一括	石製品		長さ 21.2	幅 27.4	厚さ 13.7			
29	160	一括	石製品		長さ 17.5	幅 15.4	厚さ 13.5			

上水施設出土遺物観察表

単位：cm

図版番号	種別・器種番号		長さ	高さ	外幅	内幅	底板厚さ	側板厚さ	備考
15	木製品	1号木樋	121.7	18.2	21.5	14.5	3.5	3.3	
15	木製品	4号木樋	280.0	19.0	21.5	14.1	4.0	3.7	
15	木製品	5号木樋	272.5	17.5	21.5	12.5	3.3	4.5	
15	木製品	1号底板	直径 70.0	厚さ 2.0					桶底
15	木製品	2号底板	直径 67.4	厚さ 3.2					桶底

第4章　ま　と　め

検出された遺構は、中世・近世・近代の３時期である。特に中世16世紀代の遺構・遺物が多数検出されたことにより、調査区周辺まで甲府城築城以前の居住の広がりが確認された。この３時期の溝は南北方向Ｎ－１°－Ｅ～Ｎ－３°－Ｅの方位をとり、若干の相違はあるがほぼ中世段階の軸線が調査区周辺の基軸となり、近世そして現代までほぼ変化なく引き継がれている。馬場跡など近世の絵図に描かれている馬場が検出されたことは、今後絵図記載の検証がなされるものと考えられる。また検出された上水施設は江戸時代の工法が明治時代まで使用されていたことを示し、明治期の都市上水施設の様子が窺える重要な遺構である。

中　世

16世紀代は、一条小山（現在の山梨県指定史跡甲府城跡）に一蓮寺、調査区北側の柳沢権太夫の屋敷周辺（現在の甲府駅西側周辺）に長延寺が存在していたとされる。この時期の遺構としては、１・６・16・17号溝、２・４～６号井戸、柱穴列、６号土坑が挙げられる。また遺物等は検出されていないが７・８号井戸が中世段階であると推測される。

１・16号溝は、南北方向Ｎ－１°－Ｅに方位をとるほぼ同規模の溝であり、16世紀代の遺物が検出されている。両溝間は幅4.5～５ｍを測る。16号溝の東側は遺構が極端に少ないが、１号溝の西側は、井戸・ピット等の遺構が集中して見られる。このことから、１号溝を境に、西側に町屋等の居住空間が位置し、この両溝間が通路であった可能性も考えられる。また遺物に関しては、大窯第２段階から志戸呂までの製品が検出されている。16世紀第二四半期から17世紀前後までの遺構であると考えられるが。

近　世

馬場跡（１・２号暗渠）、１・２号ピット列、７・12号溝、３号石列が近世の遺構である。いずれの軸線ともにＮ－１°－Ｅ～Ｎ－３°－Ｅであり、中世段階の軸線とあまり変化は見られない。遺物は１号井戸を除き極めて少なく、馬場・作事小屋などであり、武家屋敷等の居住空間でなかったためであると考えられる。

馬場跡は『楽只堂年録』第173巻の絵図（資料１）に幅六間（10.8ｍ）、長さ百十四間（約205ｍ）が記載されている。現在の甲府駅南口から西側の朝日町へ向かう東西の通り（馬場先小路）から、平和通り橘児童公園前の交差点から西側の青沼町口へ向かう通りまでの間は228ｍあり、若干の誤差はあるがほぼこの区間に馬場が存在したものと考えられる。検出された１・２号暗渠間は10.2ｍあり、水平で非常に硬化した面である。この馬場跡は地山層または中世遺構の直上で確認されたことから17世紀の早い段階に設置されたものと推定される。

18世紀前半の柳沢期には馬場の西側には「供長屋」が位置していた。南北六十五間（117ｍ）、梁間二間半（約4.5ｍ）さらに庇一間（1.8ｍ）がつく建物である。今回の調査では遺構は検出されていないが、馬場先小路から現在の飯田通りの南側まで延びていたものと考えられる。

馬場跡と平行する１・２号ピット列は、１号暗渠を切って設営されている。ピット内からは木片等の痕跡が確認されてはいないが、ほぼ規則的な間隔で一列に並ぶことから、馬場と西側の空間を仕切る柵列と考えられる。ピット列からの遺物の検出がほとんどなく時期の特定は困難ではあるが、江戸期の絵図では馬場の位置の変化は見られないが、馬場の西側は数時期の変遷が見られる。柳沢期には「供長屋」が描かれているが、坂田家所蔵の元文３年（1738）の『甲府城下町絵図』では記載が見られない。享保12年（1727）の裏先手

小路から出火した火災により焼失した可能性も考えられる。しかし19世紀前半の文政年間（1818～1830）の『甲府郭内外邸第図』では、「作事小屋」と書かれ、江戸時代後半の『懐宝甲府絵図』（資料２）には記載がなく、さらに幕末ごろの『甲府城下町絵図』（資料３）には、「大的場・調練場」と変化している。このように絵図の上から、18世紀の柳沢期「普請方定小屋」→18世紀中期「空閑地」→19世紀前期「作事小屋」→19世紀後期「空閑地」→幕末「大的場・調練場」と変遷が窺える。このことからピット列は馬場と西側の空間を区画する柵列である可能性が考えられる。

１号井戸に関しては、調査区で唯一確認された江戸期の井戸である。井戸内からは18～19世紀代の遺物が出土したが、特に甲府城においても検出されている輪違い瓦などの出土が顕著であった。19世紀の甲府勤番支配時代は「作事小屋」の記載が見られることから、この作事小屋に付属した井戸であるものと考えられる。

近　代（明治期）

明治時代に入り調査区一帯には、明治８年から明治45年まで甲府監獄署が置かれる。この時期の遺構としては、１号建物、２・３・12・14号溝、７号土坑、上水施設（３号井戸、４・５号溝）が上げられる。明治期の柳御門側から撮影した写真（資料５）からは、通り際の高い白壁の塀とその内側に南北方向の瓦葺の建物が数棟見られる。また明治時代の地図（資料４）などからも監獄署の建物配置の様子が窺われる。

検出された１号建物は南北方向に細長い建物であり、昭和20年７月６日の空襲で消失したと考えられる１・２号石列の下層に位置することから、明治期の監獄署の建物と推測される。７号土坑は、掘り方内に桶が設置された遺構であり、明治16年の半銭銅貨が出土している。径90cmと大型の桶であることから、排泄施設の可能性が考えられる。また７号土坑南側の２・３号溝は、煉瓦・桟瓦など近代の遺物が検出されていることから監獄署の施設であった可能性が考えられる。

上水施設の遺構は、３号井戸から出土した「監」とかかれた碗などの遺物から、甲府監獄署で使用された上水施設である。甲府上水の歴史は、17世紀前後の浅野氏領有期に開削設置されたとされ、江戸期を通して使用された。上府中上水と下府中上水の二系統が見られる。下府中上水は江戸の初期浅野氏の時代に布設され、上府中上水は19世紀の天保12年（1842）に現在の朝日町の相川から引水した。明治時代に入り明治８年（1876）若尾逸平らにより新甲府用水路が開設されるが、近代上水道が完成するのは大正2年である。検出された上水は勾配を利用し木樋から井戸桶へ引水している。東京都汐留遺跡の仙台藩上屋敷などから同様な遺構が多数検出されている。

木樋と桶を使用した江戸時代の工法は、大正元年（1912）の近代上水道が完成し、翌２年１月給水が開始されるまで甲府では使用されていたことが判明した。

近　代（昭和期）

この時期の遺構は、２・３号建物、１～４号埋甕、２号土坑、１・２号石列である。いずれの遺構からも炭化物及び焼土が検出され、昭和20年７月６日の空襲により焼失した建物である。『昭和16年 市内地図』（資料６）から推定すると、２号建物は「田原屋肉店」か「青柳」の建物部分。３号建物は「開通社」のＬ字状建物北西部に相当し、南北方向の１号石列は建物東辺であり、東西方向の２号石列は建物南辺であると推定される。２号土坑に関しては、炭化物と昭和初期段階の遺物が多く検出されたことから、甲府空襲後の廃棄土坑である可能性が考えられる。また検出された素焼きの埋甕は、１号甕内から便器が検出されていることから、排泄施設に伴う甕であると考えられる。

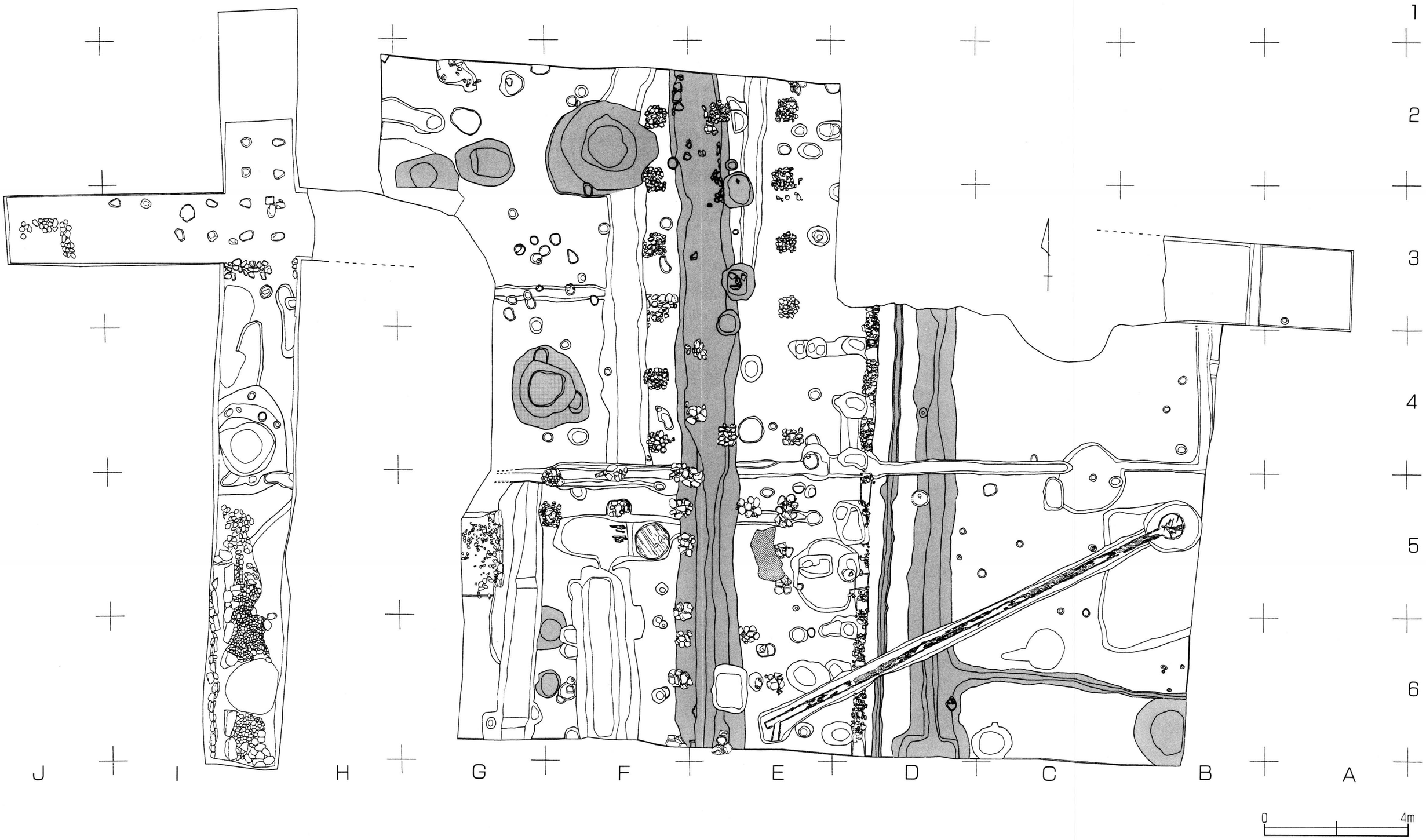


図26 中 世 期 遺 構

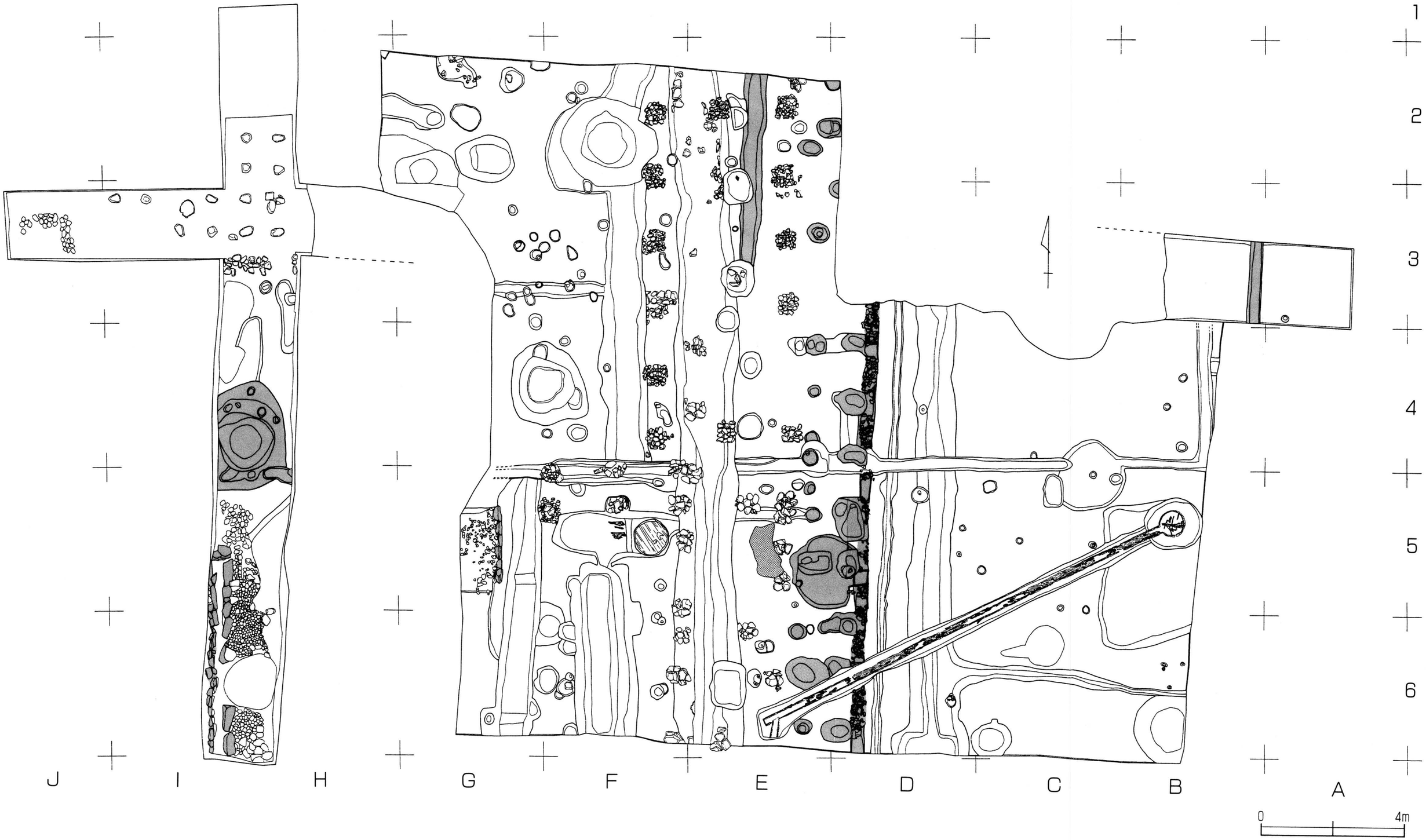


図27 近 世 期 遺 構

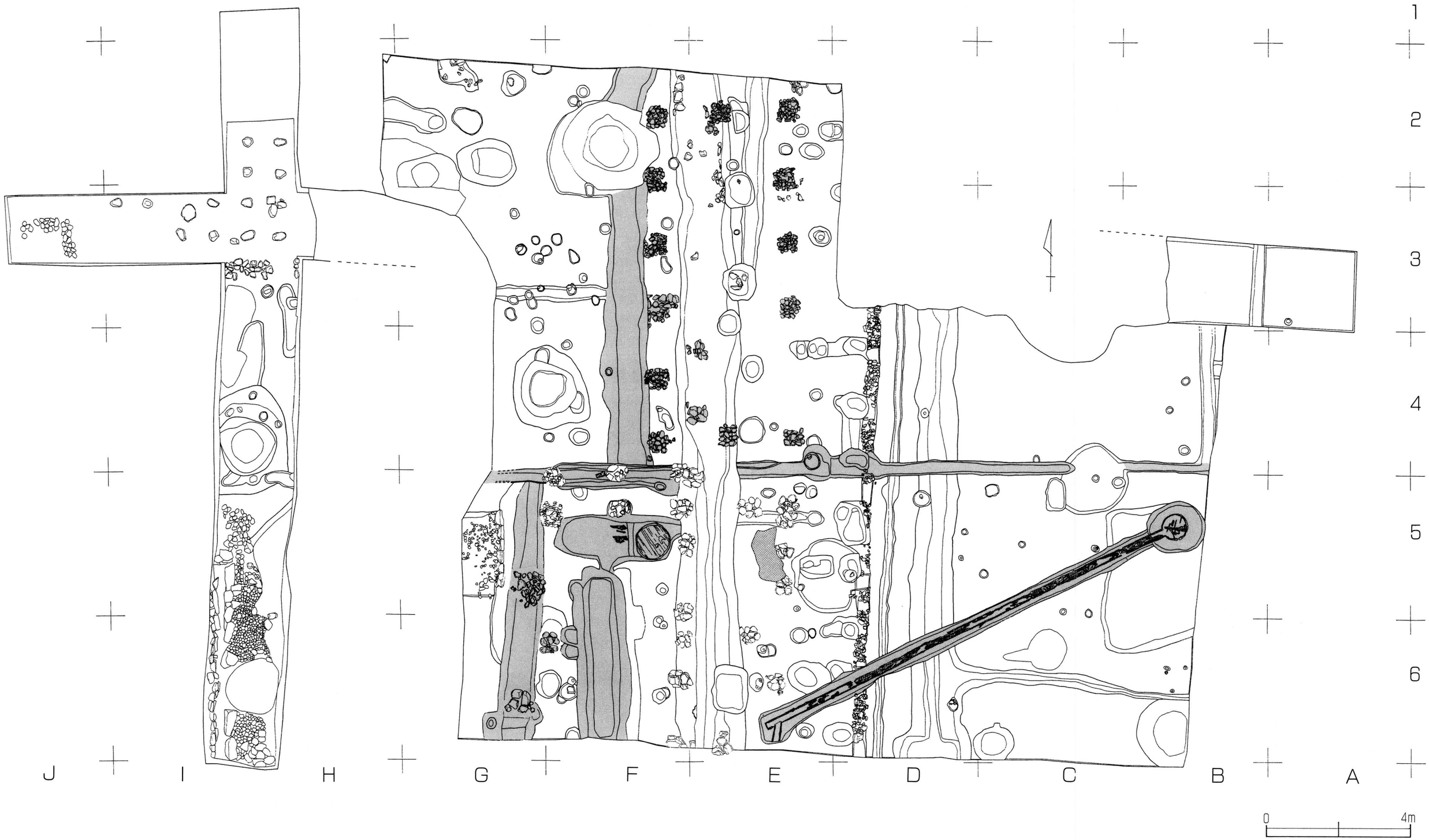


図28 近代（明治期）遺構

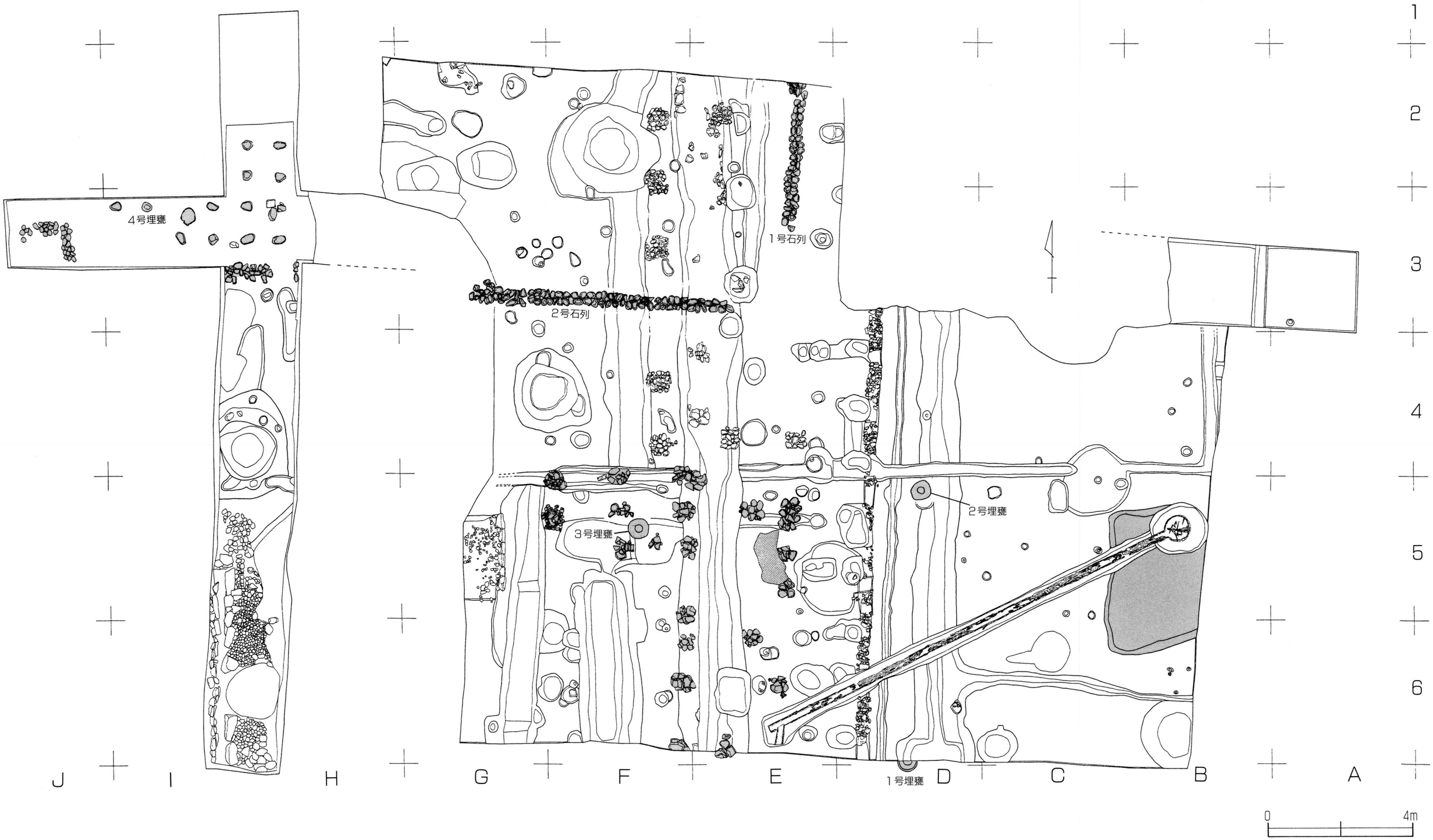
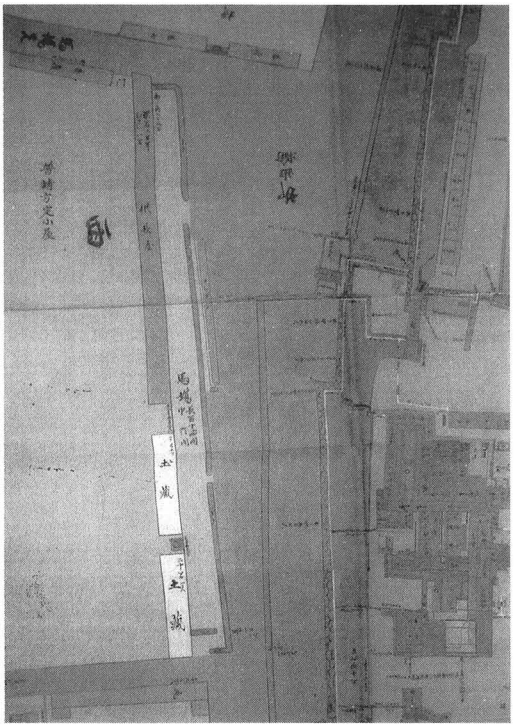


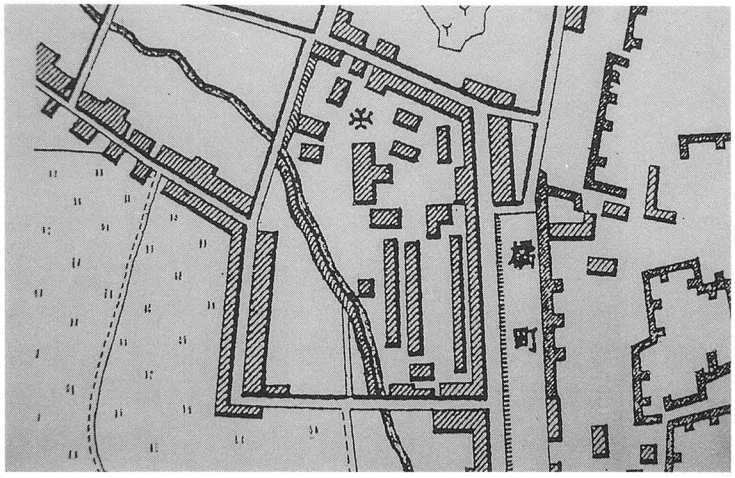
図29 近代（昭和期）遺構

参考・引用文献一覧

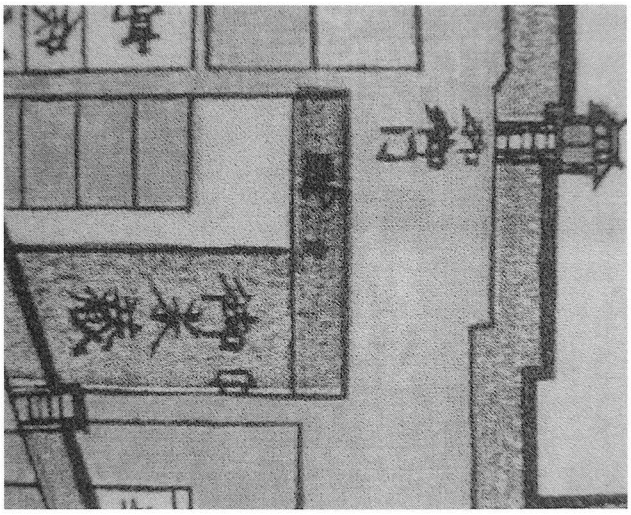
露木　寛　1966　『江戸時代の甲府上水』
萩原三雄編　1991　『山梨県の城』郷土出版社
甲府市水道局水道史編纂委員会　1988　『甲府市水道史　歴史編』
甲府市市史編さん委員会　1991　『甲府市史通史編第１巻　原始・古代・中世』
甲府市市史編さん委員会　1992　『甲府市史通史編第２巻　近世』
甲府市市史編さん委員会　1990　『甲府市史通史編第３巻　近代』
甲府市教育委員会　1992　『甲府市遺跡地図』
平凡社　1995　『山梨県の地名』日本歴史地名大系19
町田市立博物館　1996　『印判手の意匠』近代の絵付け＝型紙摺絵・銅版転写の世界
東京大学埋蔵文化財調査室　1999　『東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（１）』
九州近世陶磁学会　2002　『九州陶磁の編年』
藤澤良祐　2002　「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要　第10輯』
（財）瀬戸市埋蔵文化財センター　2002　『江戸時代の瀬戸窯』
瀬戸市史編纂委員会　1998　『瀬戸市史　陶磁史編　六』
甲府市教育委員会他　2001　『甲府城下町遺跡Ⅰ』
甲府市教育委員会他　2002　『甲府城下町遺跡Ⅱ』
東京都埋蔵文化財センター　2003　『汐留遺跡』』
山梨県教育委員会　1999　『日向町遺跡発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第170集
山梨県教育委員会　2004　『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第215集
山梨県教育委員会　2004　『甲府城下町遺跡（日向町遺跡第２地点)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第220集
山梨県教育委員会　2005　『県指定史跡甲府城跡（上巻）・(下巻)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第222集



(1)「楽只堂年録」第173巻部分
(財団法人 柳沢文庫)



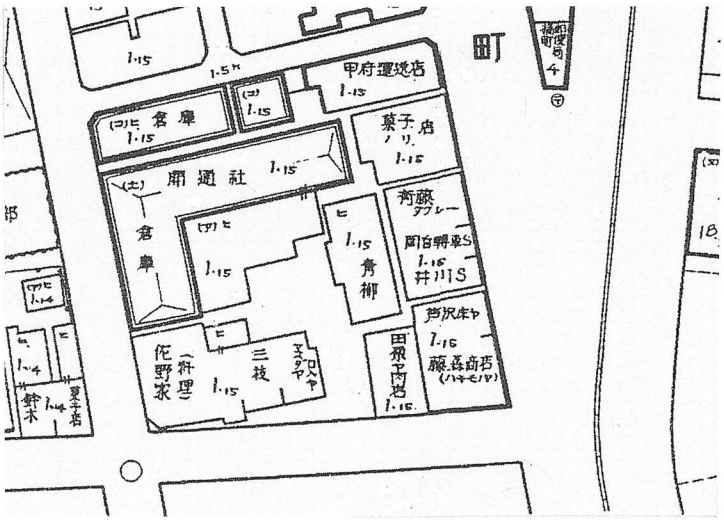
(4) 山梨縣甲府市及著名町村図(明治９年) 部分拡大



(2) 懐宝甲府絵図

(5) 甲府監獄署写真

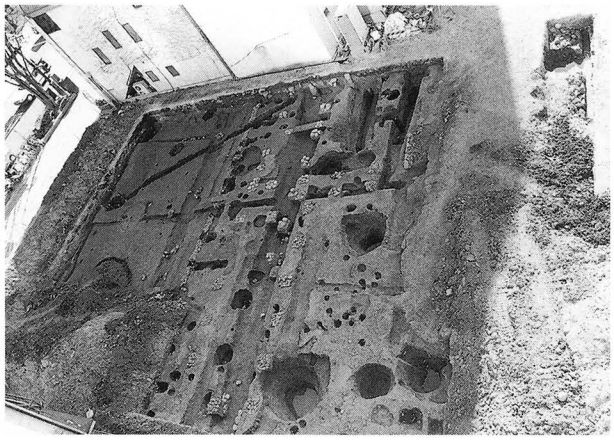
(3) 甲府城下町絵図



(6) 昭和16年市内地図

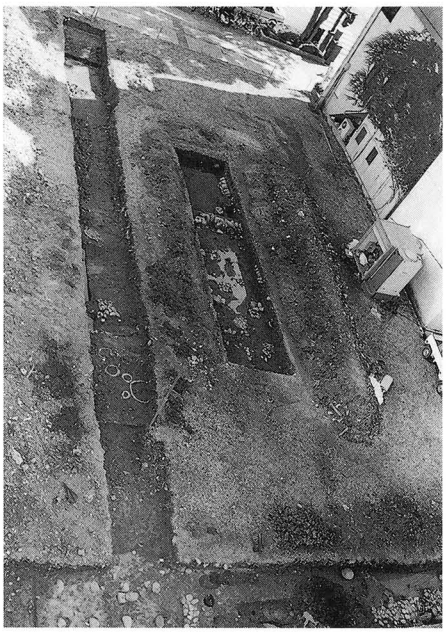
写真・絵図１　調査区古絵図、甲府監獄署写真

写真1　調 査 区 全 景

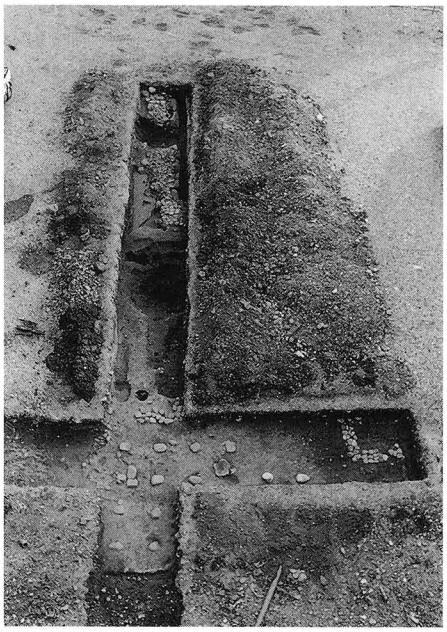


本調査区全景（北西より）

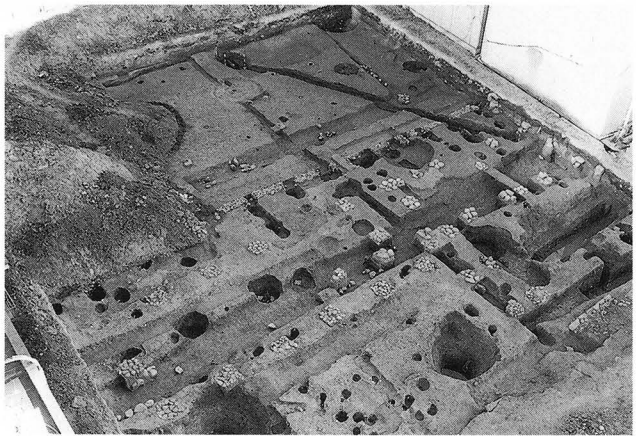
本調査区全景（西より）



試掘調査区
（トレンチ1
トレンチ3）



試掘調査区
（トレンチ2）



1・2号建物

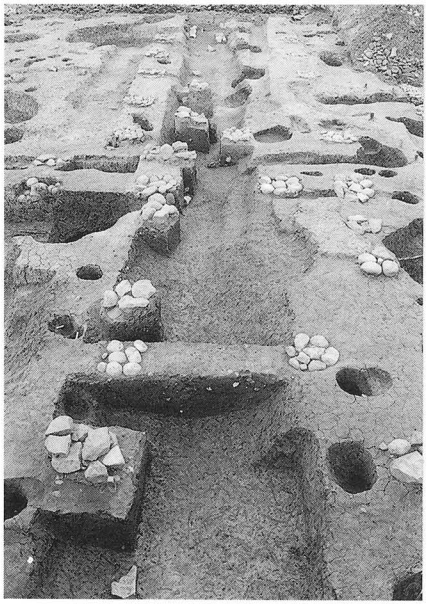
2号建物

1号建物

2号建物

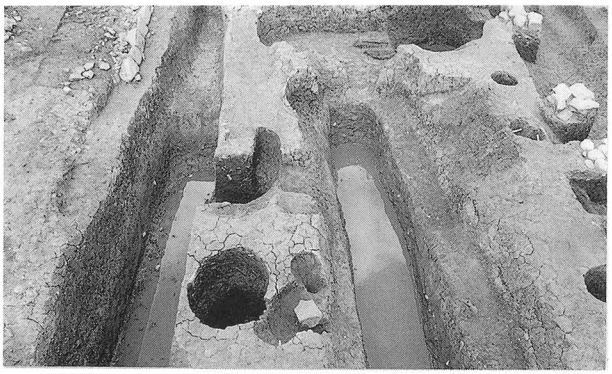
写真2　調査区、試掘調査区、1・2号建物

溝・暗渠・柱穴列・ピット列全景

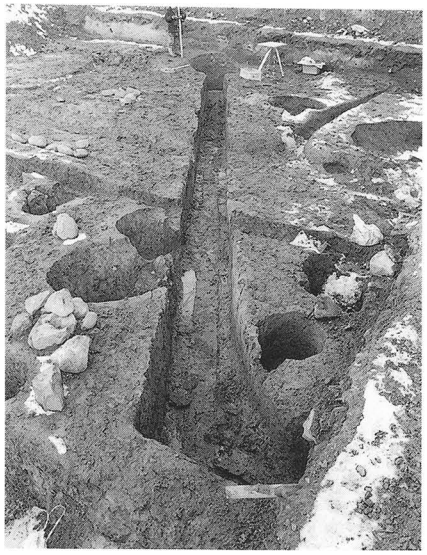


1号溝

4号石列（1号溝内北側）



2・3号溝



4号溝

写真3　溝・暗渠・柱穴列・ピット列全景、溝（1～4号）、4号石列

6 号 溝

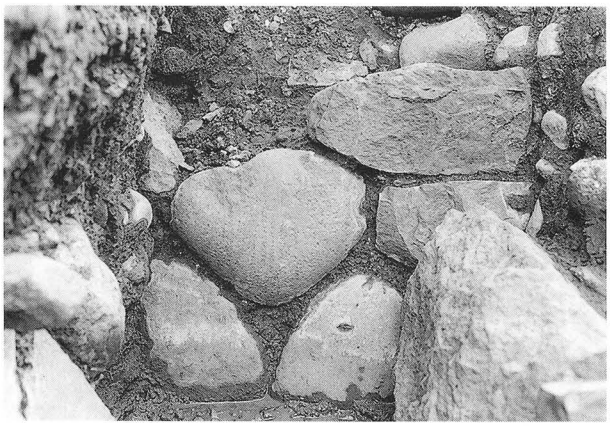
8・9 号 溝

7号溝（南より）

7号溝石積（西側）

7号溝石積（東側）

7 号 溝（東側）



7号溝石積（北側）

13・1・12号溝、柱穴列

1号暗渠、16・17号溝

写真４　溝（１・６～９・12・13・16・17号）、１号暗渠、柱穴列

1 号 井 戸

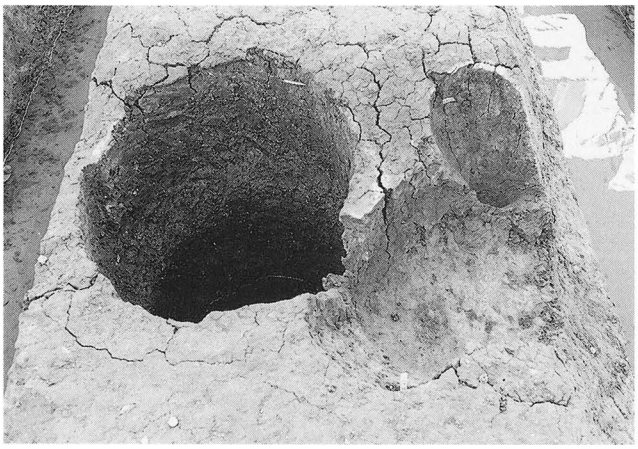
2 号 井 戸

3 号 井 戸

4 号 井 戸

5 号 井 戸

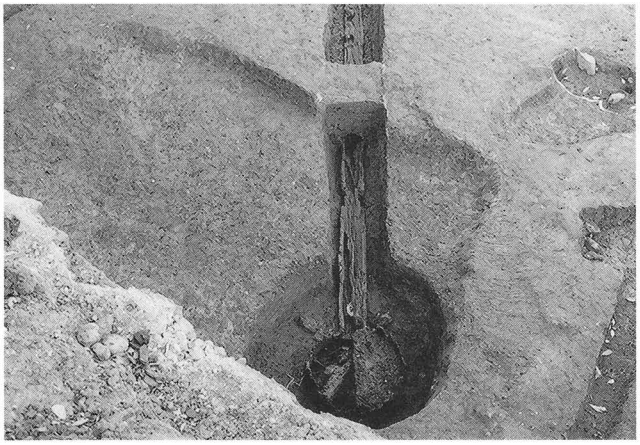
6 号 井 戸



7 号 井 戸

8 号 井 戸

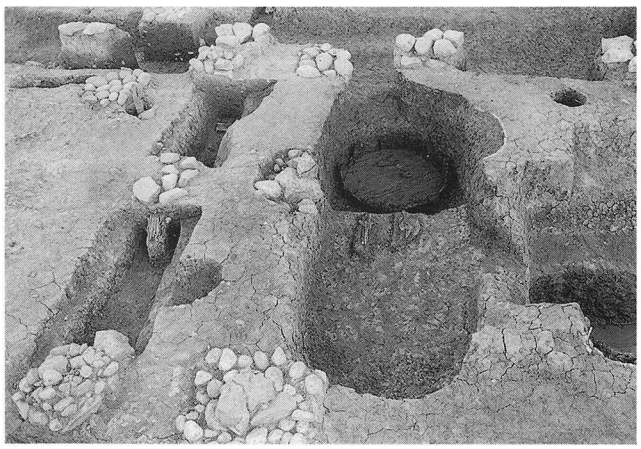
写真5　井　戸（1～8号）



2 号 土 坑

3 号 土 坑

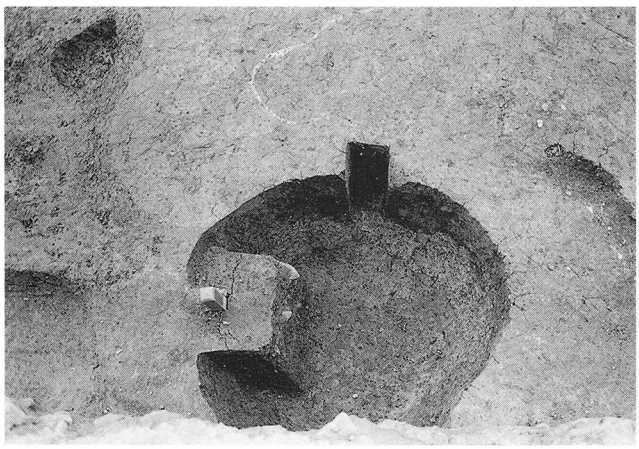
6 号 土 坑



7 号 土 坑

8 号 土 坑

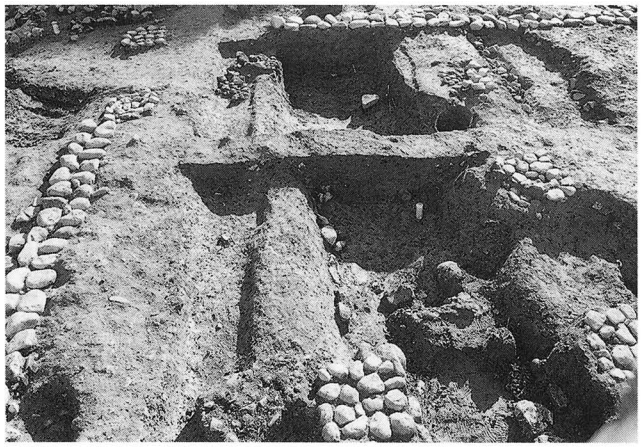
9 号 土 坑



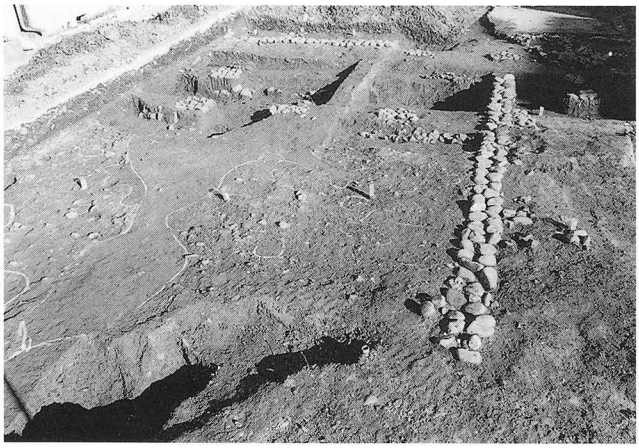
10 号 土 坑

11 号 土 坑

写真6　土　坑（2・3・6～11号）

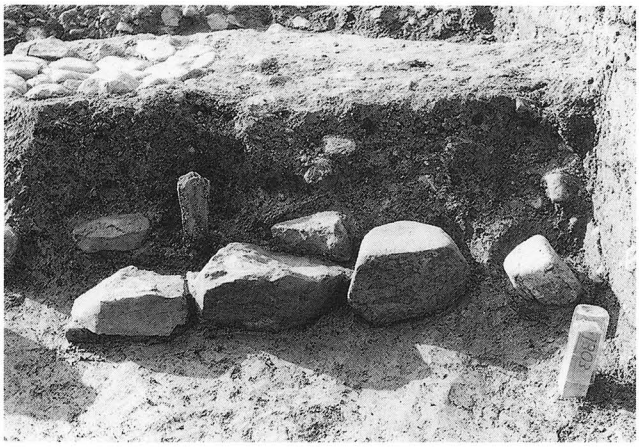


1 号 石 列

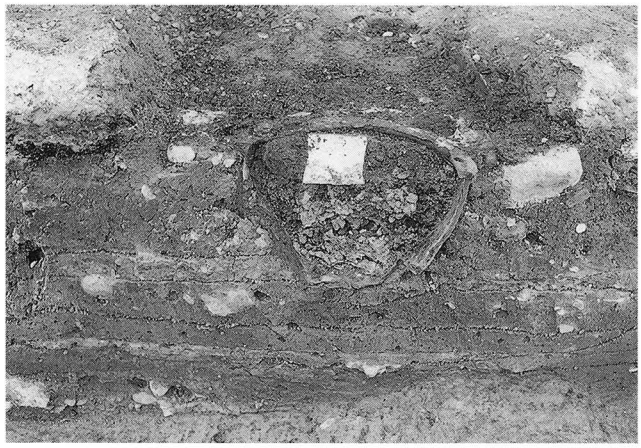


2 号 石 列

3 号 石 列

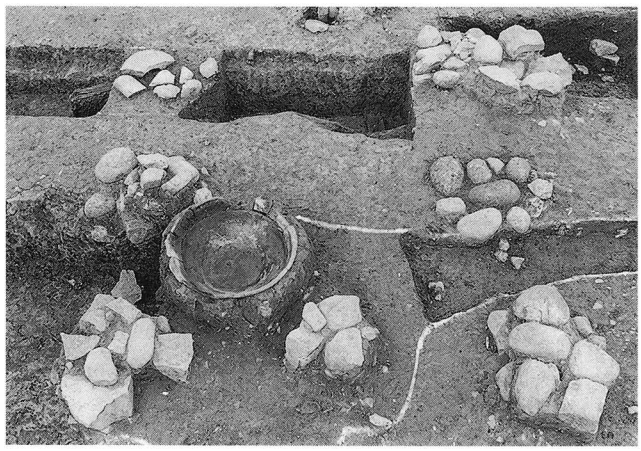


4 号 石 列



1 号 埋 甕

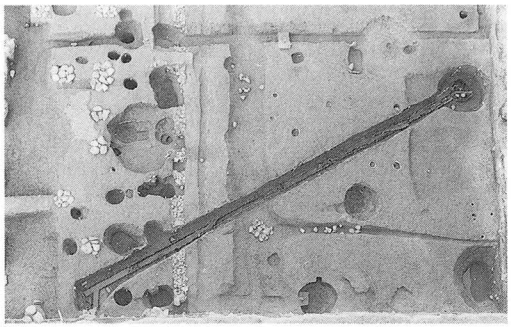
2 号 埋 甕



3 号 埋 甕

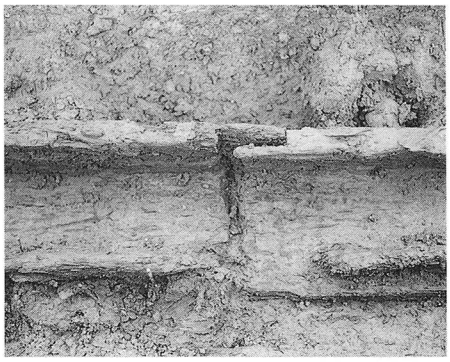
4 号 埋 甕

写真７　石列（１～４号）、埋甕（１～４号）



4・5号溝・3号井戸

4号溝（西より）

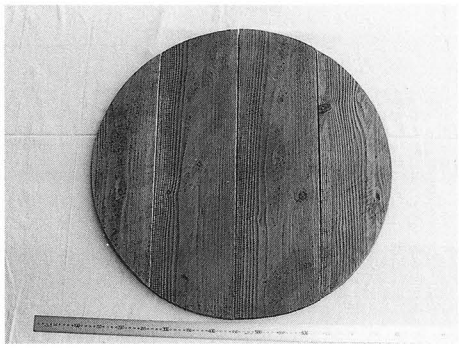


木 樋 接 続 部

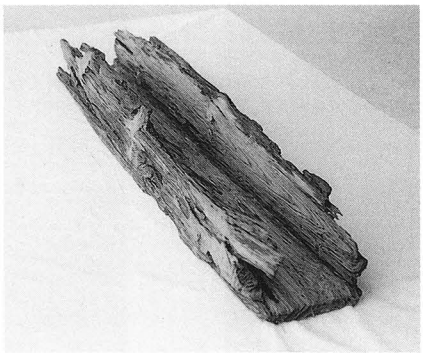
5・6号木樋接続部

3 号 井 戸

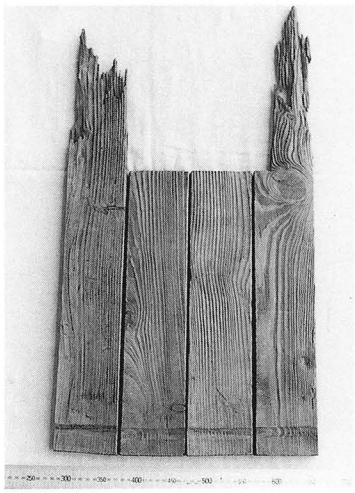
3号井戸桶側板（外面）
〔1号木樋接続部〕



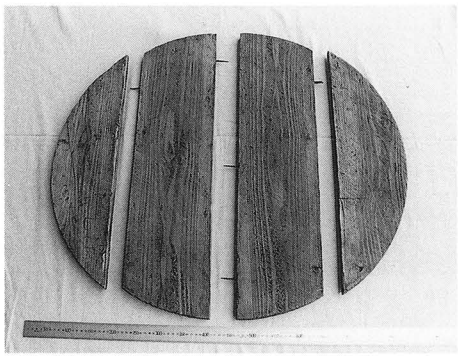
3号井戸桶底板①



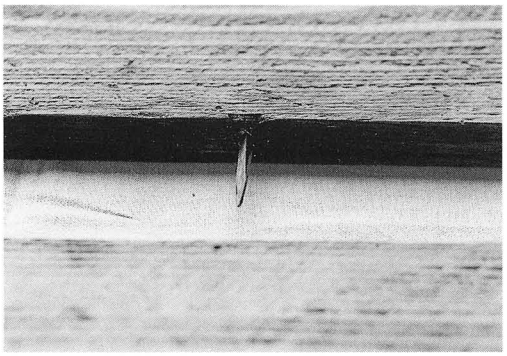
1 号 木 樋



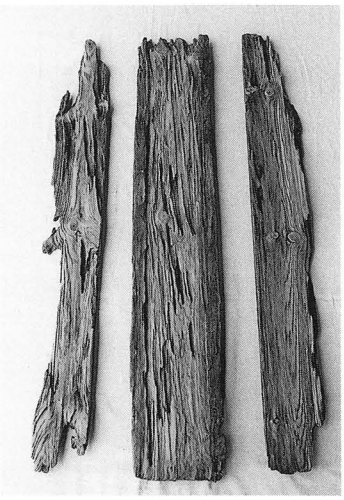
3号井戸桶側板（内面）
〔1号木樋接続部〕



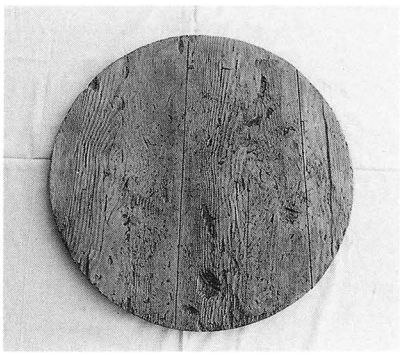
3号井戸桶底板①



3号井戸桶底板①、接続部木釘

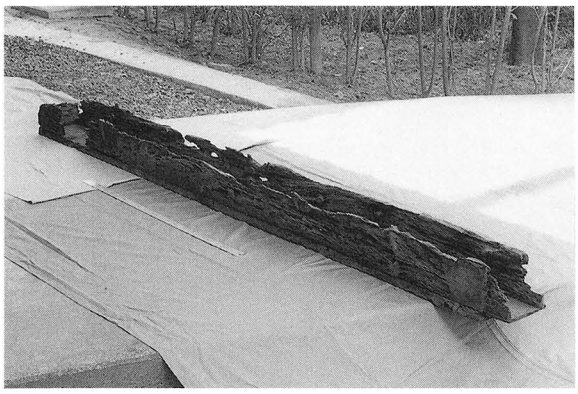


1号木樋展開

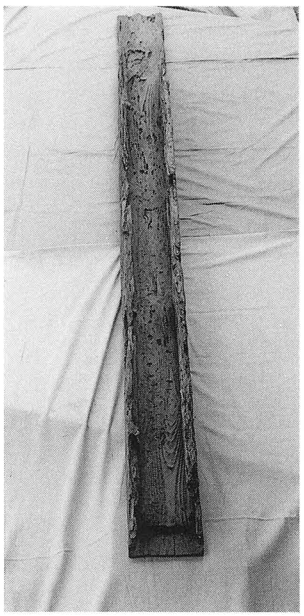


3号井戸桶底板②

写真8　上水路施設(4・5号溝、3号井戸、木樋接続部、3号井戸(側板・底板①・②))、1号木樋



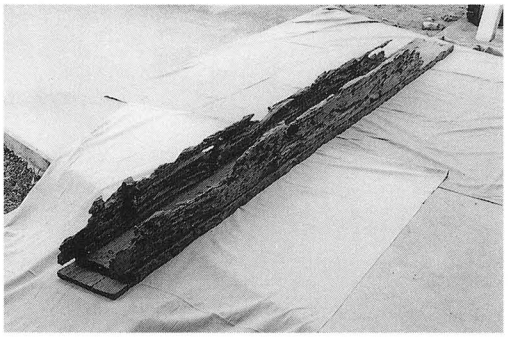
5 号 木 樋



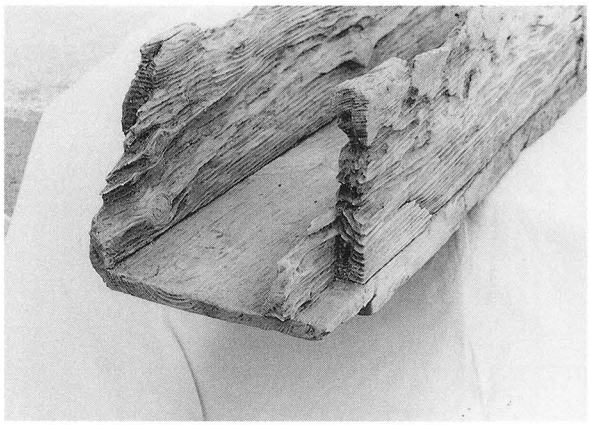
4 号 木 樋

4 号 木 樋 展 開

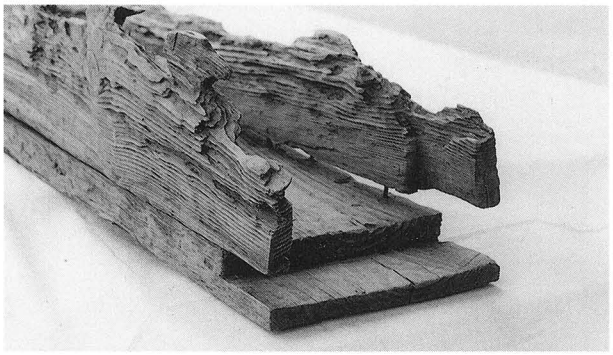
5 号木樋（6 号木樋接続部）



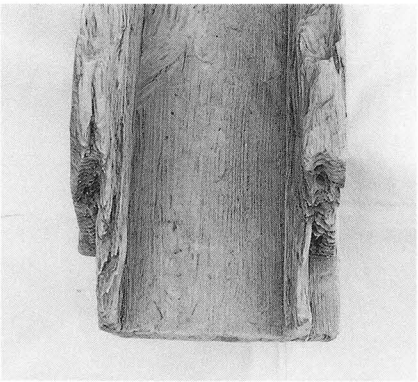
4 号 木 樋



5 号木樋（4 号木樋接続部）

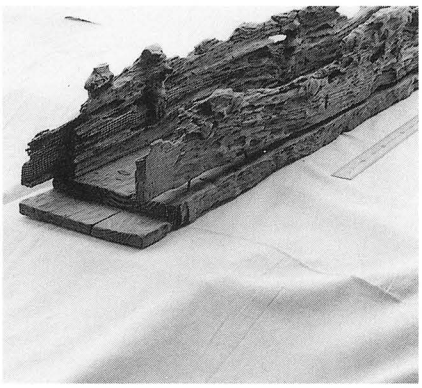


4 号木樋（5 号木樋接続部）



5 号木樋接続部

4 号木樋接続部



4 号木樋接続部

写真9　4 号 木 樋 ・ 5 号 木 樋

写真10　１号溝(1～18)、13号溝(19～20)、２号溝(21～24)、３号溝(25～29)、４号溝(30)、12号溝(31～33)、１号暗渠(34～41)

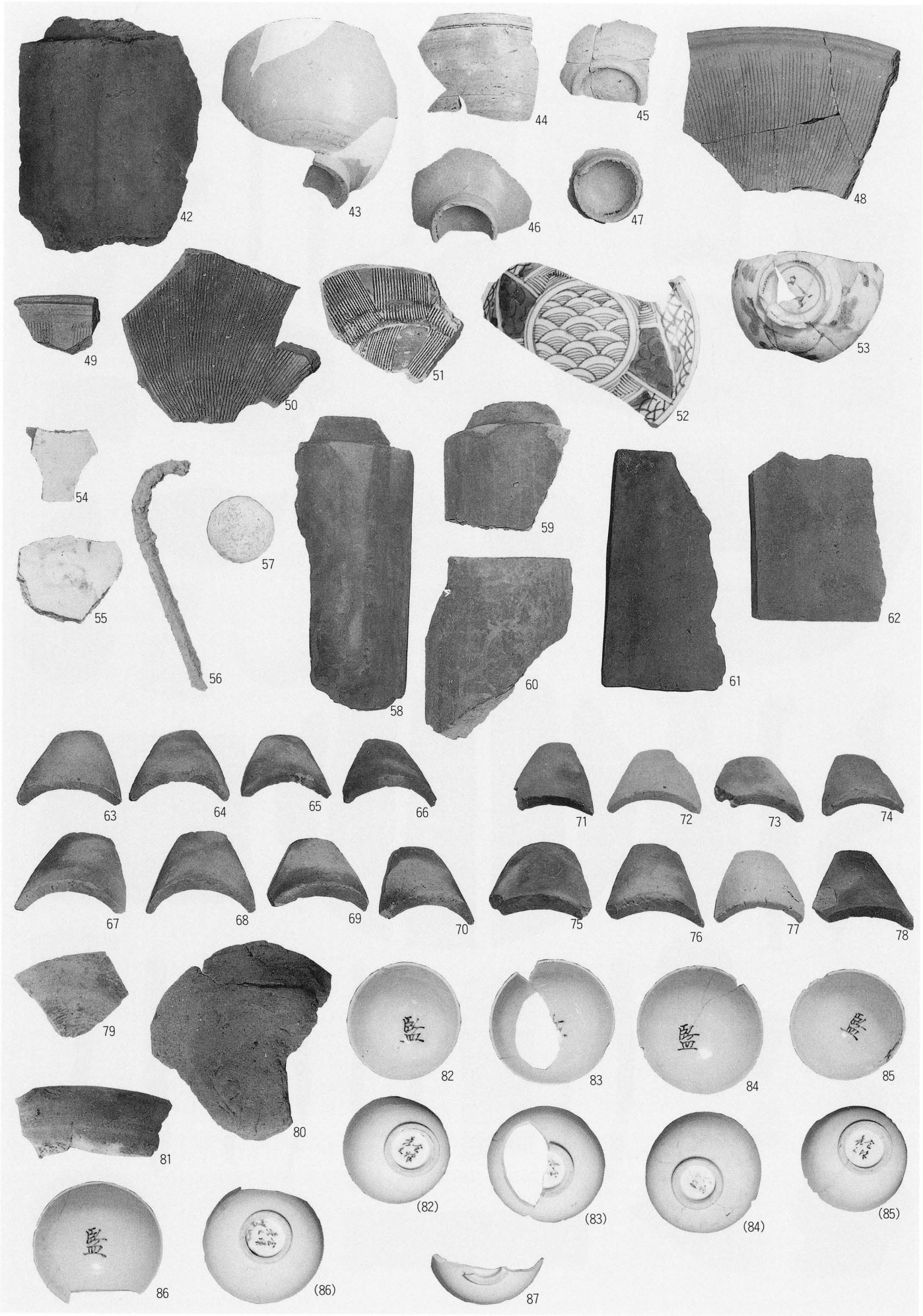


写真11　1号暗渠(42)、1号井戸(43～78)、2号井戸(79～81)、3号井戸(82～87)

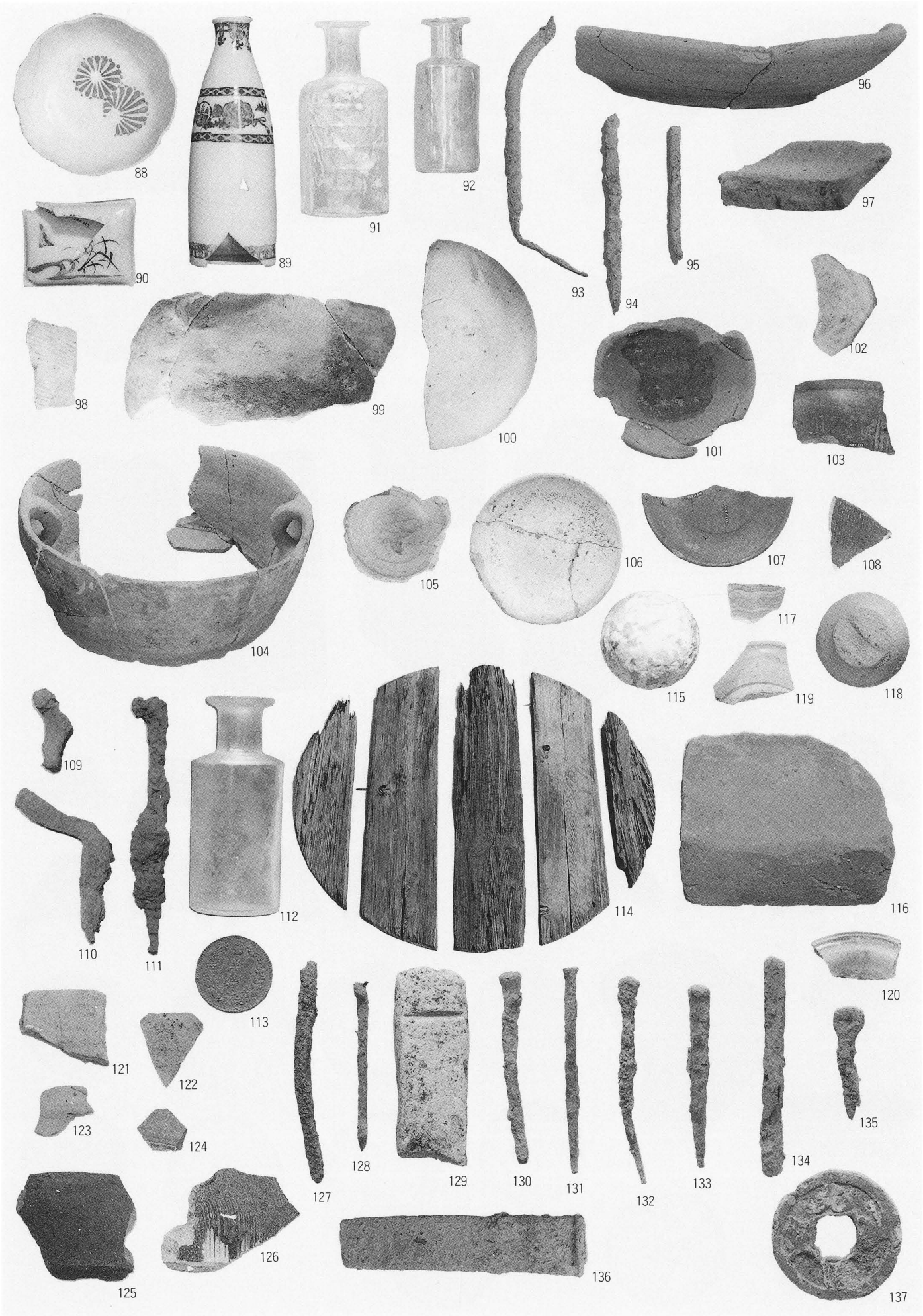


写真12　3号井戸(88～95)、4号井戸(96～97)、5号井戸(98～100)、6号井戸(101～108)、2号土坑(109)、7号土坑(110～114)、8号土坑(115)、11号土坑(116)、ピット10(117)、ピット65(118～119)、ピット40(120)、ピット58(121～122)、ピット25(123)、ピット59(124)、ピット126(125)、ピット88(126)、3号石列(127～137)

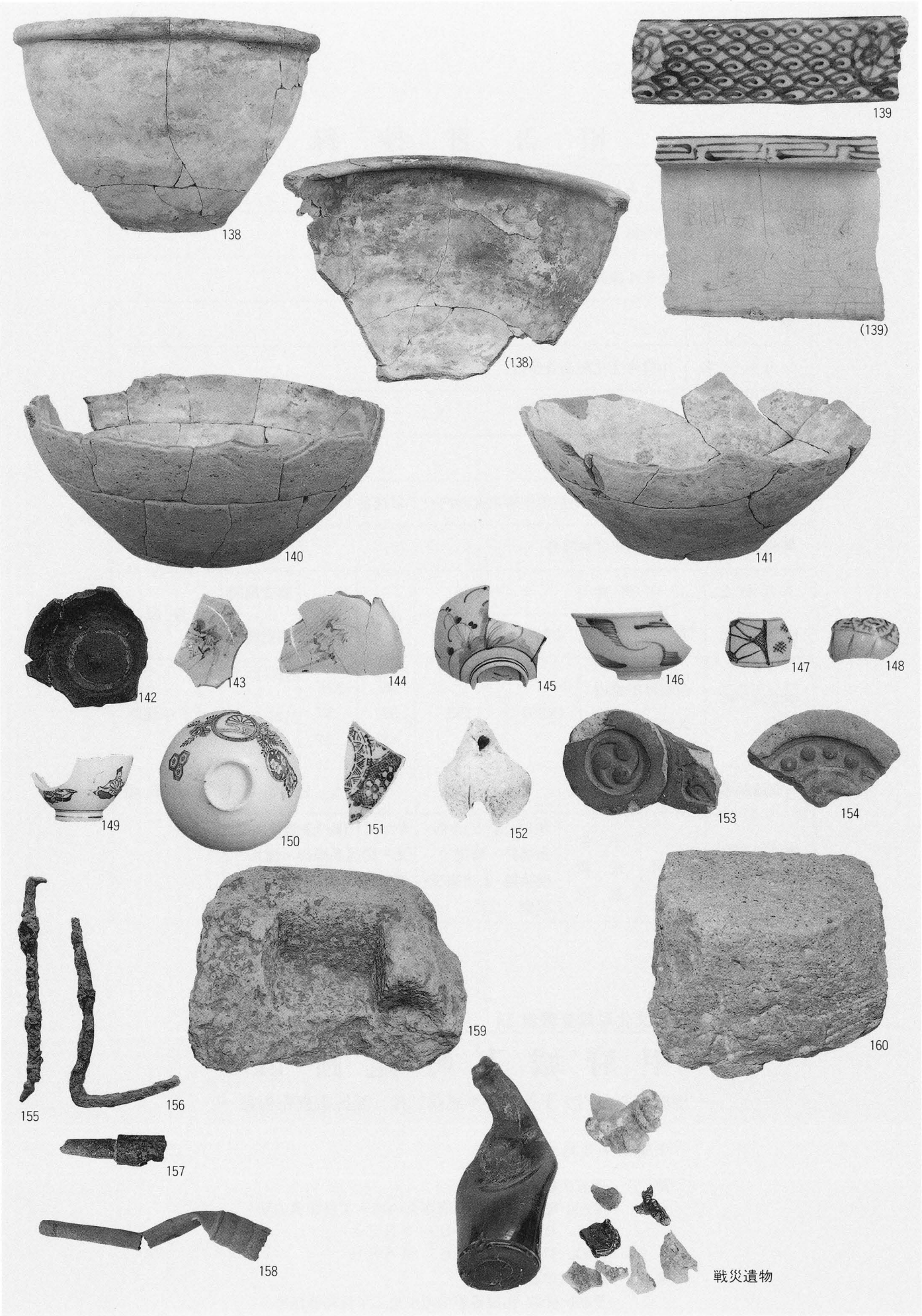


写真13　1号埋甕(138～139)、2号埋甕(140)、3号埋甕(141)、調査区一括(142～160)、戦災遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき
書名	甲府城下町遺跡Ⅲ
副書名	ホテル建設に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	33
編集機関	甲府市教育委員会
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番１号　電話 055(223)7324
発行年月日	平成18年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間 調査面積	調査原因
コウフジョウカマチ 甲府城下町 イセキ 遺跡	ヤマナシケンコウフシ 山梨県甲府市 マルノウチ　チョウメ 丸の内２丁目 21－２	19201	253	35° 39′ 45″	138° 34′ 12″	H16.11.22 ～ H16.12.28 400m²	ホテル建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲府城下町遺跡	城下町	中世 近世 近代	井戸・溝・ピット列・馬場跡・暗渠・建物跡・上水施設・埋甕・土坑	かわらけ・瀬戸美濃系陶器・瓦・肥前系磁器・煉瓦・銭貨・ガラス瓶・釘・木樋・井戸桶	

甲府市文化財調査報告 33

甲府城下町遺跡Ⅲ

―甲府市丸の内２丁目ホテル建設に伴う発掘調査報告書―

平成18年３月31日

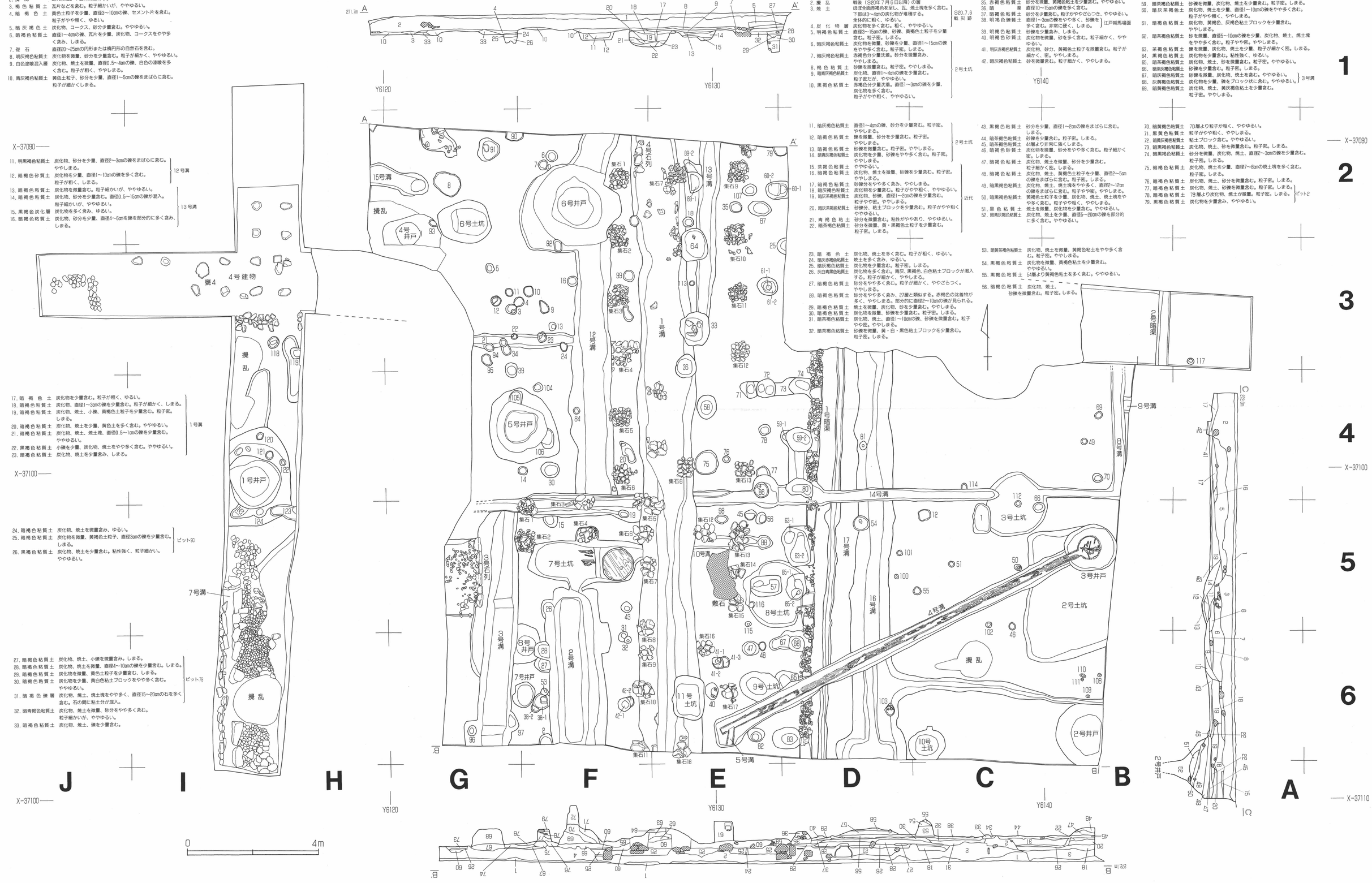
発　行　甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番１号
TEL　０５５（２２３）７３２４
FAX　０５５（２２６）４８８９

印　刷　㈱内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10番18号

甲府城下町遺跡（丸の内2丁目21-2）全体図

〈北壁セクション〉

1. 砂　石
2. 攪　乱　　近代の層。下層に焼土あり。
3. 褐色粘質土　瓦片などを含む。粒子細かいが、ややゆるい。
4. 暗褐色土　黄色土粒子を少量、直径3～10cmの礫、セメント片を含む。粒子がやや粗く、ゆるい。
5. 暗灰褐色土　炭化物、コークス、砂分少量含む。ややゆるい。
6. 暗褐色粘質土　直径1～4cmの礫、瓦片を少量、炭化物、コークスをやや多く含み、しまる。
7. 礎　石　　直径20～25cmの円形または楕円形の自然石を含む。
8. 明灰褐色粘質土　炭化物を微量、砂分を少量含む。粒子が細かく、ややゆるい。
9. 白色漆喰混入層　炭化物、焼土を微量、直径0.5～4cmの礫、白色の漆喰を多く含む。粒子が粗く、やわらしまる。
10. 青灰褐色粘質土　黄色土粒子、砂分を少量、直径1～5cmの礫をまばらに含む。粒子が細かくしまる。

〈東・南壁セクション〉

1. 砂　石　　やわゆるい。
2. 攪　乱　　戦後（S20年7月6日以降）の層
3. 焼　土　　ほぼ全面赤褐色を呈し、瓦、焼土塊を多く含む。下部は3～4cmの炭化物が堆積する。全体的に粗く、ゆるい。（S20.7.6 戦災 跡）
4. 炭化物層　炭化物を多く含む。粗く、ややゆるい。
5. 明褐色粘質土　直径3～15cmの礫、砂礫、黄褐色土粒子を少量含む。粒子密。しまる。
6. 暗灰褐色粘質土　炭化物を微量、砂礫を少量、直径1～15cmの礫をややを多く含む。粒子密。しまる。
7. 暗灰褐色粘質土　赤褐色分少量沈殿。砂分を微量含み、ややしまる。（2号土坑）
8. 褐色粘質土　砂礫を微量含む。粒子密。ややしまる。
9. 暗褐灰褐色粘質土　炭化物、直径1～4cmの礫を少量含む。粒子密だが、ややゆるい。
10. 黒褐色粘質土　赤褐色分少量沈殿。直径1～3cmの礫を少量、炭化物を多く含む。粒子がやや粗く、ややゆるい。
11. 暗灰褐色粘質土　直径1～4cmの礫、砂分を少量含む。粒子密。ややしまる。（2号土坑）
12. 暗褐色粘質土　礫を微量、砂分を少量含む。粒子密。ややしまる。
13. 暗褐色粘質土　砂礫を微量含む。粒子密。やしまる。
14. 暗黄灰褐色粘質土　炭化物を少量、砂礫をやや多く含む。粒子密。やしまる。
15. 茶褐色粘質土　ややゆるい。（近代）
16. 暗褐色粘質土　炭化物、焼土を微量、砂礫を少量含む。粒子密。やしまる。
17. 暗褐色粘質土　砂礫をやや多く含み、ややしまる。
18. 暗灰褐色粘質土　炭化物を少量含む。粒子がやや粗、ややゆるい。
19. 暗灰褐色粘質土　炭化物、焼土、直径1～2cmの礫を少量含む。粒子密。やしまる。
20. 暗灰茶褐色粘質土　砂礫、粘土ブロックを少量含む。粒子がやや粗くややゆるい。
21. 青褐色粘質土　砂分を微量含む。粘性がややあり、ややゆるい。
22. 暗茶褐色粘質土　砂分を微量、黄・黒褐色土粒子を少量含む。粒子密。しまる。
23. 暗褐色土　炭化物、焼土を多く含む。粒子が粗く、ゆるい。
24. 暗灰赤褐色粘質土　焼土を多く含み、ゆるい。
25. 暗灰褐色粘質土　炭化物を少量含む。粒子密。しまる。
26. 灰白褐黒色粘質土　炭化物を多く含む。黄灰、黒褐色、白色粘土ブロックが混入する。粒子が細かく、ややしまる。
27. 暗褐色粘質土　砂分をやや多く含む。粒子が細かく、ややざらつく。ややしまる。
28. 暗褐色粘質土　砂分をやや多く含み、27層と類似する。赤褐色の沈澱物が多く、ややしまる。部分的に直径2～10cmの礫が見られる。
29. 暗褐色粘質土　焼土を微量、炭化物、砂を少量含む。ややしまる。
30. 暗褐色粘質土　炭化物を微量、砂礫を少量含む。粒子密。しまる。
31. 暗茶褐色粘質土　炭化物、焼土、直径1～10cmの礫、砂礫を微量含む。粒子やや密。ややしまる。
32. 暗茶褐色粘質土　砂礫を微量、黄・白・黒色粘土ブロックを少量含む。粒子密。しまる。
33. 赤褐色土　焼土をやや多く含み、直径5～8cmの礫がまばらに見られる。
34. 明灰青褐色土　砂分を少量含む。粒子細かく、ややゆるい。
35. 赤褐色粘質土　砂分を微量、黄褐色粘土を少量含む。ややゆるい。
36. 暗　渠　　直径10～15cmの礫を多く含む。
37. 暗褐色粘質土　砂分を少量含む。粒子がややざらつき、ややゆるい。
38. 明褐色礫層　直径1～3cmの礫をやや多く、砂礫を多く含む。非常に硬く、しまる。（江戸期馬場面）
39. 明褐色粘質土　砂礫を少量含み、しまる。
40. 明褐色砂質土　炭化物を微量、砂を多く含む。粒子細かく、ややゆるい。
41. 明灰赤褐色粘質土　炭化物、砂分、黄褐色土粒子を微量含む。粒子が細かく、密。ややしまる。
42. 暗灰褐色粘質土　砂を微量含む。粒子細かく、ややしまる。
43. 黒褐色粘質土　砂分を少量、直径1～2cmの礫をまばらに含む。しまる。
44. 暗茶褐色粘質土　砂礫を少量含む。粒子密。しまる。
45. 暗茶褐色粘質土　44層より非常に強くしまる。
46. 暗褐色砂質土　炭化物を微量、砂分をやや多く含む。粒子細かく密。しまる。
47. 暗褐色粘質土　炭化物、焼土を微量、砂分を少量含む。粒子細かく密。しまる。
48. 暗褐色粘質土　炭化物、焼土、黄褐色土粒子を少量、直径2～5cmの礫をまばらに含む。粒子密。しまる。
49. 暗黒褐色粘質土　炭化物、焼土、焼土塊をやや多く、直径2～12cmの礫をまばらに含む。粒子やや密。ややしまる。
50. 暗黒褐色粘質土　黄褐色土粒子を少量、炭化物、焼土、焼土塊をやや多く含む。粒子やや粗く、ややしまる。
51. 黒色粘質土　焼土を微量、炭化物を少量含む。ややゆるい。
52. 暗青灰褐色粘質土　炭化物、焼土を少量、直径5～20cmの礫を部分的に多く含む。ややゆるい。
53. 暗黄茶褐色粘質土　炭化物、焼土を微量、黄褐色粘土をやや多く含む。粒子密。ややしまる。
54. 黒褐色粘質土　炭化物を微量、黄褐色粘土を少量含む。ややゆるい。
55. 黒褐色粘質土　54層より黄褐色粘土を多く含む。ややゆるい。
56. 暗褐色粘質土　炭化物、焼土、砂礫を微量含む。粒子密。しまる。
57. 暗黒茶褐色粘質土　炭化物、焼土を少量、砂礫を多く、直径5～12cmの礫をまばらに含む。しまる。
58. 黒褐色粘質土　炭化物を微量含む。ややしまる。
59. 暗茶褐色粘質土　砂礫を微量、炭化物、焼土を少量含む。粒子密。しまる。
60. 暗灰茶褐色土　炭化物、焼土を少量、直径1～10cmの礫をやや多く含む。粒子がやや粗く、ややしまる。
61. 暗褐色粘質土　炭化物、黄褐色、灰褐色粘土ブロックを少量含む。ややしまる。
62. 暗茶褐色粘質土　砂を微量、直径5～10cmの礫を少量、炭化物、焼土、焼土塊をやや多く含む。粒子やや密。ややしまる。
63. 茶褐色粘質土　礫を微量、炭化物、焼土を少量、粒子が細かく密。しまる。
64. 黒褐色粘質土　炭化物を少量含む。粘性強く、ゆるい。
65. 暗茶褐色粘質土　炭化物、焼土、砂を微量含む。粒子密。ややゆるい。
66. 暗茶灰褐色粘質土　砂礫を少量含む。粒子密。しまる。
67. 暗灰褐色粘質土　砂礫を微量、炭化物、焼土を含む。ややゆるい。（3号溝）
68. 灰黄褐色粘質土　炭化物を少量、礫をブロック状に含む。やゆるいし。
69. 暗黄褐色粘質土　炭化物、焼土、黄灰褐色粘土を少量含む。粒子密。やしまる。
70. 暗黄褐色粘質土　70層より粒子が粗く、ややゆるい。
71. 黒黄色粘質土　粒子がやや粗く、ややしまる。
72. 暗黄灰褐色粘質土　粘土ブロック含む。ややゆるい。
73. 暗黒褐色粘質土　炭化物、焼土、砂を微量含む。粒子密。しまる。
74. 暗黒褐色粘質土　砂分を微量、炭化物、焼土、直径2～3cmの礫を少量含む。粒子密。しまる。
75. 暗褐色粘質土　炭化物、焼土を少量、直径7～8cmの焼土塊を多く含む。粒子密。しまる。
76. 暗褐色粘質土　炭化物、焼土、砂分を微量含む。粒子密。しまる。
77. 暗褐色粘質土　炭化物、焼土、砂礫を微量含む。粒子密。しまる。
78. 暗褐色粘質土　78層より炭化物、焼土が微量。粒子密。しまる。（ピット2）
79. 黒褐色粘質土　炭化物を少量含み、ややゆるいし。